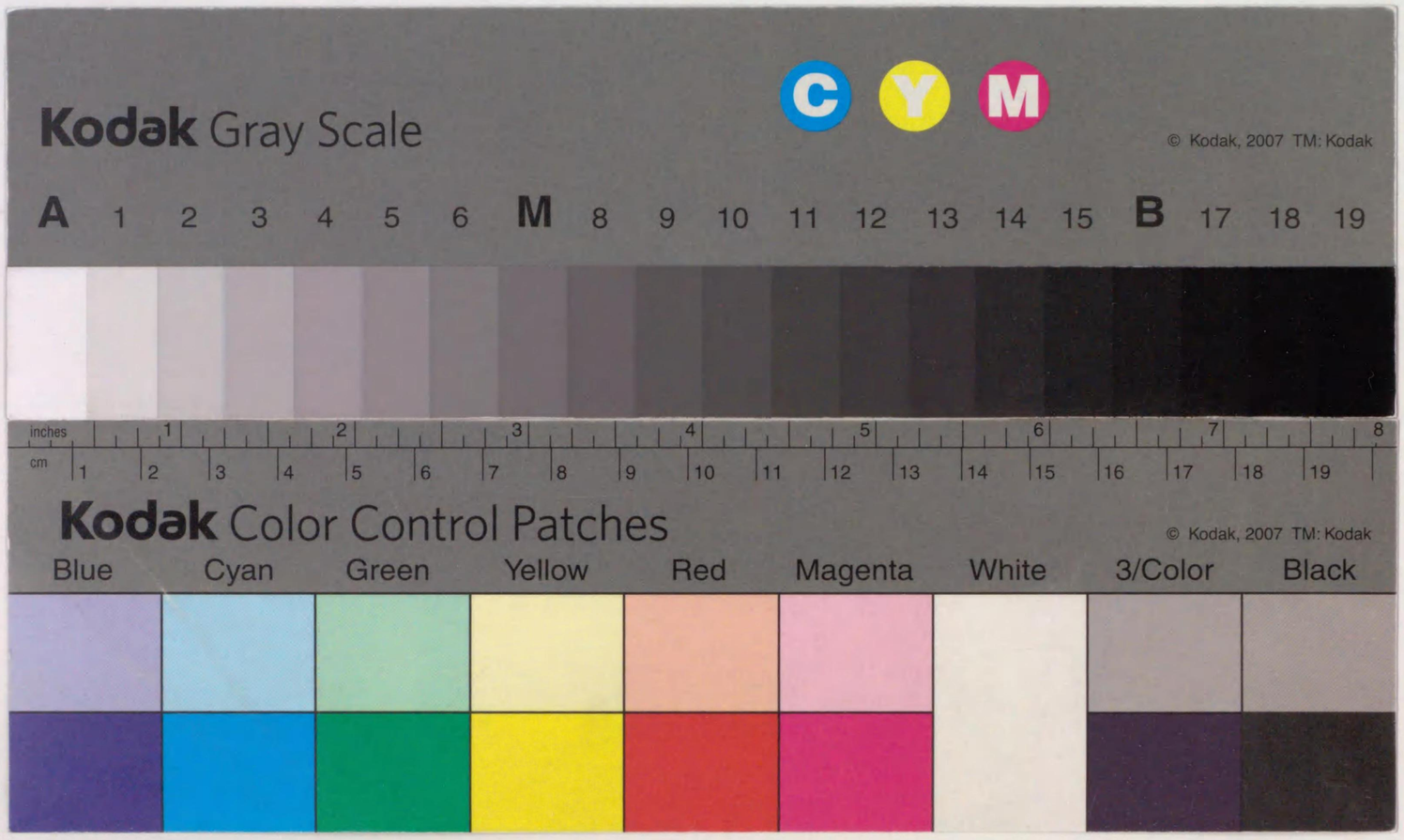

676-12
12005015764 47
76
.2

テトIX-24

宮内省圖書寮

伊藤博文編
尾佐竹猛
平塚篤校訂

秘書類纂

法制關係資料 上卷

秘書類纂刊行會藏版

昭和九・一〇・四

676-12

凡例

一、外交篇下卷が未だ上梓の運びに至らざる間に、本卷の發售を見るに至つた事は、外交篇が其校訂上に尠からざる手數を要した事と、其の內容よりして特に愼重精密を要するが爲めである。素より目下着々進行中であるから、法制篇下卷の上梓に先ち之を公に爲し得べしとは校訂者の確く信ずる所である。

二、本卷は原本には單に「法令」と誌され、全部十五卷に收錄せられたものである。原本には條文が數多く收められて居たが、中には一般に流布した普遍なるものも少くなかつた。本書は煩雜を避くるの意味を以て、餘りに普遍なるものは之を省略する事にした。

三、本卷中には其の內容に於て或は憲法に關し、或は財政に涉り、軍事に屬するものもあるが、法制編纂上不可分の關係にあつた所から、故公は之を一律に「法令」として纂輯せられたものであらう。校訂者は一意原本に忠實ならんことを期し、凡て原本其儘にした。

四、祕書類纂の刊行は本卷を以て第七卷に達した。爾後は突發的故障の生ぜぬ限り毎月一卷若くは二ヶ月に三卷の豫定を以て出來得る限り速かに全卷の刊行を完了したいと思ふ。

昭和九年九月

校訂者　平塚篤識

祕書類纂 法制關係資料 上卷

目次

法律命令意見書……ヘルマン・ロエスレル稿……一
勅令案ノ法理……伊東巳代治譯……一
モスセ氏トノ問答……井上毅……一七
法律命令ノ類別ニ付意見……井上毅……四一
大木寺島兩閣下ニ寄スル書……井上毅……四五
公文式……井上毅……四八
日本政府ノ會計年度……トレンチ……五五
裁判所構成法案ニ對スル意見書類……井上毅……五九
檢察官竝ニ警察官ノ弊害……井上毅……八五
憲法上注意スベキ兩三點……井上毅……八九
獄正改良意見……伊東巳代治……九六

民法ニ付ロエスレル氏意見……二一五
日本民事上ノ法律幷慣習ニ關スル疑問……一二三
ルードルフ氏答議……一二九
長谷川喬復命埃及國立會裁判所實況慣習取調書……一八二
君主及國會ノ法律的地位……二四一
第一款　君主……二四一
第二款　國會……二四六
集會權ノ整理ニ關スル法律上ノ規定……二六四
登記條例創定ノ儀ニ付意見書……二七六
法典（民法商法）ノ編纂及其公布……二八二
新法典非難ノ批評……ボアソナード……二九九
商法ノ規定ナキヨリ生ズル弊害……三五四
元老院商法施行延期ヲ請フノ意見書ニ對スル意見……三六二
商法ノ實施ヲ要スル意見……三六七
法典（民法商法）ト不二麻呂……三八五

法典問題ニ關スル意見……尾崎三郎……四〇四
カークード氏日本商法第二百十九條ニ關スル問題ニ付テノ意見……四〇八
日本法律編成並英文ニ飜譯スル件ニ付外務大臣宣言案……四二一
歸化法問答……四二三
新商法ニ付キ内閣總理大臣閣下ニ奉呈スル意見書……カークード……四三九
命令ニ關スル質問ニ答フ……モス……四六一
國民權内外人差別ニ付ロエスレル氏モスセ氏意見……セ……四七三
十月、十一月間ロエスレル氏答議……四九四
國民身分法……井上毅……五二四
修正案帝國臣民身分法……五四一
帝國臣民身分法參照……五四八
國民身分法樞密院修正……五五七
日本國籍法……五五八
歸化法制度ノ理由……五六五
ボアソナード氏日本帝國刑法改正ノ草案並說明書緒言……五六八

日本刑法草案第一篇總則ニ對スル意見……五七四

目次了

祕書類纂

法制關係資料　上卷

法律命令意見書

ヘルマン・ロエスレル稿
伊東巳代治譯

第一通　說

本案ヲ査閲スルニ法律命令（ロー・アルドナンス）ノ發布其他公文ノ定式ニ關スル諸程ヲ敍述シ、其綱目ヲ分テ第一、法律、命令式、第二、布告式、第三、公文式ト爲セリ。蓋シ本案ノ主眼トスル所專ラ政府文書上ノ施措ヲシテ法律上ノ效力ヲ有セシムルニ必要ナル條規ヲ定メントスルニ在ルヲ以テ、其綱ヲ分チ

條ヲ設クルヤ、一ニ法律命令ヲ起草シ、及之ヲ提出スルノ權、即チ獨逸ニ所謂發議權ヲ論ジ、二ニ法律命令案ヲ決裁スルノ權ヲ論ジ。三ニ法律命令ヲ制定發表スルノ定式ヲ論ゼリ。

前記ノ事項ニ付逐條載スル所ヲ審案スルニ、立條頗ル穩當、理義精確ニシテ之ヲ歐洲各國ニ施行スル立憲ノ義ニ照スモ更ニ間然スル所ナシ。要スルニ本案ハ專ラ法律命令ヲ發表スルニ付テ其手續ヲ有效ナラシメ、猶ホ之ヲ約言スレバ政府ノ法律命令ヲ發布スルノ權ニ付テ其外形上ノ規約（エキストルナル コンジヨン）ヲ定メ、其本件ノ性質ニ涉ラザルガ故ニ、寧ロ本案ヲ以テ方式ニ關スルノ法案ナリト認ムルコソ妥當ナリト思惟スルナリ。是ヲ以テ余ハ前記ノ三綱ヲ合シテ本案ニ列敍スルニ付、其敍次ノ體ニ關シテ更ニ異議ノ容ルベキヲ發見セザルナリ。

夫レ立憲ノ義ニ於テハ立法ト行政トヲ問ハズ國皇親シク萬機ヲ統攬スルニ在リト雖モ、中外ノ事盤錯多端、百般ノ經畫施措ヲ擧テ悉ク國皇ノ親裁ヲ仰ガンコト洵ニ難ク、加フルニ庶政ノ當否ニ付テハ其責ニ任ズルノ人ヲ得ベキ要アルガ故ニ、國皇萬機統攬ノ大權ハ國皇ノ信任ニ因リ、大臣ノ位ニ在ル者ノ輔弼ヲ待テ始メテ之ヲ施行スベキナリ。是ヲ以テ庶政國皇ノ聽覽ヲ仰グベシト雖モ、其政權ノ施行ニ至テハ國皇ト大臣トノ間ニ自ラ配分スル所アリト云ハザルベカラズ。

法律命令ヲ發布スルノ事タル、政權施行ノ內ニ在リテ最モ重要ノ部ヲ占ムルモノニシテ、之ヲ前ニ述ベタル立憲ノ義ニ照ストキハ、則チ國皇ト大臣トノ聯合協力其宜キヲ得テ施行スベキモノタリ。今ヤ本案ノ載スル所ヲ觀ルニ、其冒頭ニ於テ先ヅ法律命令ハ裁可ノ後之ヲ發布スベキノ大則ヲ揭ゲ、其次條ニ於テ法律命令ハ大臣之ヲ起草シテ上奏裁可ヲ請フト云フノ明條ヲ設ケタリ。是ニ由テ之ヲ觀レバ法律命令ノ裁制權ハ國皇ニ歸シ、法律命令ノ發議權ハ大臣ニ屬スルモノナルコト瞭然タリ。是レ邦國主權ノ存スル所、及大臣立憲上ノ地步ヨリ論ズルモ建國ノ大義ニ協ヒ、更ニ容喙スベキ所ナシ。

然リト雖モ論者或ハ議セン。國皇ハ豫メ大臣ノ輔贊ヲ得ルニ非ザレバ法律命令ノ案ヲ發議スルノ權ナキカト。國皇ニ發議權アルハ勿論ノ事ナリト雖ドモ、唯之ヲ施行スルニ至テ必ズシモ大臣ノ副署ヲ要スルヲ以テ、其時ニ臨ミ果シテ大臣ノ輔贊ヲ得ルカ否ノ一事アルノミ。普國々法ノ認ムル所モ亦此ノ如キニ過ギズト雖ドモ、別ニ法律ニ明條アルニ非ズ（リヨンネ普國々法第四十七丁ヲ參觀スベシ）要スルニ此事タル國皇ト大臣トノ間ニ存スル親密ノ關係ニ屬シ、便宜酌定スベキモノナルガ故ニ、素ヨリ法律中明條ヲ設ケテ故ラニ此極端ノ事項ヲ揭グルヲ要セザルナリ。法理上ノ見解ヲ下スニ當テハ、大臣ハ皆國皇ノ勅命ニ率遵セザルベカラズ。國皇ハ大臣ニ命ジテ法律命令ノ案ヲ起草安定シテ上奏裁可ヲ仰ガシムルノ權アルコトハ炳焉トシテ更ニ詳論ヲ待タザルナリ。是ヲ以テ本案中特ニ明條ヲ揭ゲテ其事ヲ示スヲ要セザルナリ。法律ノ制定ニ關シテ本案ノ載スル所、舊ニ依テ元老院ノ議決ヲ要スト云フニ在リ。此明條ニ依レバ舊ニ依リ元老院ノ議決ヲ要スル爲メニ立法權ノ

施行上猶ホ幾分ノ制限ヲ加フルモノナレバ、其明條ハ最モ賛成ヲ表スベキモノニシテ、此一事ハ憲法制定ノ日ニ於テ更ニ更革ヲ加フベキ事項ニ屬スルガ故ニ、其時機ニ到達スルマデハ之ヲ以テ完全ナリト評セザルヲ得ズ。

本案ノ載スル所ニ依レバ、法律ト命令ト判然殊別スルモ、其法律命令ノ解釋ニ付テハ一モ畫然分界ヲ設クルコトナシ。是ヲ以テ論者或ハ問ハン。曰ク何ヲカ法律ト稱シ何ヲカ命令ト云フヤト、試ニ歐洲各國ノ法律ヲ繙尋スルモ、法律、命令ノ區域ニ至テハ漠然トシテ更ニ分界ヲ設クル所ナシ。理論上ニ於テ通常其說ク所ヲ觀ルニ、法律ハ事ノ一般ニ關シ、且永遠ノ規程トスルニ足ルベキモノヲ制定シ、命令ハ其法律ノ細微末節ニ屬スルモノヲ制定スト云フナリ。又一說ニハ法律ハ規矩準繩ヲ定メ、命令ハ之ヲ施行スルノ方法ヲ定ムト云ヒ、又一說ニハ法律ハ其邦域內ニ居住スル各個人ノ權利義務ヲ制定シ、命令ハ其法律ヲ實施スルノ方法ヲ制定スト云ヘリ。之ヲ要スルニ此等ノ解釋ハ理論上ニ於テ幾分カ貴重スベキ所アリトスルモ、猶ホ實際ニ臨テハ各々場合ノ異ナルニ隨テ其解說ヲ異ニシ、一モ定論ノ歸着スル所ナク、時々變動ヲ免レザルガ故ニ、理論上ノ解說ハ未ダ以テ實際政權ヲ施行スル上ニ於テ其疑義ヲ釋定スルニ足ラズ。是ヲ以テ歐洲各國經驗ノ實跡ニ徵シテ之ヲ云ヘバ、本案中故ラニ明條ヲ設クルコトナク、其區別ニ至テハ之ヲ施政家實際ノ感覺ニ放任スルコト最モ良策ナルガ如シ。論ジテ茲ニ到リ、再ビ本案ヲ反覆歷讀シテ、此案果シテ法律ナルベキ歟、將タ命令ニ屬スベキ歟ノ疑義交々湧出スルコトヲ免レズ。或者ヲシテ之ヲ評セシメバ乃チ本案ハ重要ニ屬スル事項ヲ制定シ、且ツ法律命令ノ發布ニ關スルモノハ、一般臣民ノ權利義務ニ關スルモノナルガ故ニ、本案ヲ以テ當ニ法律ニ屬スト爲スモ亦知ルベカラズ。余ノ所見ニ依レバ、本案ハ國皇ノ政權ヲ施行スルニ必要ナル規程ヲ定ムルニ在ルヲ以テ、寧ロ本案ヲ以テ命令ニ屬スベシト思考ス。然ルニ此一事ニ關シテ往々憲法ヲ以テ皇權ニ制限ヲ加フルコトアリト雖モ、必シモ之ニ制限ヲ加フルコトヲ要セズ。故ニ憲法上此制限ナキ場合ニ於テハ、國皇ノ專權ニ屬スルヲ以テ、親裁專決其宜シキヲ酌定シテ可ナルモノトス。是ヲ以テ本邦現今ノ狀況ヨリ論ズルトキハ本案ノ如キハ命令ヲ以テ之ヲ發布シテ充分ナリト思ハル。然レドモ左ニ列記スルモノヽ如キハ命令ヲ發スル上ニ之ヲ適用シテ毫モ論爭スベカラザルモノナルヲ以テ、常ニ其主義ヲ服膺セザルベカラズ。

一ニ曰　現行ノ法律ハ命令ヲ以テ之ヲ變更シ又ハ廢止スルコトヲ得。

二ニ曰　臣民ノ身體及財產上ノ權利其他徵稅等ニ關スル事項ハ法律ヲ以テ之ヲ制定セザルベカラズ。但法律中其例外ヲ指定スルモノハ此限ニアラズ。

抑モ皇權ノ施行ニ關シテハ憲法ニ於テ制限ヲ設クルコトヲ得ト雖モ、未ダ曾テ此制限ノ存セザル場合ニ於テハ命令ヲ以テ其皇權ノ施行ニ關スル規程ヲ制定スルハ常ニ國皇ノ專權ニ屬スベキ

ナリ。唯ダ方今歐洲立憲諸國ノ形勢ヲ顧ミルニ、皇權ノ施行ニ關スル規程ノ如キハ漸次制限ヲ加フルノ傾向ヲ示スモノヽ如シ。例ヘバ諸裁判所及諸行政廳ノ官制ノ如キハ、從前命令ヲ以テ制定シタルニ、方今ノ勢之ヲ以テ立法上ノ事項ト認ムルニ至レリ。余ヲシテ之ヲ評セシメバ、之ヲ以テ立法上ノ事項ト認ムルヨリ寧ロ命令ヲ以テ制定スベキコト妥當ナリト云ハザルヲ得ズ。

本案ノ載スル所ニ依レバ、命令ヲ分テ三種トナス。一ニ曰勅令、二ニ曰閣令、三ニ曰省令卽チ是ナリ。勅令ハ　陛下ノ宣布シ玉フ所、閣令ハ內閣總理大臣、省令ハ各省大臣ノ發布スル所ナリ。

歐洲ノ諸國ニ於テモ均シク前述ノ如キ區別ヲ設クルアリ。各般ノ命令ヲ擧テ悉ク國皇ノ親制ヲ仰グハ頗ル其煩ニ堪ユベカラズ。事苟モ重大ナラズ、且各大臣ノ主務ニ屬スルモノヽ如キハ諸大臣ヲシテ之ヲ發布セシメ、各其責ニ任ゼシムベキガ故ニ、命令ニ前記ノ區別ヲ設クルハ自ラ勢ノ然ラシムル所ニシテ、道理ニ協フモノト云ハザルベカラズ。但ダ其命令中何ヲカ勅令ニ、何ヲカ閣令ニ、又何ヲカ省令ニ屬スベキカハ未ダ遽カニ單純ノ理論ヲ以テ晝然斷定スベカラザルモノアリ。凡ソ命令ヲ宣布スルノ權ハ國皇ニ屬スルコト之ヲ一般ノ說ナリトス。然レドモ此命令ヲ宣布スルノ權ヲ分割シ、法律又ハ一般ノ職權ニ因リ之ヲ大臣ニ委托スルコトアリ、此主義ハ普國ニ於テ認容スル所ニシテ、其事載セテ「リヨンネ」普國々法論第二百四十八丁ニ詳ナリ。是ニ由テ之ヲ觀レバ勅令ハ常經ナリ、省令ハ其特例ニシテ、其省中處務規程及法律命令ノ施行ニ關スル細則ヲ指定スルモノタルニ過ギズ。就中治安ヲ保持スル爲ニ警察（ポリスフルドナンス）令ヲ發スルコト、是レ省令ノ主眼ト云フベキナリ。普國行政諸官廳ノ官制ニ關シテ制定シタル一千八百八十三年七月三十日ノ法律ヲ以テ省令ヲ發布スルノ權ニ付新ニ規程ヲ定メタリ。然レドモ大臣各其職權ニ依リ省令ヲ發布スルノ權アルコトヲ證明スベキ明條ナキヲ以テ、其命令ヲ發スルニ當テハ豫メ之ヲ上奏シテ裁可ヲ經ベキ歟否カハ實際其事ニ臨ミ自ラ裁スベキ政治上ノ觀察ニ委ネザルベカラズ。省令ト雖ドモ單ニ現行法律命令ノ施行ニ關スル細則ニ止ラズ、事ノ一般ニ關シ又ハ事ノ重要ニ屬スルモノハ素ヨリ上奏裁可ヲ請フベキナリ。此點ニ付テハ本案ノ載スル所現ニ獨逸政府ニ於テ施行スル主義ト符節ヲ合スルモノト云フベシ。

本案ノ載スル所ニ依レバ省令ヲ除クノ外凡ソ法律命令ハ之ヲ內閣ニ於テ起草シタルト、又ハ各省ニ於テ之ヲ起草シタルトニ拘ラズ、內閣ニ於テ上奏裁可ヲ請フベシト云フニ在リ。

外國ノ例ニ徵スルニ、右ニ述ブル所ト同一ノ規則ヲ設ケ、行政規則ノ最モ重要ナルモノニ之ヲ適用スルハ現ニ之ヲ佛國ニ視ル。蓋シ佛國ニ於テ重要ナル行政規則ハ法律ノ特ニ指定スル所ニ依リ、又ハ國首ノ特命ニ依リ參議院ノ議決ニ附スルナリ。

昔日普國ニ於テモ亦一千八百十年十月二十七日ノ命令ニ依リ、凡ソ法律ノ草案ハ其憲法ニ關スルト、又ハ行政ニ關スルトニ拘ラズ、參議院ヨリ國王ニ上奏シテ裁可ヲ請ヘリ。然レドモ今日ニ

於テハ新ニ法律ノ制定ヲ要スルガ如キ新法ノ草案ノミ豫メ之レヲ内閣ニ於テ審議シ、其他ノ立法草案ハ國王ノ特旨ニ依ル。是ヲ以テ普國ノ大臣ハ純然タル行政上ノ事項ニ付キ、他ノ大臣ニ拘束セラルヽコトナク、獨立獨歩ノ地位ヲ占メ、各其責任ノ存スル所ニ依リ施措スルコトヲ得ルガ故其點ニ付キ方今普國大臣ノ權限ハ本案ニ載スル所ヨリ更ニ一層重大ナリト云ハザルベカラズ。蓋シ普國ニ於テ其然ル所以ノモノハ、各大臣ノ憲法上ノ責任ニ重キヲ加ヘ、隨テ内閣ノ集權卽チ首相ノ專權ヲ減少セント欲スルノ趣旨ニ外ナラズ。蓋シ普國今日ノ政體ニ於テハ立憲改進ノ勢ニ倚リ、其宜シキニ協フ所アルベシト雖モ、曾テスタイン、ハルテンベルクノ時代ニ專ラ開進主義ヲ以テ行政ノ釐革ヲ施シタルノ時ニ當テヤ、新ニ太政大臣ノ官ヲ置キ、閣部百般ノ機務ヲ擧ゲテ其統一ニ屬セシムルヲ以テ止ムベカラザルノ須要ト爲セリ。惟フニ本邦今日ノ形勢モ亦普國ト同一ノ必要ヲ感ジ、中外百端ノ機務ヲ擧ゲテ之ヲ内閣ノ收攬ニ歸シテ大ニ施措スル所アラントスルモノヽ如シ。是ヲ以テ本案ニ載スル所ノ主義ハ刻下ノ形勢ニ適應シテ籌畫最モ其宜シキヲ得タルモノト云ハザルベカラズ。

又本案ノ載スル所ニ依レバ、内閣總理大臣ハ豫メ閣議ヲ經テ行政事務ノ全國一般ニ關スルモノ、及各官廳一般ノ規程ニ付其責任ヲ以テ命令ヲ發スルノ權アリト云ヘリ。普國ニ於テハ内閣總理大臣ニシテ此ノ如キ權ヲ有スルコトナシト雖モ、内閣ハ非常特別ノ場合ニ臨ミ一個ノ集合體ナリトテ命令ヲ發スルノ權ヲ有ス。例ヘバ戒嚴令ヲ布告シ、其他緊急ノ場合ニ臨ミ一時ノ假法ヲ制定スルモノヽ如キ卽チ是ナリ。是等緊急ノ場合ニ於テモ猶ホ内閣ハ一ニ命令ヲ恃ムノ外他ニ施措スルノ道アルコトナシ。然リト雖モ往日變革ノ時ニ當テハ一千八百十年十月二十七日ノ勅令ニ依リ、太政大臣ハ事實ニ於テ行政全部ノ長タリ、行政各部ヲ統督スル官タリシガ故ニ、

第一　非常緊急ノ場合ニ於テ又ハ國王ノ特旨ニ依リ命令ヲ發スルノ權ヲ有セリ。

第二　各般ノ事項ニ關シ各大臣ニ說明ヲ求メ又ハ各大臣ノ命令ヲ停止スルノ權ヲ有セリ。

第三　親シク高等警察ヲ指揮シ憲法ニ關スル事務内務及財務ヲ管掌シ又外務ニ干與シテ指揮命令スルノ權ヲ有セリ。

既ニ此ノ如キ顯著ナル前例ノ徵スベキアリ、本邦ニ於テ行政事務ノ全國一般ニ關スルモノ、及各官廳一般ノ規程ヲ制定スル爲ニ内閣總理大臣ニシテ命令ヲ發スルノ權アルハ素ヨリ其所ニシテ、決テ之ヲ以テ過當ナリト評スベキニ非ラズ。故ニ其事ニ關シテ更ニ何等異議ヲ容ルベキ所ナシ。

余ハ既ニ前ニ叙述シタル如ク本案ハ法律命令ヲ發布スルニ付キ、其本體ノ性質ニ涉ラズシテ專ラ其外形上ノ規程ヲ定ムルモノナルガ故ニ、各大臣ノ職權ニ涉リ、就中大臣ノ命令ニ罰則ヲ附スル等ノ職權ニ關シテ更ニ條ヲ補フガ如キハ或ハ本案ノ素旨ニ非ルガ如シ。此等ノ事項ハ各省官制中特ニ明條ヲ設ケテ指定スルコト却テ穩當ナラント思ハル。余ハ既ニ本案ノ大體ヲ通論シテ其主

義ニ付テハ大ニ余ノ贊成ヲ表スル所ナルガ故ニ其各條ニ就テ詳ニ所見ヲ開陳セントス。

第二　詳　說

原案　第一條

惟フニ本條第二條第三條ハ專ラ法律及勅令ヲ論ジ、第四條ヨリ第六條ニ至ルノ間各條ニ論ズル閣令及省令ト相對スルモノヽ如シ。果シテ然ラバ則本條以下第三條ニ至ルノ間、命令トアルハ宜シク其命ノ字ヲ改メテ勅ト爲シ、以テ彼此ノ分界ヲシテ判然一定スル所アラシムベシ。蓋シ閣令及省令ハ一般委任ノ職權ニ依リ、內閣總理大臣及各省大臣之ヲ發布スベシト雖モ、法律命令ハ特ニ上奏シテ裁可ノ後御署名ヲ得テ宣布スルモノナリ。故ニ本條中裁可ノ後ノ字、憲法上ノ用語ニ非ズ。寧ロ其一句ヲ特ニ勅旨ニ依リノ五字ニ改メバ、名實共ニ適切ナルヲ得ン。凡ソ法律勅令ノ冒頭ニ勅書ヲ附記ストアリ、其意義未ダ明瞭ナラズ。蓋シ其勅書トハ或ハ其勅令ノ冒頭又ハ勅令中ニ緒言ヲ揭ゲ、以テ勅令ノ理由ト主眼トヲ短簡ニ垂示スルモノナラン乎。果シテ之ヲ緒言ノ意ニ出ルトセバ是レ決シテ法律又ハ勅令中ニ揭グベキモノニ非ズ。抑モ法律又ハ勅令ニ勅書ヲ要スル所以ノモノハ、乃チ本案ニ於テ指定スル如キ規程ヲ遵行シテ遺ス所ナキヲ證スルニ外ナラズ。尙ホ言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ裁可ノ後之ヲ宣布スベキ勅旨アリタルコトヲ證明センガ爲メナリ（普國憲法第四十五條ヲ參觀スベシ）。

是ヲ以テ其勅書ハ朕此法律（又ハ勅令）ヲ裁可シ茲ニ其宣布ヲ命ズ。ノ文例ヲ用ヰザルベカラズ。之ヲ勅書（ブレアンブルクロース）ト云ハンヨリ寧ロ勅書（サンクシヨンクロース）（一ニ裁制ノ文ト譯ス）ト云フベキコト却テ其實ニ恰當スルガ如シ。故ニ余ハ左ノ如ク本條ニ修正ヲ加ヘント欲ス。

凡法律命令ノ一般ニ發布スルコトヲ要スルモノハ特ニ勅旨ニ依リ勅書（サンクシヨンクロース）ヲ以テ之ヲ布告ス

國皇ハ聖慮ノ在ル所ヲ以テ內閣總理大臣又ハ各省大臣ヘ特命ヲ下スコトアリ。此特命ハ普國ニ於テ內閣命令ト稱シ、特ニ大臣ニ宣旨シ之ヲ奉行セシムルモノニシテ、臣民一般ニ關セザルモノナルガ故ニ、國皇之ヲ全國ニ宣布スベシト命ズルモ亦必シモ之ヲ全國ニ宣布スルコトヲ要セズ。縱令ヒ各大臣ニ於テ之ヲ遵奉スベキ義務アルモ、此類ノ特命ハ一定ノ法式ニ準據スベキモノニ非ラズ。其國皇ノ行政權內ニ此類ノ特命ヲ包含スルコト炳焉掩フベカラザルモノナルガ故ニ、敢テ之ヲ爰ニ論ズルヲ要セザルナリ。

原案　第二條

本條ニ於テモ亦命令トアルハ命ノ一字ヲ削リ之ニ代ユルニ勅ノ字ヲ以テスベシ。

凡ソ法律勅令ハ或ル場合ニ於テ各省大臣ノ起草ニ係ルモノアルベシト雖モ、之ヲ上奏シテ裁可

ヲ請フハ内閣總理大臣ニ於テ直ニ之ヲ敷奏スルコトヲ得ザルコトノ趣旨ヲ明示センガ爲メ、法律勅令ハ何等ノ場合ニ於テモ内閣總理大臣ノ上奏裁可ヲ請フベキモノナリト云フノ明文ヲ本條中ニ掲グルコト甚ダ適切ナリト思考ス。

原案　第三條

凡ソ法律勅令ノ勅書中ニ年月日ヲ記載スベシト云フノ明文ヲ掲ゲザルベカラズ。

原案　第四條

各大臣其委任ノ職權ニ依リ發布スルモノヲ概稱シテ命令（オルドナンス）ト云フハ穩當ナラズ。或ル場合ニ於テハ命令訓令（デクリー、オルダーレギュレーション）規則又ハ決議（レゾリユーション）ト稱スルコトアリ。概シテ之ガ一定ノ名稱ヲ設クルハ啻ニ其必要ヲ見ザルノミナラズ、之ヲ一定スル復タ容易ノ事ニ非ズ。故ニ各大臣ノ命令ハ必ズシモ命令（オルドナンス）ト稱スルノ必要ナキヲ明ニスル爲ニ其名稱ヲ一定スルコトナク、右ニ叙述シタル各種ノ名稱ヲ通用スルノ便ヲ謀リ、命令（オルドナンス）ノ外ニ猶ホ訓令ノ一字ヲ加ヘバ可ナラン。蓋シ「ヲルドナンス」ノ字ハ已ニ叙述シタル如ク勅令ノ場合ニ用ユルヲ常例トスト雖モ、警察令（ポリスオルドナンス）ト稱スルガ如キ復タ特例ナシトセズ。

此他本條ニ加ヘタル修正ハ別段説明ヲ加ユルノ必要ナシ。故ニ之ヲ略ス。

原案　第五條

本條ノ載スル所ニ依レバ官廳ノ規程ハ内閣總理大臣又ハ各省大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ定ムトアリ。立言未ダ其當ヲ得ズ。抑モ官廳ノ規程ハ内閣總理大臣又ハ各省大臣ノ發スベキ一種ノ命令ニシテ官吏ノ處務ニ關スルモノモ亦其規程ノ内ニ存スルモノナルガ故ニ、此等ノ規程ヲ定ムルニ復タ命令ノ名ヲ借ルノ必要ナシ。唯各大臣ヲシテ之ヲ定ムルコトヲ得ルノ職權ヲ有セシメバ充分ナリトス。是ヲ以テ本案中命令ヲ以テノ數字ヲ削ルベシ。

内閣總理大臣及各省大臣ノ命令ノ緒言又ハ裁制ノ文ヲ掲グベカラズ。各大臣ハ其委任ノ職權ニ依リ之ニ署名スルノミニテ充分ノ效力ヲ有スルモノトス。此委任ノ職權ハ大臣ニ任ゼラルヽノ時ニ於テ既ニ其任命中ニ包含スルモノト云フベシ。是ヲ以テ各大臣ノ發スベキ命令ノ末文ニ奉勅ノ字ヲ掲ゲテ以テ其委任ノ職權ヲ示シ、且第一條ニ掲グル法律勅令ノ場合ニ於テ特ニ勅旨ニ依リト云フノ場合ニ對比スルコト得策ナラント思ハル。是レ獨逸聯邦中二三ノ國ニ於テ現ニ施行スル所ナリ。

原案　第八條

凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ發布スルヲ原則トス。蓋シ第四條ノ修正ニ依ルトキハ訓令モ亦命令ノ一種ニ屬スルガ故ニ、之ヲモ亦法律命令ト一段ノ手續ニ依リ官報ヲ以テ發布スベキ歟ノ疑義ヲ免レズ。抑モ訓令ノ如キハ臣民一般ニ關スルニ非ズ、專ラ官吏ニ對スルモノナルモ、歐洲各國ノ

慣例ニ倣ヒ官報ヲ以テ之ヲ發スルヲ良法トス。然レドモ訓令ハ必シモ官報ヲ以テ發スベシト一定スベキニ非ズ。時宜ニ依リ他ノ方法ヲ以テ官吏ニ告知スルノ道ヲ備ヘザルベカラズ。是ヲ以テ訓令ヲ發表スル手續ノ如キハ之ヲ主任大臣ノ酌定ニ任セ之ヲ本條中ニ指定セザルヲ可トス。

原案　第九條

第八條ニ指定スルガ如ク、法律命令ヲ施行スベキ一般ノ期限ヲ適用スベカラザル場合ニ於テハ、法律命令中明條ヲ掲ゲテ特ニ其施行ノ期限ヲ指定セザルベカラズ。其法律命令ノ急施ヲ要スル歟否カヲ以テ徒ニ官吏ノ酌定ニ放任スベカラズ。此事ニ付テハ一千八百四十六年四月三日普國法律ニ制定スル如ク、別段ノ施行期限ヲ要スルモノハ各其法律命令中ニ明條ヲ掲グベシ。故ニ此ノ如キ特例ヲ示ス爲ニ本條ヲ左ノ如ク修正スベシ。

特別ノ場合ニ於テ特ニ施行ノ期限ヲ要スルモノハ各其法律命令中ニ明條ヲ設ケテ其期限ヲ指定スベシ

既ニ此特例アリ、別ニ施行ノ期限ヲ定ムルモノ、如キハ或ハ其法律命令ノ發布前ニ係ル日附ヲ記入シテ之ヲ施行スルコトヲ得ベシ。或ル場合ニ於テハ法律命令ノ既往ニ溯ルヲ必要トシ、且公平ナリト認ムル時ハ特ニ既往ニ溯ルノ效力ヲ附シテ法律命令ヲ發布スルノ當然ナルハ更ニ疑義ヲ容ルベカラザル所ナリ。然レドモ猶ホ其疑惑ヲ避ケンガ爲ニ、特ニ明條ヲ設ケ法律ノ既往ニ溯ルノ原則ヲ指定セバ大ニ釋然スル所アラン。

法律命令ノ急施ヲ要スル場合ニ於テハ、法律上ノ定式ニ依リ之ヲ發布スルノ前直ニ之ヲ施行スルモノ、例ヘバ電報ヲ以テ主務ノ官吏ニ其實施ヲ命ズルガ如キモ亦法律ノ許ス所ナルベキ乎否ハ法理ヲ講究シテ猶ホ疑義ヲ免レズ。佛國ニ於テハ一千八百十六年十一月二十七日及一千八百十七年一月十八日ノ命令ヲ以テ明許スル所ナリ。之ニ反シ普國ニ於テハ決シテ法律命令ノ既往ニ溯ルコトヲ許サズ。而シテ普國ニ於テハ法律命令ノ施行期限ハ之ヲ立法者ノ酌定ニ任ズト雖モ、法律命令ハ發布ノ前何等效力ヲ有セザルガ故ニ、其實施ノ前豫メ之ヲ發布スルヲ必要トス。然リト雖モ特ニ憲法上ノ制限ナキ場合ニ於テハ、法律上ニ明條ヲ設ケテ臨機宜ニ隨ヒ處辨スルコトヲ得ベキナリ。唯ダ此ノ如キ特例ハ之ヲ急變ノ場合ニ施シ、常時之ヲ用ユベキニ非ズ。是ヲ以テ本條ハ左ノ如ク修正スルヲ要ス。

法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ゲタルモノハ凡テ前條ノ例ニ依ラズ。

法律命令ノ既往ニ溯ルヲ要スルモノハ特ニ其明條ヲ掲グベシ。又ハ法律命令ノ特ニ急施ヲ要スル場合ニ於テハ其發布前ト雖モ豫メ之ヲ各官廳及關係人ヘ通達スルコトヲ要ス。

公文式ニ關シテハ左ニ開陳スルモノヽ外別ニ所見ナシ。

原案　第十三條

本條中外國皇帝大統領ニ贈復スル親翰トアリ。大統領ノ數字ヲ削リ及國首（ルーレル）トセバ大統領モ亦其中ニ包含スベシ。又本條中國事ニ關スルノ字アリ。余ノ見解ニ依レバ宗教ニ關スル事ハ國事ニ屬シ、祝書吊詞ハ國皇ノ私事ニ屬ス。

本條中官吏任命ノ事ヲ掲グルモノハ之ヲ削除シ別ニ條ヲ設ケ之ヲ移スベシ。

勅令案ノ法理

井上毅

本案ニ對シテ第一ニ研究スベキハ其ノ果シテ勅令ヲ以テ之ヲ規定スルヲ得ベキヤ否ノ問題トス。抑モ本案ハ一方ニ於テ若干ノ歳入ヲ作リ、他ノ一方ニ於テ之ヲ或ル歳出ニ用ヰントスルノ目的ニ出デタリ。……

然ルニ憲法ハ或ル歳入ノ必ズ法律ニ依ルベキヲ定メタリ。是ニ於テ乎本案ニ對シテ先ヅ其ノ歳入ノ國法上ノ性質如何ヲ考究スルノ必要アリ。

本案ノ規定スル所果シテ官吏ノ俸給額ハ現行ノ俸給令ニ依リ變更セザルモノトスルトキハ、則現行俸給令ニ依レル俸給額ニ對スル官吏ノ請求權ハ其ノ儘ニ存在セシメ、更ニ其ノ額ヲ標準トシテ官吏ニ財産上ノ義務ヲ負ハシムルモノナリ。其ノ之ヲ課スルニ先ヅ官吏ニ俸給金額ヲ支給シテ然ル後更ニ之ヲ徴收スルト、又ハ俸給支給ノ際先ヅ其ノ負擔額ヲ控除スルトハ唯ダ徴收方法ノ異同ニシテ其ノ財産上ノ負擔タル性質ニ何等ノ影響ヲ生ゼズ。然リ則チ此ノ財産上ノ負擔ハ法律上ノ性質ニ於テ如何ナル負擔ナリヤヲ考究センニ、官吏ノ職務ヲ行ヒ又ハ其ノ地位ノ尊嚴ヲ維持ス

ルニ必要ナル所謂ル職務上ノ義務ニ屬スル負擔ニアラズ、又憲法ニ所謂ル報償ニ屬スル收入ニアラザルハ論ヲ俟タズ。

是ニ於テカ此ノ財産上ノ負擔ハ官吏ガ日本國民トシテ一般ニ負擔スル國費ノ一分ヲ負擔スルモノナリ。換言スレバ租税ナリ。卽所得税ノ一種ナリ。

以上ノ論ニ依レバ本案ハ勅令ヲ以テ規定スベキモノニアラズトノ結論ヲ得タリ。

更ニ他ノ論點ヨリ同一ノ問題ヲ研究セン。

天皇ハ文武官ノ俸給ヲ定ム。其所謂ル「定ム」ト云ヘル權力ノ中ニハ條件ヲ附シテ定ムル權力モ亦包含セリト云フヲ得ベシ。

又任官ニ就テモ法律ノ區域ニ屬スルモノヽ、外ハ大權ヲ以テ條件ヲ附スルヲ得ベシ。故ニ本案ハ現行俸給令ニ定メタル俸給額ノ若干分ヲ國庫ニ納ムベシト云ヘルコトヲ任官及俸給支給ノ一條件トシタルモノト見ルコトヲ得ベシ。

然レドモ其ノ條件ヲ附スルハ全ク無制限ナリト云フヲ得ズ。例令バ官吏トナリタルモノハ他ノ一般ノ臣民ニ比シテ二倍ノ地租ヲ納ムベシト云フガ如キ條件ハ勅令ヲ以テ設クルヲ得ズ。

然バ則チ勅令ヲ以テ設クルヲ得ベキ條件ノ制限ハ如何ト云フニ、官吏ノ職務及地位ヨリ生ズル必然ノ結果ニ依ルモノ、若ハ法律ノ區域ニ侵入セザルモノ、外勅令ヲ以テ定ムベカラズト云フベシ。

本案目的トスル所ノ歳入ハ官吏ノ職務及地位ヨリ生ズル必然ノ結果ニアラザルノミナラズ、所得税ノ一種ニシテ法律ノ區域ニ屬スルモノナリ。卽チ復タ勅令ヲ以テ定ムベカラズト云フノ結果ニ歸着ス。

以上二面ノ論點ヨリ研究シタリ。卽チ一面ニ於テハ歳入ノ性質ヨリ、又一面ニ於テハ俸給條件ノ性質ヨリ研究シ、共ニ非勅令ノ結果ヲ得タリ。

更ニ第三ノ論點ヨリ觀察セン。

第三ノ論點トハ本條ヲ以テ現行俸給令ノ或ル效力ヲ一時中止スルモノトシテ觀察スルヲ云フ。蓋シ前論ハ兩ツナガラ現行俸給令ヲ有效ナルモノトシテノ論ニシテ、此ノ第三ノ論點ト稍々異レリ。

但此ノ論點ハ或ハ立案者ノ本意ニアラザルモ計ルベカラズ。而シテ此ノ論點ニ依ルトキハ、俸給ニ基ヅク一切ノ權利義務、卽チ恩給ノ權利、一般所得税ヲ納ムル義務等皆現行俸給令ノ額ニ依ラズシテ本案ノ結果ヨリ生ズル俸給額ニ依ルベキモノトス。

天皇ハ文武官ノ俸給ヲ定ム。故ニ又其ノ規定ヲ中止スルモ亦大權施行ノ一ナルコト論ヲ待タズ。故ニ中止ノ方向ヲ執ルニ於テハ勅令ヲ以テスルニ法理ノ毫モ杆格スル所ナシ。然レドモ此ノ方面ハ果シテ本案ノ目的ヲ達スルヲ得ルヤ否ハ尙ホ詳ニ考究スルヲ要ス。

本案ノ目的ハ本案ニ約シタル期限ノ後、文武官ノ俸給ヲシテ當然今日ノ額ニ復セシメ、而シテ

豫算ノ上ニ於テハ既定ノ歳出トシテ議會ヲシテ廢除削減セザラシメントスルコト是レ其ノ一ナリ。次ハ議會ヲシテ本案實施中ト雖尚ホ既定歳出トシテ今日ノ俸給令ニ依レル金額ヲ議決セシメントスルニアリ、是レ其ノ二ナリ。

右兩目的ノ中第二ノ目的ニシテ達スルヲ得ベクバ第一ノ目的ハ無論達スルヲ得ベシ。

而シテ第二ノ目的ヲ達スルハ法理上差支ナシト云フコトヲ得ベシ。何ントナレバ現行ノ俸給令ハ永遠ノ規定ニシテ本條ハ一定ノ期限ヲ定メ臨時ノ規程ナレバナリ。但シ現行ノ俸給令ハ本案實施中ハ其ノ效力ヲ中止セラレタルモノナリ。然ルトキハ豫算上現行俸給令ニ依ル俸給額ハ第一有效ナル法規ノ依ルベキモノナク第二事實ノ依ルベキモノナシ。

右二箇ノ非難ノ中第二ノ事實ノ點ハ事實ヲ以テ答フレバ足レリ。而シテ其ノ事實トハ豫算ノ歳出ノ一方ニハ現行俸給令ノ額ヲ載スト雖モ、歳入ノ一方ニハ其ノ控除額ヲ載スルガ故ニ事實ニハ適合セリ。

法規ノ根據ニ就テ云ヘバ現行俸給令ハ中止セラレタルモ廢止セラレタルモノニアラズ。一定ノ期限ノ後ハ政府ハ其ノ施行ノ義務アリ。此ノ義務アルガ故ニ他日此ノ義務ヲ全フスル爲メ資料ヲ要求スルノ權利ヲ今日ニ於テ保存スルハ亦政府ノ權ナリ。

以上ハ中止ノ方向ヨリ論究シタル結果ナリ。

更ニ最後ニ第四ノ論點ヲ擧グレバ左ノ如シ。

天皇ハ文武官ノ俸給ヲ定ム。故ニ天皇ハ又俸給ノ稱呼額ト實額トヲ同一ナラシメザルヲ得ル大權アリト云フヲ得ベシ。

此ノ論點ニ據ル時ハ俸給ニ對スル官吏ノ請求權及之ニ對稱スル國庫ノ義務ハ實額ニ止マリ、俸給ニ伴隨スル其ノ他ノ權利義務ハ稱呼額ニ依ル。

此ノ論點ノ結果ハ概略第三ノ論點ノ結果ト同一ナルベキヲ以テ再論セズ。

以上四箇ノ論點ヲ概括スレバ左ノ二箇ノ大區別アリ。卽チ第一第二ノ論點ニ於テハ控除額ニ就テ官吏ニ請求權ヲ一旦承認シタル後國庫ニ徵收ス。而シテ此ノ論點ノ結果ハ非勅令ニ歸シタリ。之ニ反シテ第三第四ノ論點ニ於テハ始メヨリ俸給ノ額ヲ現行勅令ノ額ヨリ小ナルモノト認メタリ。而シテ此ノ論點ノ結果ハ可勅令ニ歸シタリ。本案ノ目的トスル歳入ヲ勅令ヲ以テ規定スルノ道ハ乃チ右第三第四ノ方アルノミ。

此ノ方法ニ依ルトキハ豫算ノ上ニ於テ俸給ノ要求額ハ始メヨリ實際ニ適合セズ。而シテ其ノ始メヨリ適合セザルハ豫測スベカラザルニ由ラズシテ、故意ニ由ル。是レ豫算編成ノ上ニ於テ極メテ奇異ノ現象ト云フベシ。

然レドモ右ノ如ク俸給ハ要求額ト實際ノ仕拂額トノ間ニ剩餘ヲ生ゼシムルノ方法ニ依ルカ、又

ハ俸給ノ要求額ハ實際ノ仕拂額ニ止メ、全體ノ收入ニ於テ剩餘ヲ生ゼシムルカ、何レノ道ニ依リテカ兎ニ角俸給控除額丈ハ收入ニ剩餘ヲ生ゼシムルトシテ次ニ研究ヲ要スル問題ハ左ノ如シ。

本案ノ目的ハ俸給ノ節減ニ依テ得タル金額ノ用途ヲ制限セントスルモノナリ。此ノ如キ制限ハ勅令ヲ以テ設クルヲ得ルヤ否ヤ、勅令ヲ以テ或ル金ノ用途ヲ消極的ニ制限スルハ法理上ニ於テハ差支ナキガ如シ。然ラバ則チ其ノ勅令ト議會ノ豫算協贊權トノ關係ハ如何。

例ヲ擧ゲテ此ノ問題ヲ詳說スレバ左ノ如シ。

豫算ニ於テ歲入歲出ノ額全ク相對稱セリト假定セン。此ノ場合ニ於テ政府ハ勅令ヲ發シテ或ル歲出ヲ節減シ、之ニ依テ豫算上歲入ノ額歲出ノ額ニ超過ストセン。政府ハ又更ニ此ノ超過額ヲ積立金トセンコトヲ勅令ヲ以テ規定シタリトセン。然ルニ其ノ年ニ於テ別ニ臨時歲出ヲ要スルモノアリテ、其ノ額ハ恰モ前ノ超過額ニ同ジク、若ハ其ノ以下ナルニ於テ、政府ハ勅令アルガ故ニ此ノ超過額ヲ此ノ臨時支出ニ充ツルヲ得ズ。依テ別ニ臨時借入ノ案ヲ議會ニ提出シタリト假定セン。此ノ場合ニ於テ議會ハ勅令ニ基キテ豫算ノ上ニ顯ハレタル積立金ナル歲出ノ款項ヲ削除シ、其ノ金額ヲ以テ臨時歲出ニ充ツルノ議決ヲ爲シ、依テ臨時借入ノ案ヲ否決スルコトヲ得ルヤ否ヤ。

前文ノ例ニ於テ積立金ハ勅令ニ基ヅキタル歲出ナリ。然レドモ未ダ大權ニ基ヅケル既定歲出ニアラズ、故ニ其ノ廢除削減ハ議會ノ隨意ナリ。既ニ之ヲ削減スルトキハ豫算ノ上唯ダ歲入ノ超過アルノミ。議會ハ卽チ之ヲ必要ノ臨時歲出ニ充ツルノ議決ヲナスニ於テ妨ゲアルコトナシ。

果シテ右ノ如クナルトキハ本案上諭ノ文ニ「國家軍防ノ必要ヲ認メ製艦費ノ補足ニ供スル爲」ト云ヘル目的ハ議會ノ意向如何ニ依テ實行ヲ必シ難キモノト云フモ亦不可ナルナシ。

次ニ前段ノ例ニ於テハ議會ハ歲入超過ヲ隨意ニ他ノ歲出ニ充ツルヲ得タリ。然レドモ本案第二條ハ更ニ「之ヲ他ノ費途ニ充ルコトヲ許サズ」ト明言シタリ。

或ル歲入ノ用途ヲ積極的ニ定ムルハ消極的ニ之ヲ他ノ費途ニ充ツルヲ禁ズルモノナリ。故ニ前ノ例ニ於テ積極的ニ用途ヲ定メタル歲入ヲ議會ガ隨意ニ他ノ用途ニ充ツルノ議決ヲ爲シ得ルニ於テハ、上諭ノ明文モ亦議會ノ豫算議權ヲ制限スルニ足ラズ。

以上ノ觀察ニ依ルトキハ第二條ハ法律ヲ以テスルニアラザレバ其ノ效ヲ爲サズ。而シテ副署ノ大臣ハ施行ノ責ニ任ジナガラ之ヲ施行スルヲ得ザルノ境遇ニ陷ルヲ保セズ。

意見第一

命令ニ刑條ヲ付スルコトヲ得ル乎否カニ關ル問題ニ付テハ先ヅ憲法第二十三條ノ意義ヲ講究シテ明白ナラシムルヲ要スベシ。本條ノ文字ハ精確顯著ニシテ毫モ疑端ヲ容ルベキノ餘地ナキニ拘

ラズ、仍其曖昧曠漠ノ意味ニ解釋スベキノ疑アルニ於テハ不得已シテ之ヲ立憲君主政ノ普通ノ原則及淵源ニ徴明シテ然後ニ結論ヲ取ラザルコトヲ得ズ。

議會ヲ召集シテ與ニ國是ヲ議ス（獨逸人ハ之ヲ國家ノ意思ト謂フ）之ヲ立憲政體ト謂フ。國是ノ議スベキ者ハ何ゾ、曰豫算、曰法律是レナリ。而シテ法律ノ重キ者ハ臣民ノ身體財産ニ係ル事件是レナリ。各國ノ憲法歴史ヲ尋繹スルニ、立憲ノ起原ハ其ノ一ハ會計ヲ公議スルト、其ノ二ハ身體財産ノ保護ヲ望ムトノ兩事ニ因由セザルハアラズ。殊ニ歐洲ニ於テ立憲ノ祖國タル英國ノ有名ナル「マグナカルタ」ハ之ヲ憲法主義ノ一大原則トシテ宇内各國及各派學士ノ公同ニ是認スル所ナリ。卽チ其ノ文ハ左ノ如シ。

臣民ハ同列ノ適法ナル審斷又ハ斯國ノ法律ニ依ルニ非ズンバ逮捕禁錮セラレ、又ハ所有地及自由若クハ自由ノ慣習ヲ沒取セラレ、又ハ法外ニ措カレ又ハ追放セラレ、及何等ノ方法ニ依ルモ死刑ニ處セラルヽコトナカルベク、朕亦之ヲ認許セザルベシ。

此ノ一條ハ學士諸家ノ俱ニ認メテ「マグナ、カルタ」（譯シテ大憲章トナス）ノ腦髓骨子ト爲ス所ナリ。今其ノ一二ヲ引證センニ、

グナイスト英國行政法ニ曰ク、大憲章中其關渉スル所最モ廣大ニ最モ緊要ナルモノハ最モ記憶スベキ第二十九條ニシテ、身體及財産ノ安寧ヲ保護スルコトヲ明言シタルモノナリ。云々

レーブ英法史ニ曰ク、大憲章中最モ着目スベキ點ハ司法制度ノ改良ニアリ。其一ハ一定ノ地ニ高等法衙ヲ設置シテ裁判ヲ司ドラシムルコトニシテ、他ノ一ハ第二十九條是レナリ。而シテ二十九條ノ緊要ナルコトハ前者ノ比ニ非ズ、臣民ノ身體及ビ財産ノ安固ニ關スル此憲章ノ條款中、第二十九條程ト後世子孫ノ注目ト尊敬トヲ引キタルモノヲ見ズ。同條ハ常ニ吾人自由ノ楯トナス所ナリ。抑同條ハ不法ノ禁獄其他ノ處罰ヲ禁止シ、且ツ彼人身保護律及ビ陪審ノ制ノ如キモ明カニ此條文中ニ包含シ、加之法律上ノ救濟ヲシテ迅速ニ容易ニ且ツ公平ナラシメンコトヲ誓ヒタルモノニシテ、實ニ後世重大ナル結果ヲ來シ、自由ノ精神トシテ爾來殆ンド五百年間常ニ諍議ヲ決スル最終ノ法ナリト。

此ノ學士輩ノ論ヲ假リ來リテ比較的ニ我ガ憲法ヲ觀察スルトキハ、我ガ憲法第二十三條ハ卽チ憲法ノ最大緊要ニシテ臣民ヲ保護セラルル一大恩典ノ精粹ナリ。此ノ條ニシテ萬一ニモ抹殺セラレ、又ハ解釋或ハ他ノ法律ノ作用ニ依リテ其ノ實效ヲ撤棄スルコトアランニハ、是レヲ呼ンデ憲法ノ大主義ヲ破壞スル者ト謂フモ可ナリ。

人或ハ英國憲章ノ二十九條ノ法文ヲ解釋シテ法律ニ依ルトハ法律ノ正文ニ依ルトノ謂ニアラズシテ唯ダ法ニ合セズ又ハ法律ノ精神ニ根據セズトノ意ナリトノ疑似ノ解釋ヲ爲シテ以テ勅令ト混雜スル者アラン。今其ノ非ヲ辯ズル爲ニハ又比較的ニ各國憲法ノ淵源ヲ探ラザルコトヲ得ズ。

英國ノ大憲章ハ其ノ後敷衍シテ「チヤールス」一世ノ時ノ權利請願書トナレリ。其ノ第七條ニ曰

（第一項後半）　何等ノ犯罪人ト雖斯國ノ法律（ローー）及條例（スタチユト）ニ準據シタル審問ヲ受ケ、刑罰ニ服スベキモノナルニモ拘ラズ、近年國王ノ玉璽ヲ鈐シタル命令ヲ以テ軍律ニ依リ殺人、强盜、其他ノ重罪、軍人反命又ハ其他ノ暴行若クハ各種ノ輕罪ヲ犯シタル海陸軍兵士、又ハ之ニ與シタル無賴ノ徒ヲ處罰スベキ公力ヲ委任シ、又卽決及ビ軍律ニ適シタル又ハ戰時執行スル如キ手續ニ依リ前顯ノ犯人ヲ審問處刑シ、且ツ軍律ニ據リ此輩ヲ犯罪ニ行フベキ委任ヲナシタルコト多シ。

（第二項）　斯國ノ法律條例ニ照シテ死ニ當ル時ニ限リ、該法律條例ニ依リテノミ審斷處罰ヲ受クベキモノナルニモ拘ラズ、前項委任ノ理由ニ據リ　陛下ノ或臣民ハ前顯ノ委員ニ依リ死刑ニ處セラレタルモノナリト。此ノ一條ヲ閲讀スルトキハ卽チ勅令ヲ混視スルノ說ハ決シテ英國憲章及其ノ他各國ニ於ケル同一條章ノ正意ニ非ルコトヲ容易ニ了解スベシ。而シテ我ガ憲法ノ二十三條ハ獨リ此ノ普通ノ解釋法ノ外ニ在リト謂フハ頗ル奇僻ノ一家言ト謂ハザルコトヲ得ズ。

此ノ一家ノ說ノ根據タル一ノ理由ハ「グナイスト」氏ノ獨立命令ノ說ヲ誤用シタルニ外ナラズ。曰ク我ガ憲法ハ其ノ第九條ニ於テ勅令ヲ規定シテ獨立ノ精神トシ、法律ノ外ニ於テ命令ヲ發シテ其ノ作用ヲ施スコトヲ認メタリ。故ニ各國ノ憲法ト其ノ主義ヲ異ニスル者ナリト、今此ノ說ノ爲ニ惜ム所ノモノハガ我憲法ハ第九條ニ於テ獨立命令ヲ認メタルコト、各國ト異ナル所アルト同時ニ亦第二十三條ニ於テ命令ノ範圍ヲ施行命令ト獨立命令トニ拘ラズ制限シ、英國及其ノ他ノ各國ニ行ハルヽ憲法上ノ普通ノ原則ヲ採用シタルコトニ注意セザルコトナリ。

第二十三條ヲ主張シテ以テ第九條ヲ抹殺スベカラザルハ第九條ヲ過度ニ廣張シテ以テ第二十三條ヲ抹殺スベカラザルト異ナルコトナシ。故ニ第九條ノ效力ハ第二十三條ノ制限ノ外ニ於テ十分ナルベキモ、第二十三條ノ制限ヲ破ルベカラザルナリ。此ノ兩々調和ノ意味ヲ明瞭ナラシムル爲ニハ「グナイスト」氏ノ英國行政法ノ一章ヲ引用スベシ。同氏ハ英國ノ行政歷史ヲ尋究シテ始メテ獨立命令ノ說ヲ發見シテ之ヲ主張シタル者ナリ（卽チ今日ノ論者ノ元祖ナリ）然ルニ其ノ行政司法論中法律命令及行政規則ノ關係ナル題目ニ於テ英制ヲ論ジテ曰、

此ノ深ク錯雜シタル關係ニ於テ唯ダ根源ノ主意卽チ「社會ノ身體上及金錢上ノ負擔、私法及刑法ハ憲法ニ遵據セル議院法律（パルラメンツアクツ）ニ依テ制定セラレザルベカラズ。竝ニ法律ハ唯法律ニ依テ變更セラレ得ル」トノ根源ノ主意ノミハ確定セリ。其ノ他ニ於テ法律命令及規則ノ區別ハ行政ノ各派及特ニ必要ニ從テ變更スルモノナリ云々。

此レ「グナイスト」氏ハ其ノ獨立命令ノ發見者タルニ拘ラズ、又獨立命令ノ效力ハ刑法ニマデ侵入スベカラズ、而シテ刑法ハ必議院ノ議ヲ經タル法律ニ依リテ制定セラルベキコトヲ確認シタル證左ナリ。

試ニ思ヘ、憲法ハ何ノ爲ニ之ヲ制スル乎、議會ハ何ノ爲ニ之ヲ設クル乎、若シ人ノ身命自由ニ關スル刑罰ノ包含スル重大ノ條章ニシテ法律ニ依ラズ、卽チ議會ノ議ヲ經ズシテ制定セラルヽコトアラバ是レ議會ハ何ノ效用ヲモ爲サヾルベク、立憲ノ性質ハ從テ事實上ニ一モ存立スルコト無キニ至ルベシ。

意見第二

然ラバ命令ニハ絶エテ罰則ヲ附スルノ方法アルコトナキ哉。此ノ問目ニ答ヘテ云ハン。

法律ハ其ノ正當ナル權力ヲ推讓シテ命令ニ之ヲ委托スルコトヲ得ベシ。命令ニシテ法律ノ正條ニ依リ其ノ委托ヲ受クルトキハ法律ノ權力ヲ代用スルコトヲ得ベシ。玆ニ尤注意スベキハ法律ノ委托ハ必或場合ヲ明示シ制限アル區域ニ於テスルヲ憲法ノ精神トスルコト是レナリ。法律ニシテ若シ其ノ權力ノ全部又ハ大部分ヲ擧ゲテ命令ニ委托スルコトアランカ、是レ其ノ法律ハ自ラ憲法ノ精神ニ乖ク者ナリ。法律ノ作用ヲ以テ憲法ノ效力ヲ撤棄セシムル者ナリ。

故ニ前ノ問目ニ答ヘンニハ約束ノ語法ヲ用ヰザルコトヲ得ズ。曰命令ニモ亦罰則ヲ附スルノ方法アリ、法律ノ委托ニ依ルコト是レナリ。而シテ法律ノ委托ハ必制限アル區域ニ於テス。

「グナイスト」氏ハ英國行政法ノ著論ニ於テ命令ヲ三種ニ分チタリ。曰獨立命令、曰施行命令、曰委托命令。我ガ憲法第九條ハ安寧ヲ維持シ幸福ヲ增進スルヲ以テ獨立命令ニ屬セシメ、又其ノ第二十三條ニ依レバ逮捕監禁處罰ノ命令ヲ委托命令ノ類ニノミ歸セシメタリ。

法律ノ委托ニ於ケル罰則ノ制限ハ何ゾ、曰第一ニ法律ニシテ一般概括ノ方法ヲ用ヰテ之ヲ命令ニ委托スルハ必違警罪ニ限ル。第二ニ法律ニシテ重罪輕罪ノ或ル一部ヲ（或學者ハ之ヲ司法罪ト名ク）命令ニ委托スルハ必法律ノ正條ニ依リ歷記ノ方法ヲ用ヰテ或ル場合ニ限リ特別ノ制限ヲ示ス。

先ヅ第一ノ場合ヲ說明センニ、我ガ刑法第四百三十條ハ違警罪（科料一圓九十五錢拘留十日以下）ヲ以テ地方行政官ニ委托シ、適宜ニ制定スルノ權アラシメタリ。是乃チ刑法ニハ歷記ノ方法ヲ取リタルニ拘ラズシテ、又其ノ一面ニハ概括的ニ行政命令ニ讓豫シタリ。蓋違警罪ハ刑ノ最輕キ者ニシテ之ヲ各地方ノ便宜ニ任ズルノ當然ナルコトヲ認メタレバナリ（或學者ハ違警罪ヲ司法罪ノ中ニ數ヘズ。）

刑法ニ於テ違警罪ノ他ノ重罪輕罪ニ異ナル性質ヲ證擧センニ、第一違警罪ハ何等ノ場合ニ於テモ公民權ヲ剝奪又ハ停止スルコトナシ。第二違警罪ハ再犯加重ノ例ニ依ラズ、違警罪ヲ犯ス者ヲ以テ重輕罪ヲ犯ス者ト同一ノ種類トシテ認メズ。是レ其ノ故ハ畢竟刑法ハ違警罪ヲ過誤ノ性質トシテ罪惡ト視ザレバナリ。違警罪ハ此ノ如ク重罪輕罪ト其ノ性質ヲ異ニスルガ故ニ各國大抵其ノ制定及處分ヲ一般概括ノ方法ヲ用ヰ行政官ニ委托シタリ。而シテ憲法ノ精神ニ矛盾スルノ嫌

ナシ。

今一國アリテ刑法ノ重輕罪ニ於ケルト違警罪ニ於ケルトノ區別ヲモ識別セズシテ、違警罪ノ委托ヲ例トシテ過度ニ之ヲ廣張シテ、輕罪ノ區別ニ侵入シ、刑法又ハ單行法ニ依リテ重キ罰金（違警罪ノ科料ト異ナリ）又ハ重キ禁錮（違警罪ノ拘留ト異ナリ）ヲ概括的ニ行政命令ニ委托スルコトアランニハ、是レ法律其ノ權力ヲ命令ニ委托スルハ必制限ノ方法ニ依ルベキノ原則ヲ知ラズシテ委托ノ名義ヲ誤用シテ以テ憲法ノ精神ヲ破壞スル者ト謂ハザルコトヲ得ズ（更ニ言ヘバ「グナイスト」氏ノ所謂委托命令ヲ獨立命令トシテ誤用シタリ。）

今參考ノ爲ニ各國違警罪ノ比較ヲ擧レバ左ノ如シ、

佛國

一日以上五日以下拘留

一フランク以上十五フランク以下ノ罰金

獨國

一日以上六週日以下ノ拘留

一ターレルノ三分ノ一以上五十ターレル以下ノ罰金

白耳義國

一日以上七日以下ノ拘留

一フランク以上二十五フランク以下ノ罰金

伊太利

一日以上六箇月以下ノ拘留（分テ五級トシ五級ハ月ヲ以テシ四級以下ハ日ヲ以テ算ス）

五リーウル以上二百リーウル以下ノ罰金（分テ三級トシ一級ハ五リーウルヲ以テシ二三級ハ十リーウルヲ以テ算ス）

英國ハ中古ノ行政命令ニ或ハ罰金三百ポンドノ高度ヲモ制定シタルコトアリ（船舶規則）然ルニ近世ハ大抵五ポンドニ上ラズ。而シテ又概括委托ニ依ラズシテ必特別委托ニ依リタルハ他ノ國ニ比較スレバ尤制限ヲ嚴ニシタルナリ。

我ガ國ノ刑法ハ佛白ニ倣ヒ違警罪ノ區域ヲ過度ニ狹隘ニシタルハ嚴正制限ノ主義ニ依ル者ナリト雖、枉矯正過ノ弊ナシトセズ。故ニ今刑法ヲ改正シテ獨逸ノ制ニ倣ヒ、違警罪ノ區域ヲ廣ムルハ是レ別ニ一ノ問題トナスベキモノナリ。然ルニ刑法ニ依ラズ、刑法ノ明文ヲ外視シテ單行法ヲ以テ違警罪ト輕罪トヲ混淆シ、明カニ輕罪マデモ概括的ニ行政命令ニ委托スルニ至テハ、英ニアレ獨ニアレ現今凡ソ立憲ト名クル邦國ニ在リテ一モ其ノ類例アルヲ見ズ、蓋事此ニ至レバ既ニ立憲政治ノ國ニハ非ザルナリ。

次ニ第二ノ場合（即特別委托ノ場合）ヲ說明センニ、現ニ元老院ノ議ヲ經テ特ニ發布セントスル海關法ニ其

ノ正條ヲ以テ海關規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムベキコトヲ委托シ、又其ノ命令ニハ罰金百圓以下ヲ付スコトヲ得ルコトヲ委托シタリ。此ノ類之ヲ特別委托ト謂フ。卽チ或ル場合ニ限リ法律ノ正條ヲ以テ明文的ニ之ヲ委托シ、命令ヲシテ法律ノ權力ヲ代行セシム。此レ乃各國ノ俱ニ行フ所ニシテ、而シテ其ノ制限ハ必狹隘ナル場合ヲ示シ、必正條ヲ以テ命令ノ關係ヲ示シ、然ル後ニ始メテ命令シテ罰則制定ノ效力ヲ有セシムル者ナリ。故ニ此ノ特別委托ノ種類ヲ以テ決シテ後ノ違警罪ニ於ケル概括委托ノ例ヲ混視スベカラズ。

今一國アリ誤リテ概括委托ノ例ヲ用ヰテ輕罪ノ制定ヲ行政命令ニ委托センカ、是レ乃刑法ノ追加ヲ行政命令ニ許ス者ニシテ、更ニ言ヘバ刑法ノ紛更ヲ行政命令ニ許ス者ニシテ、亦立憲法治國ニ於テ一モ其ノ例ヲ見ザル所ナリ。

今英國ニ於ケル特別委托ノ例ヲ擧グレバ左ノ如シ。

衞生條例

「ヴイクトリア」第十一年第六十三章（千八百四十八年八月三十日）

第六十二條　地方衞生局ハ屠獸場ノ位置ヲ指定シ之ニ關スル規則ヲ設クルコトヲ得。

第百十五條　地方衞生局ノ規則ニハ五磅以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得、其ノ繼續犯ニ對シテハ衞生局ヨリ違犯ノ所爲タル旨ヲ犯人ニ通知シタルヨリ起算シ、一日毎ニ四十「シルリングス」ヨリ多カラザル罰金ヲ科スルコトヲ得。

公務處辯ノ委員ニ關スル條例

ヴイクトリヤ第十年第十六章（千八百四十七年四月二十三日）

第九十六條　委員局ハ事務員ノ服務及其ノ委任セラルヽ事項ニ關シ規則（バイラウス）ヲ設クルコトヲ得。

第九十七條　委員局ハ所屬事務員ノ犯則ヲ罰スルニ五磅ヨリ多ラザル罰金ヲ以テスル事ヲ得。

此ノ他英國中古ノ時ニ在リテハ「グナイスト」氏ガ好古的ニ其ノ歷史ヲ叙論セシ如ク、未ダ議會ノ規定ヲ經ザル事項ニ係リテハ國王自由ニ命令ヲ以テ規定スルノ慣例ナリシモ、近世ハ既ニ其ノ迹ヲ絕チ內國ノ事ハ總テ前ニ擧ゲタル特別委托ノ例ニ依ラザルハナシ。而シテ今日仍舊例ニ依遵スル者ハ獨リ國外藩屬地ニ於ケル命令ノミ。卽チ議會ノ設置ナキ藩屬地及治外法權ノ約束アル外國居住人民ニ對シテハ命令ヲ以テ人民ノ權義ニ係ルコトヲ定メ、議會ノ設ケアル藩屬地ニ於テハ命令ヲ以テ制定法ノ認可ヲ與フ。此ノ命令權ノ最モ顯著ナル一例ハ在外英國臣民ハ必ズ領事ニ依リ登錄セラルベク、登錄ノ都度其ノ手數料ヲ納付スベキモノトスノ類是レナリ。此レ一種ノ特例トシテ視ルベキ者ニシテ而シテ又他ノ各國ノ獨佛等無キ所ナリ。

此ノ外ニ又刑法ニ於テ行政官ノ某々ノ場合ニ於ケル規則ニ違反シタル者ハ某々ノ罰ニ處ストノ

正條ヲ設ケテ、刑法ハ獨リ行政官ノ規則ヲ設クルノ權力ヲ認メテ自ラ其ノ罰例ヲ指定シタルノ方法アリ。卽チ我ガ刑法ニ行政命令ニ於ケル毒藥規則違反ノ罰例ヲ定メ（第四百二十七條）及現ニ發行セラレントスル海軍要港罰則ノ法律ニ海軍大臣ノ定メタル海軍要港規則ニ違反シタル者ノ處罰ヲ揭定スルガ如キ是レナリ。

今其ノ例ヲ求ムルトキハ、

英國救貧法（千八百三十三年八月十四日）

第十五條　救貧委員局ハ救貧法施行ノ責ニ當リ貧人取扱ニ關スル規則ヲ設クルコトヲ得。

第九十條　救貧委員局ノ定ムル規則ヲ犯ス者ハ初犯ハ五磅以下ノ罰金ニ科シ、再犯ハ五磅以上二十磅以下ノ罰金ニ科シ、三犯以上ハ輕罪ヲ以テ論ジ罰スルニ二十磅以上ノ罰金及懲役又ハ禁獄ノ刑ヲ以テス。

此ノ一種ノ方法ハ是レ亦特別制限主義ノ最嚴正ナル者ニシテ、法律ノ正條ヲ以テ行政命令ノ制裁ヲ行フ者ナリ。

以上(甲)違警罪ニ於ケル一般ノ委托(乙)輕罪ニ於ケル各件特別ノ委托(丙)刑法ノ或條ヲ設ケテ行政命令違犯者ヲ處分スルノ方法、此ノ三ツノ方法ニ依リ行政命令（其ノ獨立命令タルト委托命令タルトニ拘ラズ）委托ノ制裁ヲ行フニ十分ナルコトヲ得ベシ。若此ノ三ツノ方法ノ外ニ於テ行政命令ヲ以テ一般ニ輕罪以上ノ罰則ヲ制定スルコトヲ得トセバ、是レ乃憲法ノ逮捕監禁處罰ハ必法律ニ依ルトノ明文ニ違背スル者ナリ。若法律ニシテ此ノ如キノ規定アラバ其ノ法律ハ憲法ニ對シ矛盾ノ主義ヲ執ル者ナリ。若議會未ダ開カザルノ時ニ當リ、政府ハ法律ノ名ニ托シテ此ノ如キノ規定ヲ設クルコトアラバ政府ノ憲法ニ對スル施行義務ハ之ヲ何トカ謂ハン。

約言スレバ立憲ノ主義ハ人民ノ生命財產及自由ヲ貴重スルニ在リ（二十二年二月十一日ノ大詔ヲ見ヨ）唯ダ然リ、故ニ從テ議會ヲ設ケテ法律ヲ議スルノミ。若シ租稅兵役又ハ刑罰ノ重件ニシテ議會ノ議ニ付セズ、行政命令ヲ以テシテ制定スベクンバ立憲政體ハ何ノ效用ヲモ爲サヾルベシ。

意見第三

第一第二章ハ各國ノ事實ヲ引證シテ比較的ニ憲法ノ主義ヲ論ジタリ。今我ガ國ノ近今ノ沿革如何ヲ尋ネンニ、

第一　明治十二年ノ刑法ハ罰例制定ノ權ヲ行政官ニ委任シタルコト前ニ述ベタル所ノ如シ。而シテ其ノ第二條ニ曰、法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖之ヲ罰スルコトヲ得ズ（憲法義解ノ引ク所ナリ）

第二　明治八年ニ元老院ヲ設ケ、立法ノ府ニ擬シ（大詔ニ立法ノ源ヲ廣ムトアリ）タル以來、凡ソ太政官又ハ內閣ヨ

リ布告スル者法律條例規則勅令又ハ何等ノ名稱タルニ拘ラズ、其ノ一圓九十五錢ヲ超ユル罰條ヲ包含スル者ハ一モ元老院ノ議ニ付セザルハアラズ、但ダ十九年各省官制ヲ以テ各省大臣ニ罰金二十五圓以上禁錮二十五日以上ノ權力ヲ委任シタル者ヲ除クノミ。

第三　我ガ刑法ハ輕罪ト違警罪ノ區別ヲ明ニスル爲ニ拘留及科料ノ字ヲ用ヰテ之ヲ禁錮ト罰金トニ區別シタリ。（獨乙ハ此ノ意同シト雖却テ用語ニ區別ナキハ我ガ刑法ニ劣ル者ナリ）

第四　十九年官制通則發布以後各省ニ於テ其ノ第七條ニ依リ罰例ヲ制定シタルモノハ實ニ左ノ數件ニ過ギズ。其ノ他ニ制限ヲ踰越シテ以テ法律ノ區域ヲ侵シタルハ一モ之アルヲ見ズ。而シテ官制第七條ヲ實ニ本年ノ改正ニ於テ廢除サレタルハ憲法ノ主義ニ從ヒタルナリ。

遞信省令第十二號　十九年六月二日

明治十八年八月第二十七號布告海上衝突豫防規則改正追加ニ記載シタル信號器中星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭信號焔管及ビ轟彈ハ遞信省ノ許可ヲ受ケタルモノニ非ザレバ之ヲ製造スルヲ得ズ、犯ス者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス。

農商務省令第九號　十九年八月十七日

蠶種檢査規則

第十二條　第一條第三條第十條ニ違ヒタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス。

海軍省令第百五號　十九年九月七日

横須賀海軍々港規則

第十六條　海軍部外ノ者ニシテ此規則ニ從ハザル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス。

農商務省令第十一號　十九年九月十五日

獸類傳染病豫防規則

第十九條　此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス。

但刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラズ。

大藏省令第六號　二十年四月十九日

北海道水產稅則施行細則

第十六條　第三條水產物ノ總高取調ニ關シ、水產物營業人ニ於テ其產出高ヲ僞リ、又ハ收稅委員ノ調査ヲ拒ムトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス。

但其產出高ヲ僞リタル者自首スルトキハ其罪ヲ問ハズ。

農商務省令第三號　二十年六月一日

取引所條例施行細則

第七十一條　本則ニ違犯シタル者ハ條例ニ據リ處分セラルヽモノヽ外二圓以上二十五圓以下ノ罰金又ハ二日以上二十五日以下ノ禁錮ニ處ス。

農商務省令第四號　二十年十二月二十九日

茶業組合規則

第三十六條　此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ金二圓以上金二十五圓以下ノ罰金ニ處ス。

大藏省令第三號　二十一年四月二十六日

煙草稅則施行細則

第二十九條　第九條第十條第十四條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ二日以上二十日以下ノ罰金ニ處ス。

陸軍省令第十四號　二十一年五月二十六日

陸軍豫備兵後備兵在鄕中ノ守則

第十五條　第二條ノ通報人ニシテ召集ノ命ヲ通報セザル者及第三條本文ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處シ、又ハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス。

大藏省令第七號　二十一年七月七日

沖繩縣酒類出港稅則施行細則

第五條　出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス。

大藏省令第九號　二十一年八月三日

醬油稅則施行細則

第二十四條　第一條但書ノ許可ヲ受ケザル者、及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス。

明治十二年以來已ニ十年ヲ經、裁判官ナリ代言人ナリ政論者ナリ又法律生徒ナリ重輕罪ヲ以テ法律ノ專屬トシ、行政命令ハ僅ニ違警罪ノ一部ヲ制定スルノ權アリトノ思想ハ總テ其ノ腦漿ニ涵漸シテ一般ニ是認シ慣熟スル所タリ。史乘ノ經歷此ノ如クナルニ及ンデ今俄カニ政府ノ隨意法律ヲ以テ高度ノ輕罪ヲ行政命令ニ概括的ニ付托シ、而シテ憲法ニ對スル薄弱ナル解釋法ヲ以テ之ガ理由トセントス。此レ故サラニ空拳ヲ以テ戰ヲ輿論ニ挑ム者ナリ。

法律的教育ハ既ニ速力ヲ以テ民間ニ發達シ、學校ノ卒業生徒ハ往々比較的ノ思想ヲ以テ立法ノ原則ヲ了解シ能フノ時ニ際シタリ。「グナイスト」氏ノ行政論ノ如キ、今日ノ學問社會ノ新奇ノ說ニ非ズ。若其ノ說ヲ誤用シテ杜撰ノ政令ヲ發スルコトアラバ政府ノ面目ハ一轉シテ地ニ墜チン。

結論

上ニ述ブル所ノ理由ニ依リ小官ハ閣議樞議ノ既ニ決裁ヲ經タルニモ拘ラズ、敢テ意見ヲ上陳シテ内閣ノ再議ヲ懇請ス。其ノ要左ノ如シ。

一、一般概括的ノ委托トシテ行政命令ニ罰則ヲ附スルハ違警罪ニ限ルベシ。輕罪ニ及ブベカラズ。

二、現行刑法ノ違警罪ハ低度ニ過グトナラバ之ヲ改正スルカ又ハ單行法ヲ用ヰテ稍ヤ高度ニ進マシムベシ。但刑法ニ慣用シタル科料拘留ノ名義ヲ用ヰテ輕罪ト區別セザルベカラズ。及輕罪ニ混同スルマデニ高度ニ上ラシムベカラズ。

三、稀ニ必要ノ事件ニ限リ場合ヲ示シテ輕罪ノ制定ヲモ命令ニ委托スルコトアルハ一般概括ノ方法ヲ用ウベカラズ。必ズ其ノ場合ヲ定メ法律ノ正條ニ依リ嚴正ナル制限方法ヲ用ウベシ。故ニ諸般ノ事件ニ通行スベキ單行ノ公布ヲ用ヰテ規定スルノ要用ナシ。現ニ發布セラレントスル所ノ法律案ハ即チ此ノ諸般ノ事件ニ通行スベキ概括法ヲ用ヰタリ

モスセ氏トノ問答

井上毅

問

勅令ハ法律ノ委任ニ依ラズシテ固有ニ警察罰ヲ定ムルコトヲ得ベキハ既ニ貴下ノ教ヲ領シタリ。但シ普國ノ警察法ニハ各省大臣以下ノ罰令ノ權力ヲ揭ゲテ勅令ノ此ノ權力ヲ揭ゲザルハ、勅令ニハ無制限ニ罰例ヲ定ムルヲ許スノ方向ヲ取リタルカ、又ハ勅令ニハ罰例ヲ付スルノ要用ナキヲ以テ之ヲ許サヾルノ主義ナルカ？

英國ノ如キハ現ニ藩屬地ニ係ル「オルダ、イン、カウンシル」ノ法律ニ均シキ權力アルヲ除ク外、其ノ他ハ王命ニ罰例ヲ附スルノ例ナキニ似タリ。但各局（デパルトメン）ノ規則ハ法律ノ委任ニ依リ、或ハ默許ニ依リ、若干磅ノ罰例ヲ設ケタリ、王命ハ此ノ權力ヲ有セズシテ各局ノ規則ニ却テ之ヲ有スルハ何ゾ乎？

モスセ

答

君主ノ警察罰令權ニ關スル貴問ニ對シ予ハ左ノ如ク答フルノ榮ヲ得タリ。

皇帝ハ法律ノ特別ナル委任ニ依ラズシテ固有ニ罰金權ヲ有スト謂ヘル前回ノ陋見ハ日本憲法ノ解釋ニ依リテ立論シタルナリ。

之ニ反シ孛國々法ニ依ルトキハ君主ハ法律ノ特別ナル委任アルニ非ザレバ（憲法第六十三條緊急命令ノ場合ハ別ナリ）罰令ヲ發スルコトヲ得ズ。凡ソ臣民ニ循由セシムルノ效力アル法則ハ單ニ憲法又ハ其ノ他ノ法律ノ特別ナル委任アルトキニ限リ之ヲ制定スルヲ得ルノミ。蓋此ノ如キ委任ハ憲法ニ於テ第六十三條ヲ除ク外、第四十五條ニ之ヲ明揭ス。而シテ該條ニ依レバ法律ヲ施行スル爲メ細則ヲ發スル權ヲ勅令ニ委任シタルニ過ギズ。日本憲法第九條ノ如キ罰令ニ關スル一般ノ委任ハ孛國憲法ノ知ラザル所ナリ。故ニ該條ト第八條トヲ照合スルトキハ勅令ニ罰例ヲ設クルハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ委任シタル場合ニ限ルト謂フヲ得ベシ。然レドモ君主ハ一般ノ委任ヲ爲シタル法律ハ一モ之アルコトナシ。若君主ニシテ罰令ヲ發セント欲セバ必ズ法律ノ特別ナル委任

孛ノ第八條ヲ設ク

ヲ受ケザルベカラズ。蓋君主ニ一般ノ委任ヲ爲サヾルノ理由ハ前回ノ陋見ニ於テ中央廳ニ關シ既ニ陳辯シタル所ノモノニ異ナルコトナシ。之ヲ要スルニ凡ソ一般ノ法則ハ特別ノ委任ヲ要スル理由ノ存セザル限リハ憲法上ノ樣式ニ從ヒ立法ノ手續ニ依リ之ヲ制定セザルベカラザルナリ。

英國ニ於テハ議會ノ立法權ノ外、君主ニ命令權アルハ固ヨリ世人ノ知ル所ニシテ、又タ法律ハ必ズ法律ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ廢止又ハ變更スルヲ得ズトノ原則アリテ、命令權ヲ制限スルノミ。蓋此ノ「ブロカラメーション」卽チ「オルヂナンス」ハ英國ノ慣例ニ於テ「プリウチ、カウンシル」ノ會議ニ依リ之ヲ議決スルガ故ニ、「オルダ、イン、カウンシル」ト稱スルナリ。而シテ命令權ノ效力ハ漸次法律ノ區域ヲ擴張シタルガ爲ニ、制限セラレタルノミナラズ、又星院（ステルン、カムメル）ノ廢止ト俱ニ「プロカラメーション」ハ一モ犯罪及罰例ヲ新設スベカラズトノ原則ヲ明言シタルガ爲ニ制限セラレタルナリ。固ヨリ別ニ立法機關ヲ有セザル藩屬地ノ如キハ例外ニシテ、法律命令共ニ「オルダ、イン、カウンシル」ヲ以テ之ヲ發スルヲ得ベシ。故ニ隨テ亦之ニ罰例ヲ俟タザルナリ。卽チ此ノ場合ニ於テハ「オルダ、イン、カウンシル」ハ法律ニ代テ其ノ效力ヲ有スルモノトス。蓋此ノ特例ヲ除ク外「オルダ、イン、カウンシル」又ハ各局（デパルトメン）及地方ノ命令ニ罰例ヲ設ケント欲セバ、必ズ「ヱムポーヱリング、クロース」卽チ法律ノ特別ナル委任ヲ受ケザルベカラザルコト孛國ニ於ケルト相異ナル所ナシ。而シテ是レ主義上

命令ヲ以テ罰例ヲ設クベカラズト謂ヘル前記ノ原則ニ依テ生ズル自然ノ結果ナリ。然レドモ近來英國ノ立法者ハ法律ヲ以テ命令ノ區域ヲ過度ニ限局シタルノ不便ヲ感ジ、更ニ命令權ヲ相當ノ範圍マデニ擴張スルノ方針ヲ取ラントスルハ世人ノ汎ク知ル所ナリ。(グナイスト氏英國行政學第百二十五丁乃至百三十九丁)

千八百八十九年六月六日

法律命令ノ類別ニ付意見

古來東西洋諸國ニ於テ政治ノ學ヲ講ジ、其書其法多シト雖モ其理ヲ究ムル未ダ萬邦共同是認スルノ高度ニ達セズ。各國其典ヲ別ニシ、博士其見ヲ異ニス。而シテ其實ヲ觀ルニ政治ノ學ハ猶研究試驗ノ地位ニ在ルモノヽ如シ。

各國其典ヲ別ニスル所以ヲ問ヘバ一トシテ其國ノ經歷シ來リタル事跡ノ差ニ歸セザルハナク、博士其見ヲ異ニスル所以ハ唯其自信ノ空理ヲ緣飾シ、又ハ一局面ノ所見ニ據リテ汎ク萬邦ニ應用スベキ政治學理ヲ按定セント欲スルニ過ギズ。而シテ行政ノ法ヲ論ズルモ、博士ノ說亦未ダ一定セズ。嚮ニハ自治制ヲ是トシタルモ今ヤ漸ク一統制ヲ以テ眞正ナリト認メント欲スル者アルニ至レリ。

國民ノ公權ニ付テハ西洋ニ於テ英國ノ習慣ニ成リタルモノヲ見テ之ヲ是認シ、其效果ハ行政官又甚シキハ司法官ヲモ國民ノ公權ヲ以テ之ヲ任罷スベシト爲スニ至リタルモノアルモ、近時獨逸流ノ政治學微ク行ハレテ、國民公權ノ種類ヲ審査分別シ、中ニ就テ人民ノ選擧ニ係ル國會議員ノ權限ハ課稅物品ノ種類、等級ノ區別及稅金徵收ノ方法ヲ議定スルニ止メ、彼ノ納稅者ハ公費金額

ヲ議定スルノ公權ヲ有ストノ舊說ヲ非認スルモノアルニ至レリ。

此問題ハ憲法ノ本體ヲ動スニ足ルベキ至重至大ノ效力ヲ有シ、其解釋如何ニ由テ尙ホ法律命令ノ類別ヲ定ムルニ於テ緊要ノ關係アリトス。例ヘバ宣戰媾和ハ直ニ國民ノ所有物品上ノ課稅ニ關スルヲ以テ、必ズ之ヲ國民ノ公權公義ノ中ニ加ヘテ其議ヲ經ベキ法律ノ部類ニ置クベシ。徵兵令モ亦同ジ、陸海軍及其官衙モ亦同ジ、其凡ソ公費ヲ要スルモノ悉皆之ニ同ジトスルニ於テハ、命令ノ部類ニ屬シ、國民ノ議ヲ經ズシテ可ナルモノハ殆ンド絕無ニ歸スベシ。若シ之ニ反シ國民或ハ代議人ノ公權ハ斯ノ如キ法律命令ヲ議スルコトヲ含有スルモノニ非ズ、卽チ法律命令ニ特ニ之ヲ議スルノ官衙アリテ、制規ニ則トリ之ヲ議奏シ、且之ヲ奉行スルモ亦各別ノ制規ニ依ルベキモノトセバ、法律命令ノ類別ハ必シモ國民ノ公權ニ關係スルモノニ非ザルナリ。

法律命令ノ類別ハ國民ノ公權ニ關係スルモノニ非ズト認ムルトキハ、其類別ヲ定ムルノ要ハ果シテ何處ニ存スル乎。

法律命令（卽チ勅令ヲ云フ）ハ均シク勅裁ニシテ更ニ輕重スベキモノニ非ザレバ、若シ其抵觸スルノ疑アルニ方リ之ヲ裁決スルニハ何ノ權力ヲ以テ之ニ應ズベキ乎。

請フ先ヅ第一ノ問題ヲ論ジテ後ニ第二ノ問題ニ及ブベシ。

法律命令ハ文運未開ノ國ニ於テハ之ヲ類別スルノ要甚ダ少シト雖モ、開化ノ度漸ク進ムニ從ヒ政務緊急ニ赴クトキハ分科專業ノ法ヲ以テ之ヲ處セザルヲ得ザルニ由リ、政法ヲ法律命令ノ二類ニ大別シ、尙ホ其類別ノ中ニ又種類ヲ分チ、各其事務ヲ辨ゼシムルノ必要ヲ見ルニ至ルベシ。然レバ則チ其類例ハ概シテ各個人ノ生命名譽財產ニ直接ノ關係ヲ有シ、其關係ハ專ラ他人ヲ對手トスベキ事件ニ係ルモノヲ法律ノ部類ニ置キ、概シテ國家須要ノ事業ヲ行フニ於テ官吏又ハ臣民ノ服膺スベキ事件ニ係ルモノヲ命令ノ部類ニ置クヲ適當トス。

法律命令ノ抵觸スルノ疑アルニ方リ之ヲ裁決スルノ權力ハ單ニ此法律命令ヲ出シタル人ニ存スルモノトス。然レドモ此權力ヲ實行スルニハ特ニ選任シタル若干ノ審按官ヲシテ制規ニ則トリ之ヲ審議セシメ、其斷案ニ基キ之ヲ裁定シテ可ナラン。

大木寺島兩閣下ニ寄スル書

井上　毅

生病痾躬ニ在リ、拜趨ヲ以テ晤教ヲ乞フコト能ハズ。謹デ書牘ヲ作リ區々ノ意ヲ致ス。

惟タ　高明兩閣下ノ裁取ヲ仰グ。

窃ニ惟フニ樞府ノ行政裁判法ニ於ケル成議ハ不幸ニシテ言フニ忍ビザルノ結果ヲ成セリ。蓋其ノ成議ハ憲法ニ矛盾スル者一、事殆ント既遂ニ屬シ、駟馬追フベカラザルノ勢アリト雖、生願クハ一タビ　高明ノ爲ニ之ヲ陳ブルコトヲ得ン。何ヲカ憲法ニ矛盾スト謂フ乎。我ガ憲法ハ勅令ヲ以テ法律ヲ變更スベカラザルコトヲ明言シタリ。蓋各國ノ憲法及學說ハ法律勅令ノ定義ニ於テ分チテ三種トスルコトヲ得ベシ。

其ノ一ハ勅令ヲ以テ法律ノ施行細則タルニ止メ、其ノ效用ヲ輕弱狹局ノ範圍ニ限ル者トス。卽佛、白、伊等ノ國法學ノ說ク所是レナリ。

其ノ二ハ法律ト勅令トヲ以テ全ク異形同質ノ物トシ、勅令モ亦時アリテ之ヲ法律ト名クルコトヲ得ベシト謂フ獨逸博士ラバント氏ノ說此レニ近シ。是レ蓋普國ノ憲法ニ既ニ裁判ハ法律ニ依

ルコトヲ明言シツヽ、更ニ又裁判官ノ法律及勅令ニ遵據スベキコトヲ複言シタルニ因リ、文學的ニ兩者ノ間ヲ彌縫セントシタルニ過ギザルナリ。

其ノ三ハ勅令ハ以テ法律ノ空曠ヲ補充スベク、法律ト勅令トノ間ニ一定ノ差等ヲ設クルハ能フベカラザルノ事ナリト雖、唯一ハ踰越スベカラザル限界ハ、勅令ヲ以テ法律ヲ變改スルコトヲ得ズト謂フニ在リト云、是レ「グナイスト」博士ノ英國行政學ニ縷述スル所ニシテ、獨逸ノ多數ノ學者ハ實ニ之ヲ贊成シタリ。

我ガ憲法ハ實ニ第一第二ノ極端ノ兩說ヲ捨テ、第三ナル大中至大ノ論理ヲ採用セラレタリ（是レグナイスト博士ノ最モ我ガ憲法ニ贊成ヲ表スルノ所ナリ）

然ルニ行政裁判法ニ於ケル樞府ノ修正案ハ、法律勅令ヲ以テ一般ニ之ヲ平等同視シテ其ノ間ニ一モ斟酌ヲ置カザル者ノ如シ（此レ猶可ナリ、此レ猶未ダ憲法ニ矛盾シタリトノ駁說ヲ爲スコトヲ容サヾルベシ）但シ法律ノ正文ニ於テ已ニ行政訴訟ノ期限ヲ定メテ六十日トシ、而シテ又勅令ヲ以テ此ノ規定ヲ變更スルコトヲ許スニ至リテハ（行政裁判法第　條之ヲ指シテ法律ノ正文ハ憲法第　條ノ規定アルヲ省顧セズシテ自ラ勅令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ認メタル者ナリト謂ハザルコトヲ得ズ。

（旅中議案ヲ携帶セズ六十日ハ或ハ三十日ナリシカ記憶確ナラズ）

說明者ハ必ズ言ハン。曰是レ法律自ラ其ノ權力ヲ勅令ニ委任スル者ナリ。故ニ憲法ニ矛盾スル

者ニ非ズト、抑法律ハ固ヨリ自ラ其ノ權力ヲ勅令ニ委任スルコトヲ得ベシ。然ルニ此レ其ノ程度如何ト顧ミザルベカラズ。法律ハ其ノ空曠ノ地ニ於テ勅令ニ其ノ權力ヲ委任スルコトヲ得ベシ。法律ハ其ノ全部ノ權力ヲ擧ゲテ之ヲ勅令ニ委任スルコトヲ得ベカラズ。法律ハ又自ラ禁令ヲ設ケテ勅令ニ其ノ禁令ヲ破ルコトヲ委任スルコトヲ得ベカラズ。自ラ制限ヲ設ケテ勅令ニ其ノ制限ヲ毀ツコトヲ委任スルコトヲ得ベカラズ。若其ノ禁令ト制限トヲ確定シタルニ拘ラズ、勅令ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得セシメバ、是レ法律ノ力ハ至テ微弱ナル者トナリ、禁令及制限ハ絶對的ノ性質ヲ固有スベキニ拘ラズ、絶對的ニ行ハル、ノ效果ナキニ至ラントス。此レ乃憲法第　條ノ明文ノ豫見シテ之ヲ防禁セシ所ナリ。夫レ法律ハ既ニ六十日ヲ以テ成文ノ制限トシ、積極的ニハ六十日內ニ於テハ出訴ノ自由アルコトヲ示シ、消極的ニハ六十日ヲ過レバ出訴ノ權ヲ失フコトヲ示セリ。而シテ訴訟期限ノ如キハ其ノ人民權利ノ關係ナルヲ以テ、法律ヲ以テ之ヲ規定スルコト固ヨリ當然ナル者ナリ。然ルヲ將來ノ勅令ヲ以テ此ノ期限ヲ短長シテ、或ハ二十日トシ或ハ九十日トスルコトアラバ法律上ノ期限ハ頓ニ絶體ノ效力ヲ失フニ至ラン。此レ乃チ勅令ヲ以テ法律ヲ變更スルニ非ズシテ何ゾ。

說明者ハ又必ズ言ハン。曰是レ勅令ヲ以テ法律ノ除外例ヲ設クルナリ。法律ノ一般ノ規定ヲ變更スルニ非ザルナリト。抑々絶對的ノ制限ニ向テ除外例ヲ設クルモ亦變更ノ一ナリ。憲法ノ正文ハ豈勅令ヲ設クルコトヲ許ス者ナリトシテ解スル者ナランヤ。說明者ハ又會計法ヲ引援シテ成例トスルナラン。抑々會計法ハ固ヨリ勅令ヲ以テ法律ノ除外例ヲ設クルコトヲ許シタルノ例ナキニ非ズ。然ルニ此レ固ヨリ贊美スベキノ事ニ非ザルノミナラズ、會計法ハ出訴期限ノ如キ明文ノ制限ヲ設ケテ而シテ勅令ニ變更及除外例ヲ許シタルノ例ハ一モコレアラズ。法律自ラ絶體的ノ制限ヲ設ケツ、又自ラ勅令ノ變更ヲ許スハ實ニ行政裁判法ヨリ始マル、作俑ノ責ハ其レ將タ誰レニカ歸セン。生ハ此ノ行政裁判法ノ一條ノ再議ヲ願フノミナラズ、併セテ一般ノ行政裁判法ニ於テ法律ト勅令トノ間ニ稍權度ノ斟酌アランコトヲ望ム者ナリ。

憲法義解ニ矛盾ストハ何ゾヤ、蓋行政裁判ハ行政ニ屬スベキカ司法ニ屬スベキカハ此レ亦各國國法學ノ一大疑問トシテ未ダ歸一セザル所ナリ。

第一　佛伊等ノ國ハ其ノ行政裁判ノ淵源ノ祖國タルニ拘ラズ、仍純然タル行政部ノ物トシ專ラ行政官ヲ以テ之ヲ組織シタリ。

第二　孛墺等ノ國ハ佛國ノ行政裁判ヲ模倣シツ、シ（シュルチエ氏ノ說ニ依ル）更ニ一歩ヲ進メテ之ヲ司法部トシ修身司法官ヲ以テ組織セントスルノ傾向ヲ取リタリ。但シ未ダ米國ノ「コート、オフ、クレーム」ノ純然タル司法裁判タルガ如キニハ至ラザルノミ。

此ノ區別ハ實ニ其ノ組織元素ノ或ハ行政官タリ或ハ司法官タルニ因由スル者ナリ。

我ガ憲法ハ實ニ行政裁判ヲ以テ司法裁判ノ局外トシ而シテ伊藤伯ノ憲法義解ハ司法裁判ノ外ニ行政裁判ヲ設クルノ必要ノ理由ノ一トシテ、行政事務ニ經驗アル行政官其人ヲ用ヰテ行政裁判官トスルノ要件ヲ說明シタリ。然ルニ今樞府ノ成議ヲ見ルニ行政裁判官ヲ以テ懲戒上ノ裁判ニ依ラザレバ退職セザルノ終身官トスルノミナラズ、更ニ又行政裁判官ハ或ハ司法官ニ取リ、或ハ行政官ニ取ルコトヲ揭ゲタリ。此レ乃チ殆ド行政裁判ヲ以テ半化ノ司法裁判トスル墺國主義ヲ勇進採用スルノミナラズ（此レ乃可ナリ。但シ憲法ノ精神ハ如何ト顧慮スベキコトヲ免レズ）司法官ヲ以テ組織ノ元素ノ一分トスルハ卽チ憲法義解ト顯ハニ相矛盾スル者ナリ。

辯者ハ謂ハン。憲法義解ハ一ノ私著ニシテ立法者ノ注意ヲ引クニ足ラザルナリト。然ルニ義解ノ此ノ一段ハ實ニ憲法ノ草案ヲ樞議ニ下付セラルヽノ時ニ理由トシテ正條ニ附隨セシメラレ、樞議ニ於テ別ニ此ノ點ニ向テ異議アルヲ聞カザリシ者ナリ。之ヲ樞議ニ於ケル前後撞着ト謂フモ亦辯護ニ困ムベシ（況ヤ義解モ亦全ク之ヲ輕視スルノ端ヲ啓クベカラズ）何ヲカ市制町村制ト矛盾スト云フ。蓋市制町村制ハ自治事務ト行政事務トヲ區別シ自治事務ニ向テハ歷記法ヲ取リ、行政事務ニ向テハ概括法ヲ取リタルハ其ノ訴願ニ於ケル立法ノ精神ナリ。（町村制百二十條市制百十七條及說明）自治事務ハ譬ヘバ一家ノ事ノ如シ。故ニ訴願ノ門ヲ狹クシテ歷記法ヲ取リタルコト行政裁判ノ例ニ同ジ。行政事務ハ國家ノ監督ヲ緩慢ニスベカラズ。而シテ言路ヲ洞開シテ以テ下級官吏ノ專横ヲ防制シ、人民ノ苦痛ヲ疏通セザルベカラズ。故ニ訴願ノ門ヲ廣クシテ概括法ヲ取リ以テ行政裁判ノ例ニ異ナラシメタリ。此レ實ニ立法者ノ精密ナル注意ニシテ其ノ孛國ノ地方行政法ノ上ニ出デタル結構全備ナル者ト評スルコトヲ得ベシ（孛國ノ地方行政法ハ實ニ千八百十年ノ訴願法ト矛盾ス。故ニ學者ヲシテ牽强ニモ有式訴願無式訴願ノ區別ヲ分ツノ勞ヲ取ラシメタリ）然ルニ今樞議ノ成案ハ却テ市制町村制ノ主義ニ依ラズシテ退步却行シテ彼ノ孛國ノ滅裂ノ弊制ニ倣フコトヲ力メントス。此レ豈內ヲ賤ミ外ヲ尊ビ目ヲ輕ジ耳ヲ重ズルノ諺ニ近キコトナキヲ得ン乎（訴願法ハ行政官廳ニ對スルノ訴願ヲ一般ニ規定スル者ナリ故ニ概括法ニ依ラザルベカラズ）

右ニ述ベタル三大矛盾ノ外ニ猶樞議ノ成案ハ一條中ニ自ラ矛盾ヲナスアリ。五人以上ノ合議裁判タルコトヲ規定シツヽ、更ニ缺席ノ爲ニ四人トナルトキハ云々ノ場合ヲ揭グルコト是レナリ。說明者ハ、是レ五人以上トアルニ因リ、七人又ハ九人ノ時ニ適用スル除外例ナリト辯ゼリト聞ク。抑々缺席トハ定員ニ對スルノ文字ナリ。唯ダ五人ノ定員ナク故ニ缺席ト謂フコトヲ得ベシ。若シ定員ノ外ナル七人或ハ九人ノ場合ナラバ缺席ト名クルコトヲ得ズ。而シテ缺席ノ爲ニノ五字ハ何等ノ意義ヲモナサヾルベシ。好シ何等ノ强辯アリトモ普通ノ感觸ニ訴ヘナバ、缺席ノ爲ニハ五人ノ定員ヲ破リテ四人ニテ裁判スルコトヲ得セシムルノ法文トシテ解釋スベシ。此レ乃チ法律自ラ定メテ又自ラ之ヲ破ル者ナリ。以上ノ妄言ハ實ニ樞府ノ尊嚴ヲ干瀆スルノ嫌ナキコト能ハズ。然ルニ生ハ常ニ國會開設ノ後立法者ノ或ハ憲法及憲法義解又ハ既定ノ法律ニ向テ重キヲ置カズシ

テ、妄意輕作ノ弊ニ涉ルコトアルヲ免レズ。我ガ法律史ヲシテ矛盾錯亂ノ觀相アラシムルニ至ランコトヲ杞憂スル者ナリ。若シ樞府ノ議ニシテ猶時アリテハ矛盾ノ弊ニ墜ルコトアリト謂ハヾ、其ノ影響スル所實ニ少小ニ非ズ。而シテ後世或ハ口ニ藉キ非ヲ飾ルノ資料ヲ假ルノ徒アルモ亦知ルベカラザルナリ。生ハ中心ニ樞府ノ尊嚴ヲ敬重ス。故ニ兩閣下ノ爲ニ之ヲ盡言スルコトヲ憚ラズ。惟タ兩閣下之ヲ裁セヨ。若取ルベキノ一說ナリトセラレバ幸ニ樞府ノ各官ノ淸矚ニ付セラレンコトヲ望ムナリ（若假刷ニ付シテ各官ノ覽ニ便スルコトヲ得バ幸甚）

二十三年五月十一日

大木議長閣下
寺島副議長閣下

井上毅頓首

相州逗子ニ於テ

公文式

法律命令

第一條　法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ宣布ス。法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル。

第二條　法律勅令ハ內閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ內閣ニ提出シ、總テ內閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ。

第三條　法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣之ニ副署シ、年月日ヲ記入ス。其各省主任ノ事務ニ屬スルモノハ內閣總理大臣及主任大臣之ニ副署ス。

第四條　內閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍內ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ヲ施行シ、又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得。

第五條　閣令ハ內閣總理大臣之ヲ發シ、省令ハ各省大臣之ヲ發ス。

第六條　閣令ハ年月日ヲ記入シ內閣總理大臣之ニ署名ス。

第七條　省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス。

第八條　各官廳一般ニ關スル諸規則ハ內閣總理大臣之ヲ定メ、各廳處務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム。

第九條　內閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條、第七條ノ例ニ依ル。

布告

第十條　凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ、官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ制限トナス。但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル。

第十一條　天災時變ニ依リ官報到達日數內ニ到達セザルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス。

第十二條　北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メズ、現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス。

凡ソ島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス。

第十三條　法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ、又ハ特ニ施行ノ日ヲ揭ゲタルモノハ總テ前條ノ例ニ依ラズ。

印璽

第十四條　國璽御璽ハ內大臣之ヲ尙藏ス。

御璽國璽ハ親署ノ後內大臣之ヲ鈐ス。

第十五條　法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス。

第十六條　國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス。

四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス。

第十七條　勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ、奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス。

本年二月發布各省官制第六條ヲ以テ各省大臣ニ省令ヲ發スルノ權力ヲ附與セラレタルハ法律勅令ヲ施行スルニ便宜ヲ與ヘ、其趣旨ヲ貫通セシムル爲ナリ。然ルニ各省ヨリ發布スル省令往々其範圍內ノ外ニ出ル者アリ、又ハ相互矛盾スル者アリテ其弊ヲ矯正セザル可カラザルノ必用ヲ見ルニ至レリ。故ニ余ハ各省大臣ニ訓示シテ、省令發布前必ズ閣議ニ提出スベキコトヲ以テセリ。今茲ニ省令ノ審査委員ヲ命ズルニ當リ、左ニ記スル所ノ數ケ條ヲ標準トシテ之ヲ査明シ必ズ遺漏ナ

カランコトヲ望ム。

第一　各省ノ立案果シテ省令ト爲スベキ事件ナルヤ否。

第二　省令ノ權衡、及ビ他省ノ省令ト矛盾スルコトナキヤ否。

第三　職權若クハ委任ノ事柄ニシテ法律勅令等ノ範圍内ナルヤ否。

第四　安寧秩序ヲ保持スルノ目的ニシテ果シテ其效力アリト看認ムルコトヲ得ルヤ否。

凡ソ前記ノ點ヲ主眼トシテ審査シ、疑議ニ涉ル者ハ本大臣ノ裁決ヲ乞フベシ。

明治十九年十二月二十二日

内閣總理大臣

日本政府ノ會計年度

英國公使館書記官　トレンチ

右一篇ハ英國公使館書記官「トレンチ」氏ガ日本ノ財政ニ就キ取調ベヲ爲シ、千八百八十六年十二月二十日英公使ニ差出シタル報告書ヨリ抄譯セシモノナリ。(但シ此ノ報告書ハ英公使ヨリ其ノ本國政府外務大臣ヘ送致シタルモノナリ)

日本政府ノ會計年度ハ從來七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ終ルヲ以テ其一周年タリシガ千八百八十四年(明治十七年)十月之ヲ改正シテ四月一日ヨリ其翌年三月三十一日マデヲ會計一周年度ト爲スノ旨ヲ公達セラレタリ。當時其年度ヲ改正シタルハ歐洲某國等ノ會計法ニ倣フノ趣旨ニ出デタル迄ノコトナルヤモ謀ラレザレドモ、此改正ニハ別ニ確實ナル事由アルアリテ然ルモノナリ。

蓋シ日本政府ノ會計法ハ從來上半期ト下半期ノ兩期ニ於テ國庫出納ノ順序前後ヲ異ニシテ其間大ニ出入ノ權衡ヲ失スルアルガ爲メニ、頗ル錯雜シテ整理ニ困難ヲ感ズルノ情態ナリキ。乃チ國庫ヨリ出ヅル經費ノ分ハ概ネ上半期(七月ヨリ其年ノ十二月マデ)ニ甚ダ多クシテ下半期(一月ヨリ其年ノ六月マデ)ニ甚ダ少ナク、之ニ反シテ國庫ニ入ルモノハ下半期ニ至ルマデハ之ヲ收メザ

ルモノ多キニ居ルガ爲メニ、出ヅルヲ前ニシ入ルヲ後ニシテ收入轉倒ノ姿ナリキ。今マ歳入ノ諸源ヲ列記シタル目次ニ就キ一閲ノ勞ヲ取レバ、容易ニシテ此ノ如キ特種ノ事實アルコトヲ瞭知セラル可シ。先ヅ日本ニ於テハ亞細亞諸國ニ於ケルト同ジク政府ノ經費ヲ維持スルノ主源ハ地租ニ在ル可シ。王政回復ニ至ルマデハ日本ノ租税ハ一ニ地租ニ限レリト謂フテ可ナリ。維新ノ後今日ニ至ルモ地租ハ尚ホ歳入全額ノ半數以上ヲ占メタリ。然ルニ地租ノ徵收タルヤ、秋收ノ後ニ在リテ卽チ一月ヨリ其年ノ六月ニ至ル間トス。又地租ニ次デ歳入ノ最大源ヲナスモノハ酒造税ナレドモ、是レ亦秋收季節ノ末ニ及ビテ釀造シタル高ニ基キテ賦税ヲ爲スガ爲メニ、又下半期ニアラザレバ徵收スベカラズ。然ラバ二種ノ大税源タル地租、酒造税ノ收入ハ政府經費ノ支拂上ヨリ云ヘバ緊要ナル支拂期限ニ後レタルヲ見ルナリ。左レバ安クンゾ其會計ノ錯雜ニ涉ラザルヲ免カレンヤ。是レ年度ノ改正ヲ致セル所以ナリ。卽チ舊來ノ年度ニ比スレバ前ニ三箇月ヲ延バシ、後ニ三ケ月ヲ縮メ、出入ノ時期ヲ符合セシメ、以テ貸借決算ノ煩ヲ省クノ效果ヲ得タリ。但シ此改正ノ爲メニ全周年度ノ會計ヲ完結スルコト能ハズシテ、一周年ヲ短縮セザルヲ得ザリキ。是レ千八百八十五年ヨリ八十六年ニ亙ル豫算ノ年度卽チ十八年度ハ僅カニ九個月間ニ止マレル所以ナリ。

千八百八十六年ヨリ八十七年（明治十九年度）ニ亙ル豫算ノ事

十九年度ノ豫算書ハ明治十九年四月ノ月末ニ公布セラレタリ。其歳入豫算額ハ七千四百六十九萬五千四百十五圓（英貨千二百四十四萬九千二百三十六磅）ニシテ、歳出豫算額ハ七千四百六十八萬九千十四圓（英貨千二百四十四萬八千百六十九磅）ナリトス。

今右十九年度ノ豫算額ヲ以テ前年度卽チ十八年度ノ豫算額ニ比較スレバ、其對照ノ正鵠ヲ失ス可シ。是レ會計年度ヲ變更シタルガ爲メニ、前年度卽チ十八年度ノ豫算ハ僅カニ九個月間ノ計算ナレバナリ。然レドモ前々年度ナル千八百八十四年ヨリ八十五年ニ亙ル年度卽チ十七年度ノ豫算ニ比スレバ、歳入ニ二十一萬四千五百九十二磅、歳出ニ二十一萬五千六百五十九磅ノ減少ヲ見ル。

歳入豫算ノ事

歳入科目	円	磅
地税	三四、一五一、五八二	七、一九一、九三〇
國立銀行税	二二一、八五〇	三六、九七五
證券印税	八二五、八八九	一三七、六四八

訴訟用印紙料	三九〇、六二九	六五、一〇五
北海道物産税	五三八、二一六	八九、七〇三
米商會所税	三一二、〇三一	五二、〇〇五
株式取引所税	七三、二九〇	一二、二一五
酒造税	一四、八四三、〇三九	二、四七三、八四〇
醫麹營業税	二七、八〇〇	四、六三三
醬油税	一、二六六、五一〇	二一一、〇八五
菓子税	四五〇、〇〇〇	七五、〇〇〇
煙草税	一、五〇一、一八四	二五〇、一九八
賣藥税	三五五、六二六	五九、二七一
船税	二三一、一六九	三八、五二八
車税	四七八、六八九	七九、七八二
度量衡税	一、七三四	二八九
牛馬賣買免許税	七二、四八二	一二、〇八〇
銃獵免許税	五六、三〇九	九、三八五
海關税	二、六二一、七七四	四三六、九六二
過年度收入	三一三、三九二	五二、二三二
郵便收入	二、三〇一、三九九	三八三、五六七
電信收入	八八二、八六八	一四七、一四四

森林收入	三九二、三九三	六五、三九九
官業諸收入	一、四一三、一六八	二三五、五二八
官有物貸下及拂下代	四七三、七七一	七八、九六二
免許及手數料	一〇二、五一六	一七、〇八六
貸付返納金	四七七、一〇七	七九、五一八
雜收入	九一八、九九八	一五三、一六六
總計	七四、六九五、四一五	一二、四四八、一六九

歳出豫算ノ事

歳出科目

	円	磅
國債利子及償還	二、〇〇〇、〇〇〇	三、三三三、三三三
年金恩給	四七五、〇一九	七九、一七〇
非職俸給	二五四、〇二四	四二、三三八
帝室費	二、三四〇、〇〇〇	三九〇、〇〇〇
神社費	二六八、二一三	四四、七〇二
内閣	五七〇、三〇五	九五、〇五一
外務省	一八九、二〇二	三一、五三四
在外公使領事館	六五〇、〇二六	三三一、七八二

內務省	一、九九〇、六九四	六五、九七五	
警視廳	三九五、八五二	九九九、八九一	
府縣	五、九九九、三四六	二四〇、五三八	
大藏省	一、四四三、二三〇	三三、二四〇	
稅關	一九九、四四〇	三一五、〇二七	
內國稅徵收費	一、八九〇、一六四	七五、五八三	
諸拂戾及缺損金	四五三、五〇〇	二〇〇、〇〇〇	
備荒儲蓄	一、二〇〇、〇〇〇	一、一六六、六六七	
紙幣償還	七、〇〇〇、〇〇〇	一一八、三三三	
豫備	七一〇、〇〇〇	六四、一四一	
陸軍省	三八四、八四八	一、八八六、九四五	
陸軍	一一、三二一、六七〇	四八、九一四	
憲兵	二九三、四八二	四八、九一四	
海軍省	五四三、一七六	九〇、五三〇	
海軍	四、三四五、八二〇	七二四、三〇三	
海軍學校及扶助金	四〇四、四六八	六七、四一一	
司法省	二六一、五六五	四三、五九四	
大審院及各裁判所	二、二四〇、四三二	三七三、四〇五	
文部省	二九五、一二六	四九、一八八	
諸學校其他	五六三、二〇〇	九三、八六七	
農商務省	五三五、九四七	八九、三二五	
山林局其他	三三四、三四九	五五、七二五	
遞信省	三、六四〇、三五七	六〇六、七二六	
航海補助費	二八、〇〇〇	四、六六七	
元老院	三〇九、七二二	五一、六二〇	
會計檢査院	九二、〇〇〇	一五、三三三	
鐵道局	二〇、〇〇〇	三、三三三	
北海道廳	二、五〇〇、〇〇〇	四一六、六六七	
假皇居及官廳建築等	五四五、八三七	九〇、九七三	
總計	七四、六八九、〇一四	一二、四四八、一六九	

右十九年度ノ歲計豫算書ヲ見ルニ、其體面ニ於テ甚ダ緊要ト認メザルヲ得ザルモノアリ。蓋シ從來ノ豫算書ニシテ皇帝自カラ之ヲ批准シタルコトナカリシガ、今回ノ豫算書ハ大藏大臣ノ報告書ノ體面ヲ爲シテ、皇帝自カラ之ヲ裁可シテ公布ス可キノ勅令ヲ下サレタルモノナレバナリ。而シテ此豫算書ニ據レバ十八年ノ末ニ大ニ政府ノ組織ヲ改正シ施政ノ秩序モ亦大ニ變更シタル所アルヲ了解ス可シ。這般ノ變革ノ眼目ハ大ニ費途節減ノ效果ヲ增進セシメントノ意タルヤ明白ナル所ナレバ十九年度ノ豫算ニ於テハ歲出ノ部分ニ顯著ノ減額ヲ致スナラント國中一般ニ豫想シタリ。

然ルニ十九年度ノ豫算額ヲ以テ前々年度ナル千八百八十四年七月一日ヨリ千八百八十五年六月三十日ニ至ル年度、卽チ十七年度ノ豫算ニ對照比較スレバ、節減ノ實ハ誠ニ一局部ニ止マリ、其減額ヲ致セルコト僅カニ二十五萬圓ニ過ギズシテ、地方行政費ノ如キハ減少シタルニ非ラズシテ却テ增加シタリ。又僅カニ開明ノ端緒ニ就キタルガ如キ北海道ニ係ル經費ニ至リテハ、地方制度ニ十分ナル變革ヲ行ヒタルガ爲メニ十九年度ノ豫算額ヲ以テ十七年度ノ豫算ノ額ニ比スレバ迥カニ其增加シタルヲ見ル可シ。

此他尙ホ驚駭ニ堪ヘザルモノハ陸軍ノ費用三百萬圓餘ヲ增加シタルコト是レナリ。又海軍省所管費ハ實際增額ナカル可カラズ、如何トナレバ五分利海軍公債證書ヲ發行シテ無慮一千七百萬圓ノ國債（此內今日ニ至ルマデ募集セラレタルモノ五百萬圓トス）ヲ募集シ、之ヲ以テ海軍擴張及ビ海防費ノ諸部ニ供資セントノ計畫アリテ、之ガ爲ニ其豫算額ノ增加ス可キノ實アレバナリ。然ルニ此增加ハ豫算ノ外ニ放擲セラレテ其痕跡ヲ見ルナシ。是レ蓋シ豫算書發布ノ後二三週日マデ此計畫ノ世ニ公ニセラレザル所以ニ基ケリ。今余ヲ以テ之ヲ視ルニ、此ノ如キ重大ノ費用ヲ豫算ニ撤去シタルハ豈財政ノ實況ヲ豫ジメ鑒定セシムル豫算書ノ體面ヲ痛ク傷ヒタルモノト謂ハザルヲ得ンヤ。又海軍公債ノ募集ハ十七年度豫算ニ於テ軍備部繰入ト名ケタル資金四百五十萬圓ヲ消滅セシメタリ。蓋シ此資本ハ十七年度ニ於テハ準備金中ヨリ分賦シテ軍費ニ充用セシガ爲メニシテ、特ニ海軍造船及ビ軍艦買入費ニ資セントノ計算タリシガ、十九年度ノ豫算ニ之ヲ廢止シテ其跡ヲ見ズト雖ドモ、五分利海軍公債ノ募集金ヲ以テ其目的ニ資用スルノ日アルハ必然ナル可シ。臨時費ノ增加スル夫レ此ノ如クニシテ尙ホ且ツ海軍通常經費ニ百六十萬圓有餘ノ增加アリ。然ラバ則チ曩日公布セラレタル官制改革ノ目的ノ一タル費用節減ノ主意ハ、九官廳ニ係ル政費ニ於テ工部ノ一省ヲ廢シ、他省ノ官吏ヲ罷免シ、又ハ非職トナシタルニ止マルノミニシテ、日本國民ノ租稅ノ負擔ハ施政上ノ改革ノ爲メニ左マデ輕減セラレタルニ非ラザルナリ。

又十九年度ノ豫算歲入額ヲ以テ十七年度ノ豫算歲入額ニ對照比較スレバ、假令ヒ十九年度ニ於テ菓子稅及ビ醬油稅ノ二新稅則ヲ施行シ、之ガ爲メ凡ソ百七十五萬圓ノ納入ヲ增セリト雖ドモ、差引キ百二十八萬七千五百五十四圓ノ減少ヲ致セリ。今其減少セル稅源ノ著明ナルモノヲ揭グレバ、則チ酒造稅、煙草稅、賣藥稅及ビ北海道物產殊ニ海產ノ稅、此他雜收入ニ於テ官有物貸下代拂下代等ノ諸科目トス。而シテ此等ノ諸稅收入ノ減少ハ實算ニ於テ假令ヒ豫算額ノ上ニ出ルコトナキニモセヨ、其減額スルヤ決シテ少小ノ額ニアラザルナリ。

又眼ヲ轉ジテ豫算歲出ノ部ヲ通觀スルニ、先ヅ第一款ニ國債費ノ科目ヲ揭ゲタリ。然ルニ之レガ計算方ニ就キ大ニ注意ス可キモノハ、十二或ハ十二種以上ノ各種公債ノ償還高ト利子トヲ混計シテ之ガ區別ノ詳細ヲ揭ゲザルモノ是ナリ。而シテ其利子ノ割合ハ各種公債ニ就キ異同アルヲ以テ、

其明細ヲ知ルニ由ナシ。是レ余ノ遺憾トスル所ナリ。又減債基金（詳言スレバ國債償還ノ爲メニ準備金ヨリ經常歳入ニ移轉セル額高ヲ云フ）ハ十九年度ニ於テ消滅シ、十九年度ヨリ以後二千萬圓ヲ以テ國債償還ノ資ニ備置ス可キモノトシ、又紙幣ノ消却ハ準備ノ運用ニ委ネタリ。又帝室費ニ於テ十萬圓餘ノ增加アリ、又神社費ハ理由ヲ示サズシテ十萬圓餘ノ巨額ヲ增加シタリ。又外務省所管費ニ於テ僅少ノ減額ヲ見ルト雖ドモ一方ニ於テハ在外公使館、領事館費ニ增加アルヲ見ル。

日本ノ豫算書ノ大藏省所管費ニ於テ始メテ顯レタル科目アリ。卽チ不慮ノ目的ニ供用ス可キ一般準備金ナルモノ是レナリ（按ズルニ國庫豫備金ヲ云フ）又司法省所管費ノ增加シタルハ司法省事務ニ就キ眞實ノ擴張及ビ改良ヲ爲スガ爲メニシテ、此ノ司法省事務ノ進步ハ以テ費用ノ增加ヲ償フニ足ルベシ。農商務省所管費ハ說明十分ナラズ、蓋シ此省ノ事務ヲ分裂シテ新設ノ遞信省ニ移シタルモノアリ。又舊工部省ノ事務ヲ加ヘタルモノアリ。又遞信省所管費ニ二萬八千圓ノ小費目アルハ是レ航海補助ノ爲メナリトス。嚮キニ日本政府ガ日本郵船會社ニ免許狀ヲ附與スルニ當リ、規約年限間ハ年八分ノ配當ヲ爲シ得ルノ補助金ヲ株主ニ與ヘンコトヲ約シタリ。信據ス可キ識者ノ說ニ據レバ前ノ航海補助費ノ如キハ政府ガ郵船會社ニ保證ノ爲メニ每年與フル所ノ金額ニ比スレバ僅々タル小額ナリト云ヘリ。

尙ホ玆ニ一言ヲ要ス可キモノアリ、卽チ鐵道局ヲ以テ遞信省ニ附屬セシメズシテ獨立ノ一局トシ、舊工部省ノ管理ニ於ケルガ如ク內閣ノ監督ニ屬セシメタルコト是レナリ。

國債

新公債	一〇、五九一、二七五圓
金札引換公債	五、七六七、〇五〇圓
金札引換無記名公債	七、九二九、九〇〇圓
金祿公債	一六四、八六二、五三五圓
舊神官配當祿公債	九四、八二五圓
起業公債	一〇、七六〇、三五〇圓
中山道鐵道公債	二〇、〇〇〇、〇〇〇圓
外國公債	七、五二二、〇三二圓
征討費借入金	一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
舊公債	七、九〇〇、三六二圓
合計	二四五、四二七、三二九圓

右十九年度ノ國債高ヲ十八年度ニ比スレバ金札引換無記名公債六百四十九萬六千九百圓、中山道鐵道公債五百萬圓ノ增加ヲ示スト雖ドモ、金祿公債三百九十七萬二千八百五十圓、外國公債四

十九萬三千三百六十八圓、他ノ雜公債六十五萬六千二百七十九圓、合計五百十二萬二千四百九十七圓ノ減少アリシナリ。

國債ノ名ヲ下シ難キ中山道鐵道公債五百萬圓ヲ控除スレバ實ニ國債增加高ハ僅カニ百三十七萬四千四百三圓卽チ英貨二十二萬九千六十七磅トス。

政府發行紙幣流通高ハ十九年度ノ計算ニ在テハ七千六百九十三萬四千七百二十七圓ニシテ、之レヲ十八年度ニ比スレバ千二百九十七萬四千五百三圓ノ減少ヲ顯ハセリ。然ルニ十九年度歲計豫算書發布ノ後チ更ニ銷却セシモノアルニヨリ、千八百八十六年十一月一日ノ紙幣流通高ハ六千八百六十四萬九千二百八圓トス。

準備金高ハ四千三百八十六萬五千四百八圓ニシテ、右ハ二百十萬六千百二十七圓ノ減少ヲ顯セリ。然レドモ別途金ハ百二十一萬六千六百七十七圓ニ登リ七萬六千五百六十四圓ノ增加ヲ顯セリ。政府貸付金ハ千八百三十一萬六千八百二十三圓（英貨三百五萬二千八百四磅）ニシテ百七十六萬八千三百二圓ノ減少ヲ示セリ。

中央儲蓄金ハ二百七十一萬九百四十七圓ニ登レリ、依テ二十九萬八千百九十三圓ノ增加トス。

千八百八十六年十一月一日大藏省金銀貨準備總額ハ卽チ左ノ如シ

金貨	一一、三〇〇、七四三圓
銀貨	二一、五八〇、六九五圓
合計	三二、八八一、四三八圓

千八百八十四年金銀貨輸出入表

輸入ノ部

種類	價格	數量	
英國金貨	一、一五六、八三二	二三七	封度
地金	二九八、〇四四、七四二	一七、八八三・六二	穩斯
合計	二九九、二〇一、五六三		
日本銀貨	二、〇〇〇	—	
日本貿易銀	二、三一〇、〇〇〇	一〇・五〇	志
英國銀貨	二、五一	一	ロープル
露國銀貨	七四、一〇〇〇		弗
墨弗	二、二六四、二六一、〇〇〇	二、一六四、二六一・〇〇	
地銀	三、一四六、〇六二、四八九	二、七六〇、九一八・五五	穩斯

種類	價格	數量
日本金貨	一、三六、一四〇〇〇〇	
米國金貨	一八、五一三三	
智利國金貨	六四一三六	
英國金貨	五、四八一四七五	
佛國金貨	一、三九四八五	
獨逸國金貨	一〇一七四四	
秘魯國舊金貨	五一六〇〇〇	
合計	一七一、五四五〇二〇	
合計	一、四三、六五四	一七二

輸出ノ部

種類	價格	數量
日本銅貨	三、七六〇〇〇〇	
朝鮮紙幣	四八九五〇	
合計	三、六〇八九五〇	
日本紙幣	四八、二〇〇〇〇〇	
總計	五、〇五七、〇八一	二二五

種類	價格	數量
日本金貨	三七、六五〇〇〇〇	
米國金貨	六五、三〇〇〇〇〇	
英國銀	四二、四七三四二	
佛國銀	六六、一六七六〇	
獨逸國銀	一四、九四七〇四	
秘魯國銀	三九、〇五六七〇	
舊金貨	二一七六五〇	
地露印度銀貨	五四、四二七四七	
墨國銀貨	二、〇四八、〇〇〇五〇〇	
合計	五六、四九五九五〇	
合計		
日本銅貨	三七六〇〇〇	
朝鮮紙幣	四八九五〇	
合計		
日本紙幣		
總計		

種類	價格	數量
日本銀貨		
日本貿易銀		
一分銀		
一朱銀		
一分銀		
一朱銀		
古印度銀貨		
古墨國銀貨		
合計		
合計		
日本銅貨		
朝鮮紙幣		
合計		
日本紙幣		
總計		

種類	價格	數量
日本金貨		一三、〇五五
米國金貨		一四八、三〇
智利國金貨		二〇二、四九六
英國金貨		三七、三六〇
佛國金貨		五〇〇
獨逸國金貨		六七九
秘魯國舊金貨		二、〇四八、〇〇〇・五〇
地露印度銀貨		五四、六九・七五
墨國銀貨		
合計		
合計		
日本銅貨		
朝鮮紙幣		
合計		
日本紙幣		
總計		

千八百八十五年金銀貨輸出入表

輸入ノ部

種類	價	格	數量
日本金貨	一五〇〇〇		
英國金貨	四四九〇六一		
地金	六〇八、三四八九〇七	六〇八、八一二九六八	磅 三五、〇五一・一三 / 穩斯 九二・
合計			
日本一圓銀	一、三六七〇〇〇		
日本補助銀貨	四七、五二四七〇〇		
日本一分銀	二六四六〇		個數 八四・
日本一朱銀	一〇八〇〇		〃 一四・
米國貿易弗	五〇、〇〇〇〇〇〇		弗 五〇、〇〇〇・
露國銀貨	三三三五〇		ロープル 四五・
墨弗	一、三三九、二八一〇〇〇		弗 一、三三九、二八一・
地銀	五、六〇九、七八五〇五五		穩斯 四、九七七、四〇〇・六〇

輸出ノ部

種類	價	格	數量
日本金貨	四四五、六三〇〇〇〇		弗 一〇、〇〇四・
米國金貨	一〇、〇七四三八三		磅 二、一一七・五〇
英國金貨	一〇、三三五七三一		佛 一七、九九〇・
佛國金貨	三、四八一六〇四		マーク 二、九〇〇・
獨國金貨	六九二九一六		リール 五、七六〇・
西班牙國金貨	二七九〇七九		穩斯 一、三五二・七七
地金	三、一四七五五〇	四九二、六三六二六三	
合計			
日本一圓銀	一、四〇九、八七〇〇〇〇		
日本補助銀貨	五八、六二六一〇〇		
合計			
日本紙幣			
總計		六、九三八、〇二八三六五	
		二五、六〇六〇〇〇	
		七、五七二、四四七三三三	

日本一分銀	六〇、三三八、一七一	一九三、二三三・	個數	
日本古一分銀	三〇、五二二、三四〇	八七、六二〇・	〃	
日本一朱銀	三〇、四六五、七九二	四二、〇〇八・	〃	
日本古一朱銀	二三、〇五三、三二〇	二三、五二〇・	〃	
米國銀貨	四八七、三六三	五三〇・五五	弗	
米國貿易弗	五、六一五、〇〇〇	五、六一五・	〃	
墨弗	一、四五九、〇九二、〇〇〇	一、四五九、〇九二・	〃	
地銀	二二五、七四〇、一七〇	一九九、五六〇・四八	穩斯	
合計		三、七六三、八〇九、二五六		
日本銅貨	八、三四五、〇〇〇			
朝鮮銅貨	一、〇〇〇、〇〇〇			
合計		九、三四五、〇〇〇		
日本紙幣	一四三、一二五、三〇〇			
露國紙幣	一、一六六、八三〇	一四三、三二一、〇三〇	ローブル	二、二九三・
合計				
總計		四、四〇九、一二一、五四九		

千八百八十五年（明治十八年）六月政府ハ布告シテ千八百八十六年一月一日ヨリ正貨拂ニ復スルコトヽナシ、政府ニテ銀貨ト交換スルコトヽナレリ。

財政現狀ノ要點ハ政府ノ內國債ヲ起スベキ勢力ノ著シク進步シタルコトニシテ、若シ之レヲシテ永續セシムルナラバ、東洋ノ財政ヲ全ク一新シ、內國債ノ變換ヲ生ズルニ至ラン。夫々貨幣市場ニ於テハ低利ニテ貨幣ヲ得ルノ便宜アルヨリシテ、明治十九年六月勅令ヲ以テ年五分利附海軍公債證書ヲ發行シ、一千七百萬圓ヲ募集スルノ公布アリシ。此公債ハ海軍々備ノ費途ニ充ルノ目的ニシテ、其第一回募集額五百萬圓ハ競フテ之レヲ買込メリ。尤モ其申込額ハ一千百萬圓餘ニ登レリ。而シテ今其相場ハ額面百圓ニ付百三圓トス。此公債證書ノ次回發行ノ期日ハ大藏大臣之ヲ定ムルモノニシテ、其元金ハ證書發行後六ヶ年目ヨリ起算シ三十ヶ年間ニ抽籤ヲ以テ全ク之レヲ償還スルモノトス。外國人モ亦タ此證書ヲ購買スルヲ得ルナリ。

海軍公債證書ノ第一回募集ニ就テ此ノ如ク好結果ヲ呈出セシヨリ、大藏大臣ハ果斷ヲ以テ各種內國公債ノ過半ヲ併合シテ之レヲ年五分利附公債證書トナスノ計畫ニ及ビ、終ニ十九年十月勅令ヲ以テ年五分利附整理公債一億七千五百萬圓（凡ソ英貨二千九百十六萬六千六百六十六磅）ヲ募集スルコトヲ公布セリ。此公債證書發行ノ目的ハ左ノ各種ノ公債證書償還ニ充ツルノ意ヨリ出タルモノナリ。

六分利子金札引換公債	五、七六六、二〇〇圓
六分利子金祿公債	二四、五二一、三二五圓
七分利子金祿公債	一〇四、八四七、八五〇圓
一割利子金祿公債	九二二、〇〇〇圓
六分利子起業公債	一〇、七六五、四〇〇圓
金札引換無記名公債	七、九二九、九〇〇圓
七分利子中山道鐵道公債	二〇、〇〇〇、〇〇〇圓
合計	一七四、七五二、六七五圓

此整理公債證書第一回發行額一千萬圓ハ既ニ應募濟トナリ、而シテ其申込高ハ一千六百萬圓餘ニ及ベリ。今其相場ハ額面百圓ニ付二圓五十錢ノ割增トス。其發行殘額ハ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ、漸次之レヲ募集スルモノニシテ、此公債證書ハ分ツテ五種トス。卽チ五千圓、千圓、五百圓、百圓、五十圓、卽之ナリ。此等ハ皆ナ利札附ニシテ其持參人ニ拂渡スモノトス。而シテ此公債證書ハ募集ノ年ヨリ五ケ年據置向五十ケ年間ニ抽籤ヲ以テ悉皆償還スルモノニシテ、矢張外國人モ之レヲ買入ルコトヲ得ルナリ。夫レ此ノ如ク大藏大臣ガ果斷ヲ以テ各種內國債ノ過半ヲ變換セントスルノ政策ハ甚ダ賛稱スル所ナレドモ、又タ幾分カ嚴評ヲ免レザルモノトス。實ニ日本ノ松方正藏財務ニ長ジテ以テ彼ノ松方伯ノ計策ノ失敗ヲ豫定スル所ノ人物ナキニアラザルナリ。

千八百八十六年三月中日本ノ國立銀行ハ百三十八個所トス。(其支店ハ之レヲ除ク)而シテ其資本金ハ總計四千四百四十五萬六千百圓(七百四十萬九千三百五十磅)其發行紙幣額ハ三千四百三十九萬六千八百圓、其準備積立金ハ七百九十二萬三千二百二十圓ナリ。

千八百七十年(明治三年)以前ニ在テ紙幣發行事件ハ外國貿易ノ利害ニ直接ノ關係ヲ有スルコト至テ寡少ナリキ。千八百七十年(明治三年)ト千八百七十六年(明治九年)トノ間(此兩年ヲ併入シテ)流通紙幣ハ平均殆ンド一億圓ニシテ、此七ケ年間其價格ハ最高點ニ在テ九分五厘ノ割增トシ、其最下點ニ在テ一割五分ノ割引トス。而シテ右七ケ年間其平均相場ハ二分二厘五毛ノ割增ナリトス。

千八百七十六年(明治九年)ノ歲入額ヲ審定シ、其收納ヲ簡易ニスルノ目的ヲ以テ地租ハ從來ノ米納ヲ廢シ金納ニスルコトニ制定セリ。其頃ハ此ノ金納ノ新法ハ充分ニ行ハレザルモノヽ如シ。是レ殊ニ千八百七十六年以前ニ在テ日本ヨリ貴金屬ノ濫出スルヤ續テ甚シカリシガ故ナリ。政府ニ於テハ其收納米ヲ常ニ紙幣ニテ賣拂シヨリ、通貨ノ價格一定シ、而シテ政府ハ此ノ如ク大ニ米ヲ賣拂フヨリ其生產者等ハ連合シテ其米價ヲ引上ルコトノ策ヲ用フル能ハザリキ。

千八百七十七年(明治十年)西南ノ役ニ餘義ナク大ニ紙幣ヲ增發シテヨリ、其ノ價格大ニ下落

セリ。米ノ持主ハ紙幣ヲ不安ニ思ヒ、舊來ノ如ク米納ノコトヲ固執シ、其米ヲ賣拂フコトヲ好マザルヲ以テ、米價非常ニ騰貴シ、終ニ其反動ヲ紙幣ニ及ボセリ。且ツ其頃ヨリ近年マデ日本ノ外國貿易不平均ヲ生ジ、其輸入超過スルヲ以テ銀貨買入ノ爲メニ紙幣ハ一層勢力ヲ失ヘリ。

千八百七十七年（明治十年）ヨリ千八百八十一年（明治十四年）マデノ間ハ紙幣ヲ大ニ減縮シ、而シテ政府ハ時々正貨ヲ市場ニ投出セシト雖ドモ、紙幣ハ常ニ下落ヲ示シ千八百八十一年（明治十四年）ヲ以テ其紙幣下落ノ最下點トス。

今日ノ現狀ヲ惹起セル由來ハ重ニ紙幣銷却ノコトニ原因シテ、此年日本ノ外國貿易一變シ其輸出超過セシコトモ亦タ與ツテ力アリトス。

政府ノ正貨準備金ハ其現流通紙幣ヲ支持スルニ足リ、外國貿易ノ景況ハ日本ノ利益著明ニシテ而シテ紙幣殊ニ日本國ノ所要ニ適應スルヨリ、現今ノ紙幣額面ノ價格ハ變動スルノ恐レナキニ似タリ。然リト雖モ結局日本ノ貿易ハ退歩シ、暫時其衰微ヲ恢復シ能ハザル程慘狀ヲ呈出スルハ心ニ記シテ忘却スベカラザルコトヽス。

迅速ナル紙幣ノ減却ハ（重ニ鐵道其他政府ノ公債證書發行ノ影響ニテ）商品ハ價値ヲ低下シ大ニ其價位ヲ不慥カニスル自然ノ結果ヲ生ジ資本家ノ如キハ皆爭フテ各種ノ公債證書ニ其資本金ヲ卸シ（新發行五分利付公債證書ノ第一回募集ノ事蹟ヲ以テ例トス）竟ニ此等ノ公債證書ヲシテ前代末聞ノ昂價ニ推シ上ゲタリ。是ヲ以テ日本國ノ流通資本ハ國民ノ放銀力ニ過剩ヲ來シ其過剩ノ分ハ悉ク固着資本トナレリ。然レドモ亦タ茲ニ一反動ナキニ非ズ、何トナレバ紙幣ノ價格變動スルコトナケレバ自ラ物價モ一般ニ平定シ、物價一般ニ平定スレバ則チ資本金ノ幾分カ貿易ノ方ニ轉向スベケレバナリ。然リ而シテ此反動ヲ大ニ助成シ且ツ急進セント欲セバ外國ノ貨幣ヲ引入レ之ヲ現今ノ內國債若クハ勸業ニ向ケザルベカラズ。

然レドモ日本政府ハ元來其外國債ノ增加スルヲ痛ク嫌ヘリ。尤モ年五分ノ低利ヲ以テ國內ニ於テ募集シ得ベキ貨幣ヲ外國ニ仰グベキガ如キハ其政府ノ取ラザル所タルベシ。此國ノ貿易ヲシテ將來盛大ナラシムルノ一大要件ハ方今窄狹ナル信用ノ區域ヲ擴張スルニアリ。今日ノ如キ許多ノ國立銀行現存シテハ其信用ノ區域ヲ擴張スルコト速カナラザルナリ。

抑モ又タ信用ト云フ意味ハ日々ノ勞力ヲ以テ產出シタル物品ヲ自由ニ流通セシムルノ義ニシテ、卽チ信用ハ資本ナリト釋義ヲ下スモ不可ナキナリ。然ルニ日本ニ在テハ信用ノ缺乏ナルコト甚ダシキヲ極ムルモノト謂フベシ。

日本ノ諸銀行者ガ金員ヲ貸出ストキハ米、製造品等ノ如キ物品ヲ無暗ニ抵當ニ取ルガ故ニ、是レ勞力ノ結果（米竝ニ製造品ヲ云フ）ヲ閉鎖スル譯ナレバ、卽チ資本ヲ流通ヨリ引去ルモノニ非ズシテ何ンゾヤ。

日本國ニ於テ適當ナル信用方法ノ發達ヲ欲セバ資本金ヲ節シテ百業ヲ起シ、銀行者ノ如キハ貨幣ノ運轉スルニ較々有益ナル新方法ヲ開クベシ。又タ一歩ヲ進メテ之レヲ云ヘバ日本ノ人民ニシテ苟モ信用ヲ增加セント欲セバ德義ニ根據セザルベカラザルベシ。是レ他ナシ、誠實ハ世ノ信用ヲ得ルノ眞路ナルヲ知ルニ至レバ、隨テ生計百般ノ事ニ影響ヲ及ボスベシ。而シテ商業ハ一層進ンデ其善理ノ高度ニ達シ社會ノ至大幸福ヲ來スベケレバナリ。

近頃日本國ノ一圓銀ヲ輸出スルコトノ甚ダ大ナルヲ見ル。十九年十一月二十日マデニ在横濱外國銀行ニ於テ船積セル日本一圓銀及ビ墨弗ノ輸出金額ハ一圓銀六百萬個、墨弗二十五萬個、合計六百二十五萬個トス。固ヨリ右銀行ハ自ラ損失シテ之レヲ船積スルガ如キコトハ敢テ爲サザルベシ。方今生絲取引ノ時節ナルニ其銀貨船積ハ矢張陸續トシテ絶ユルコトナシ。故ニ貨幣大ニ缺乏ヲ告グ。抑々此缺乏タルヤ正金銀行ガ爲替事務ヲ無理ニ持續スルニ全ク根由セリ。乃チ此ノ如ク輸出ヨリ生ジタル貨幣ノ缺乏ヲ補充シ、貿易ノ所要ニ適應セント欲セバ正金銀行ハ地銀ヲ輸入セザルベカラズ。銀貨低廉ナル間ハ利益モアルベシ。然レドモ地銀ヲ輸入シ折角コレヲ一圓銀貨トナシナガラ、又タ他人ヲシテ船積セシムルガ如キハ兎ニ角ニ徒費多ク到底日本國ノ損失タラザルベカラズ。

地銀ヲ產出セザル邦國ニ在テハ其通貨ノ流出スルヲ憂慮セザルコトナシ。彼ノ英蘭銀行サヘ金貨ノ需要非常ナルニ至レバ其金貨ノ流入スルマデハ其金利ノ割合ヲ引上ルニアラズヤ。全體一圓銀ハ量目純分共ニ墨弗同樣良質ノモノナリ。然ルニ墨弗ハ支那ニ於テハ一般ニ一分乃至二分ノ割增アリテ、輸入スルニ費用多シトス。故ニ金融切迫ノ時ハ唯運送費卽チ二厘五毛ノ割增ニテ一圓銀ヲ輸入スレバ、其墨弗ト同樣通用スル所ノ地ニ在テハ喜デ之レヲ受取レリ。故ニ是迄海峽殖民地ヨリ一圓銀ガ日本國ニ歸リ來ルノ例ヲ見ザルモノヽ如シ。支那ノ各港ニ於テハ一圓銀ヲ受取レバ直チニ之レニ極印シ、其通貨ノ性質ヲ毀傷セリ。是ヲ以テ外國銀行ガ其ノ日本貿易ノ爲メ銀貨ヲ使用シテ利スル所アル限リハ一圓銀ノ輸出ハ漸次增加スベキ道理ナリトス。

正金銀行ハ日本國ニ正貨ヲ留ムルノ職ヲ盡クス能ハズ。唯々歐米仕向ケノ各種ノ手形ヲ外國銀行ニ於テ定メタル割引相場ヨリ五厘乃至一分ノ低相場ニテ公然買入ルルヲ得ルノミ。

右ノ有樣ナルガ故ニ今日外國爲替送金上ヨリ云ヘバ、外國銀行ハ實際地銀ヲ輸出スルコトヲ取止メタル姿ナリ。然レバ今後永ク正金銀行ハ外國銀行ニ代リテ地銀ヲ輸出シ得ルヤ、永久獨手ニテ地銀ノ輸出ヲ爲ス以上ハ正金銀行ハ其地銀ノ供給ヲ充分ニセザルベカラズ。斯ノ如キ有樣ニテハ一端不測ノ危運ニ遭遇シ、硬貨濫出シ遽カニ貨幣ノ需要生ズルニ於テハ日本ハ難澁スルヨリ外ナキ惡果ヲ來スベシ。

外國銀行ハ貿易ノ公平ナルヲ主トスルヨリ、爲替事務ノ如キハ姦計ヲ以テセズ、其正道ニ依ラ

ンコトヲ切望セリ。然ラバ則チ其資本及ビ其冗餘貨幣ノ如キハ日本國ニ止リ大ニ日本ノ利益トナルベシ。

或人謂ヘラク、正金銀行ハ日本政府ノ保護スル所ニシテ其設立ハ外國銀行ヲ日本國ヨリ逐出スノ目的ヨリ出タリト。若シ此事ヲシテ實ナラシメバ則チ其目的ハ彼ノ歐洲ノ金力ヲ後楯ニシタル外國銀行ヨリモ却テ自ラ日本國ニ禍災ヲ與フルノ事ト云フベキノミ。

裁判所構成法案ニ對スル意見書類

井上毅

第一　國ニ對スル訴訟ノ事　ブラクストン氏王權論ニ云ハク、王ニ對スル訴訟ハ民事ト雖モ之レヲナスコト能ハズ、蓋何ノ法院モ國王ヲ裁判スルノ法權ナケレバナリト。故ニ英國ニ於テ君主及ビ政府ニ對スルノ訴訟ハ唯請願ニ由リテ恩惠ノ許可ヲ得タル後始メテ裁判ヲ受クルコトヲ得。普國千八百三十一年十二月四日ノ閣令ニ云ク、君主ノ資格ニ於テ臣民トノ間ニ裁決ヲ要スルノ權利ノ爭ヲ生ズルノ理ナク、又之レヲ裁決スルノ權限アル裁判所ハ全國ニ一モ存スルコトナシト。

政府ニ對スル訴訟ハ獨逸ニ於テ國權ト區別シタル財産上ノ訴訟ヲ許シタルノミニシテ、單純ニ國ニ對スル訴訟トシテ之レヲ許シタルノ國アルコトナシ。今本案ニ國ニ對スル訴訟ヲ以テ裁判所ノ權内ニ歸シタルハ其ノ當ヲ得ザルノミナラズ、專ラ居留外國人ノ日本政府ニ對スル訴訟ノ爲ニ地ヲ爲ス者ナリ。

第二　國民ノ服從義務ハ一般ノ官民ニ通ジテ絶對ノ大則ニシテ、裁判官モ獨リ此レヲ逃ル、

コト能ハザルベシ。(第六十五條ノ宣誓ヲ以テ證スベシ)然ルニ本案第二條ニ「裁判所ハ獨立ニシテ法律以外ノ權力ニ服從スルコトナシ」ト云ヘルハ飜譯ヨリ生ジタル誤謬ナルベシ「裁判所ハ法律ノ外、他ノ權力ニ羈屬スルコトナシ」ト云フベシ。服從スルコトナシトハ云フベカラズ。此レ條裁判構成法ニ於テ不要ナリ。

第三　官吏ノ公務ニ對シテハ要償スルコトヲ得ズ。何トナレバ其ノ公務ハ國權ノ一部ニシテ國權ハ民法上ノ責任ナキ者ナレバナリ。官吏ニ對スルノ要償ハ其ノ官吏ノ私事トシテ訴フル者ニ限ルベシ。第三十二條(ハ)ノ場合ハ國法ノ大則ニ背ク事。

第四　權限裁判所(五條八條二項)ヲ設クルコトヲ豫言シタルハ大早計ナル事。

各國ニ權限裁判ヲ特設シタル國アリ又特設セザル國アリ

第五　天皇御名ノ事

第六　豫算ヲ以テ裁判官ノ員數ヲ定ムルハ毎年議會ニ議定ノ權ヲ與ヘ異動ヲ生ゼシムベシ。故ニ法律上ノ委任ニ限リ勅令ヲ以テ之レヲ定メ、豫算上法律確定ノ效力アラシムベキ事。

第七　各區裁判所ニハ佛國ニテハ警察官ヲ以テ檢事ニ當ツ。第二十四條ニ「少クトモ一人ノ檢事ヲ置ク」トシタルハ冗官ノ弊ニ堪ヘズシテ歲費ノ增額巨多ナルベキ事。

佛國ニテ地方裁判所ハ檢事一人檢事補數人トス

第八　刑事ハ地方裁判所ニ止メ、控訴裁判所ニ一モ刑事ヲ謂ハザルハ刑事ノ控訴ヲ許サズ、竝ニ重罪ヲモ地方裁判所限ニテ處分スルカ治罪法トノ關係如何ノ事。

第九　大審院ハ上告ヲ受理スル破毀裁判所ニシテ、終審裁判所(卽チ第二審裁判所)ニ非ズ。本案ハ大審院ハ終審トシテ裁判スト(五十六條)謂ヘリ。此レ一ノ最上控訴裁判所トシタルカノ事。

第十　檢事ヲ終身官トシテ判事ト同ニスルハ不要ノ事。

第十一　判檢事及書記ノ一定ノ職服トハ彼ノ羅馬流ノ「ローブ」ヲ用ユル歟、稍々奇僻ノ好事ニハ非ザルヤノ事(百二十七條)

第十二　概スルニ此ノ立案ハ繁細ニ過ギタリ(例ヘバ廷丁ノ事マデモ法律トスルノ類)此レ獨逸ノ聯邦法ノ各邦劃一ナルヲ要スル法律ニ依倣セルニ因ル。然ルニ將來ニ行政上ノ便宜ヲ束縛シ實際ト調和シ難カルベキ事。

第十三　佛國ニテ千八百八十三年司法官ノ職制ヲ改正シ冗官ヲ省キタルトキ判事ノ退職者ハ左ノ恩給ヲ與ヘタリ。

二十年以上三十年以下奉職ノ者ハ其ノ退職前六個年ノ平均俸額ノ半額。

十年以上二十年以下ハ五分ノ二

六年以上十年以下ハ四分ノ一

六年ニ滿タザル者ハ就職以來ノ平均俸額五分ノ一

第三國ニテ第三審ヲ許スハ或訴訟ニ限ル

然ルニ本案第八十二條ハ前同樣ノ場合ニ於テ之レニ俸給ノ半額ヲ給スルコトヲ定メタリ。

又ハ第十四條ニ補所ナキ判事ハ其ノ全額ヲ受クルコトヲ定メタリ。此レ皆國庫ノ爲ニ非常ノ重擔トナルベシ。

檢察官並ニ警察官ノ弊害

井上毅

我邦現今ノ裁判所及監獄署ヲ觀ルニ判決迅速ナラズ。公平ノ裁判ヲ支フルコト能ハズ、獄則ヲ濫用シテ虐待ノ私アルヲ免カレズ。帝國憲法ガ保證シタル人權ノ自由ヲ妨害スル實ニ甚シキ者アリ。是レ蓋シ裁判所獨立セズ、裁判官ハ其位地信用ノ何者タルヲ知ラズ、情實政略ノ干涉ヲ蒙リ、情實ニ動カサレテ警察官吏ノ過ヲ彌縫セントシ、事ノ是非ニ依リ裁判スルニアラズシテ、多クハ政府ノ意ヲ迎ヘテ裁判スルコソ一身ノ榮利ヲ計ルノ道ナリト誤信スルニ依ル。而シテ警察官亦其位地責任ノ何タルヲ知ラズ、內閣當局者ノ趣意ヲ誤解シ、法律ノ精神ヲ了解セズ、其無學文盲ナル見解ニ據テ以テ濫リニ法文ヲ解釋施行シ、若シ之ヲ誤ルコトアルモ裁判官ニ强ユルニ情實ヲ以テシ、一度告發シタル事件ハ事實及手續ノ是非曲直ヲ問ハズ、飽マデ之ヲ支ヘ、爲メニ人權ヲ害スルモ恬トシテ耻デザルノ勢アリ。熟ラ惟ミルニ今日我內閣ハ警察政治ニ依ツテ進退シ、警察獨リ內閣政治ノ機關トナリ、恰モ警察政府ノ外觀アルヲ免カレズ。若シ果シテ然リトセンカ、國家ノ爲メ好ムベキノコトニアラザルナリ。今試ミニ其原因ヲ擧ゲンニ如左。

第一　裁判官檢察官其人ヲ得ズ、多クハ政府ノ意ヲ迎合シテ一身ノ榮利ヲ謀ラントスル輩ナルコト。

第二　裁判官ニ特別ノ慰勞褒賞ヲ與フルコト。

第三　裁判所ト監獄署ノ區別ハ實際ニ於テ判然セザル所アルヲ以テ、監獄署ハ裁判所ノ意ヲ迎合シ、裁判所ニ於テ容易ニ罪證ヲ發見スルヲ得ザル彼告人ニ對シテハ殊更ニ之ヲ虐遇スルノ實情ヲ生ジタルコト。

第四　現今ノ警視廳ハ實際漫リニ內閣ノ意ヲ迎ヘ、其職ヲ盡クスニ不法ヲ免カレザルコト。

第五　警視二局ト監獄署ハ同ジク警視廳ノ管轄ニ屬シ、歸スル處同一體ニシテ監獄署ハ警視廳ノ意ヲ承ケテ被告人ヲ虐待スルコト。

第六　未決收監ニ期限ナキヲ以テ豫審判事ハ之ヲ奇貨トナシ、被告人ノ罪跡分明ナラザル者ヲ收監シタル後、永ク其審理ニ着手スルコトナク以テ被告人ヲシテ無聊ノ情ニ堪ヘザラシメ、一種無形ノ拷問ヲ設ケタルニ均シキノ實情ヲ生ズルコト。

第七　檢事亦其信ズル所ニヨリ被告事件ヲ扱ハズ、警察官ノ指令ニ應ジ、强ヒテ判事ヲ制肘スルノ傾向アルコト。

第八　警察官檢察官及裁判官ハ各別ノ職掌アリナガラ、各其職分ヲ盡スコト能ハズ。彼我混同シテ遂ニ公平ナル裁判ヲ施スノ實ナキコト。

右等ノ八原因母トナツテ左ノ弊害ヲ孳生スルニ至リタルガ如シ。

第一　警視二局ニ於テハ屢々被告人ヲ毆打スルコトアリ。

第二　新聞條例違犯出版條例違犯等國事犯被告人ト稱スル者ヲ特ニ虐待スルコト、又之ヲ告發シタル上ハ殊ニ手續及事實ノ如何ヲ問ハズ有罪ノ裁判ヲ爲スノ疑ヲ免カレザルコト。

第三　豫審廷ニ於テ豫審判事被告人ニ向ツテ座右ノ物品ヲ投ジ甚シキハ自ラ坐ヲ下ツテ之ヲ毆打スルコトアリ。

第四　被告人ヲ永ク二局ノ拘留所ニ止メテ之ヲ監獄署ニ移スコトナク、其甚シキハ三四ケ月ニモ及ブコトアリ。

第五　國事犯人ニ對シテハ全ク證據ヲ湮滅スルノ恐レナキ者ト雖モ決シテ容易ニ保釋ヲ許サザルコトアリ。

第六　國事犯ノ爲メニ開キタル公廷ニ於テハ其辯論モ亦國事ニ涉ルベキハ勢ノ免カレザル處ナレドモ、檢察官ハ辯論人ノ辯論ヲ制限シテ其職ヲ盡スヲ得ザラシムルコトアリ。

第七　監獄署ニ於テ被告人ヲ遇スルニ常事犯ト國事犯ノ間ニ區別ヲ設クルコトナク、國事犯人ニ對シテハ一層ノ不自由ヲ受ケシムルコトアリ。

第八　獄吏殊ニ押丁ノ被告人ニ對スル言語ハ國事犯ト常事犯トノ別ナク最モ無禮ヲ極メ、時トシテハ惡口罵詈至ラザル所ナク、殆ンド人ヲシテ聞クニ堪ヘザラシムルコトアリ。

第九　書籍ノ差入レニ制限ヲ設クルコト極メテ嚴格ナルノミナラズ、其許否ノ標準モ亦一定セザルヲ以テ、學識アル被告人ヲシテ常人ニ比スレバ一層ノ苦痛ヲ感ゼシムルコトアリ。

第十　裁判アル迄ハ被告人ハ無罪視スベキハ法律ノ命ズル所ナルニ、公廷ニ於テハ身體ノ拘束ヲ受クルナキモ豫審廷ニ於テハ決シテ手枷ヲ除カザルヲ以テ、治罪法ノ精神モ殆ンド虛飾ノ具トナルニ過ギザルコト。

第十一　監獄内ノ食物ノ粗惡不足ナルコトハ以テ身體ヲ營養スルニ足ラズ、差入レノ食物衣服ニ制限ヲ加フルコト頗ル甚シキ爲メニ、獄内殆ンド一人トシテ枯槁疲勞ヲ免レ得タル者ナシ。殊ニ國事犯人ノ如キハ多クハ平生通常ノ勞働者ニ比スレバ上等ノ食物ヲ用ユル者ナレバ、之ガ爲メニ苦痛ヲ受クルコトモ亦一層甚シカラザルヲ得ザルコトアリ。

第十二　保安條例ニ依リ退去ヲ命ジタル者ヲ拘留シテ故ラニ其出發ノ期限ヲ誤ラシメ、然ル後該條例ノ違犯者トシテ之ヲ處分シタルコトアリ。

第十三　警察官ハ自ラ又ハ檢察官ヲ經テ控訴院或ハ大審院ノ判事ニ内謁シ、慢リニ其告發ノ目的ヲ達スルノ道ヲ計ルコト。

以上ハ裁判官及警察官ノ其人ヲ得ズ、其職分ノ何タルヲ知ラザル者ノミナルガ故、裁判權獨立セズ、警察制度ハ虐政ノ具ト爲リ、内閣ノ目的ヲ謬マリ、知ラズ識ラズ人民ヲ毒シ政治ヲ害スルヲ免カレザルヲ證スルニ足ルベキ實事ノ幾分ヲ擧ゲタル者ナリ。抑〻裁判權ノ勢力如何ハ一國人文ノ發達如何ヲトスルニ足ル者ナレバ、人ノ注目シテ之ヲ觀察スル處ニシテ、條約ヲ改正シ我日本ノ獨立權ヲ恢復セントスルニ際シ、外人ノ之ヲ拒ムニ口實トスル實ニ茲ニ在ルハ贅言ヲ要セザル處ナリ。畢竟スルニ政府ハ如何ニ完全ナル法典ヲ設ケ、人民ヲシテ公權私權ヲ享有セシメントスルモ、其是非ヲ裁判シ之ヲ施行スルノ目的ヲ助クベキ裁判官及警察官ニシテ無智無頓着ニ其職ニ從事シ、識者ヨリ見ルトキハ笑ヲ招クコト明カナルニ、恬トシテ之ヲ恥ヂズ、其極施政ヲ害シ人民ヲ毒スルコトアルニ至ルノ勢アルガ如キニ至テハ、國家ノ爲メ採ラザル所ナリ。

我政府ハ憲法政治ノ方略ヲ執リ内閣ノ當局者ハ誠意以テ此政ヲ施スニ務メテ止マザル者ナリ。偶々無責任ノ言論ヲ吐キ、無方略ノ進退セントスル者アルモ我政府ハ之ヲ鎮撫スルニ充分ナルノ實權ヲ備フルアレバ、此徒ニ對シ一モ恐ルベキニアラズ。内閣當局者ノ意モ實ニ此處ニ在ルハ疑フベキニアラズ。然ルニ其下ニ居リ文明政府ノ施政ヲ助クルノ裁判官警察官ニシテ、其職分ノ何タルヲ知ラズ、其職分ヲ誤ルコト前述ノ如キ實事アラシムルニ至リタルガ爲メ、人皆ナ是レ内閣當局者ノ政略ニシテ、一々其指揮ニ出ヅル者ナリトノ疑ヲ起スヲ免カレズ。是レ職トシテ下ニ居

ル者ガ上ノ意ヲ迎ヘントシテ爲セルヨリ生ズルノ弊ニシテ、誠ニ惜ムベキノ事ナリトス。其他出版條例等ノ違犯罪被告人增加スル所以ハ、無智無責任ノ記者ガ其言論ヲ世ニ吐露スルモ實地治安上恐ルベキ者ニアラザルニ、其取調ヲ掌ル吏屬其人ヲ得ザルガ爲メ、事ヲ尊大ニ取リ、爲メニ謂ハレナキ獄ヲ起シ、到底政府ノ信用ヲ墜スヨリ他アラザルノ結果ヲ生ズルコト常ナルニ在リトス。其例ヲ擧グレバ頓智協會雜誌記者ガ不敬罪ヲ以テ告訴セラレタル事件ノ如キ、實ニ抱腹ニ堪ヘザルコトト言ハザルヲ得ズ。就中始審裁判所ノ如キハ其弊害ノ最モ甚シキ者ナリ。

我人民ハ從順ノ人民也。上ノ敎ユル所之ニ順フノ好性アルヨリシテ、其極無智無責任ナル官吏ノ爲メ知ラズ識ラズ虐待ヲ受クルノ過チアルヲ免カレズ。然リト雖モ我裁判官警察官モ亦同一ノ民タレバ、其意固ヨリ惡ムベキニアラズ。寧ロ憐ムベキ者ニシテ常ニ一個ノ見識ヲ備フルニアラズ。時ニ牽カレ人ニ制セラレテ進退スル所謂倶ニ無神經ノ人民ナルヨリシテ右ノ弊害ヲ生ズルニ至レル者ナリ。依テ案ズルニ右ノ弊害ヲ治療スルノ法ハ夙トニ閣下ガ鋭意止マザル處ニ基キ之ヲ敎ヘテ裁判權ノ獨立尊キコト、警察官ハ法律ノ施行ヲ助ケ治安ヲ保護スルノ職ニ從事スル者ニ過ギズシテ、政府ノ間諜同樣ニアラザルコトヲ知ラシメ、各其一責任ノ何タルヲ發明セシムルヨリ他ニ道ナカルベシ。又其職ノ何タルヲ知レルノ識量アル者ヲシテ、特ニ國事上ニ關スル違犯事件ヲ判斷シ、出版條例等名ケテ所謂國事違犯者ノ原由トナルベキ事ヲ取調ブルノ局ニ當ラシメ、警視廳ヲ廢シテ東京府ニ屬セシムル事、法律ニ依リ其職分ノ有ル處ニ基キ警察ニ從事スルノ本分ヲ盡クサシムル樣改良アルベキハ我憲法政治ヲ目的トスル政府ノ爲メ今日缺クベカラザルノ方略ナリ。一ニ上之ヲ敎ヘテ其職ヲ盡サシムルノ道ヲ圖ルコソ急務ナリト思考シ、玆ニ之ヲ叙ス。

憲法上注意スベキ兩三點

（憲法、此ニ付テハ多ク論ゼズ大體ハ是ニテ充分ナルベシ、但二三ノ注意スベキ點ヲ此ニ掲グ）

第五十九條　刑法ノ宣告又ハ懲戒ニ由ルノ外、免職セズトアレバ刑法ノ宣告ニテ其官ヲ免ズト宣告スルコトアリト聞ユ。併シ如此事ハナカルベシ如何。

第六十七條　此案ハ實ニ困難ノ規定ナリ。註釋ニ據レバ第一章ニ掲ル所ノ大權ニ依レル制置ノ必要ニ生ズル支出ハ悉ク包含ストアレバ、實際ニ於テハ政府ノ支出ハ殆ンド悉ク之ニ包含セシムルコトヲ得ベク、其區域實ニ廣ニ過グルニ似タリ。例ヘバ官職ヲ置クハ第一章ニ掲グル大權ニ屬スル制置ナリ、今若シ政府ガ勝手ニ數多ノ無用官ヲ一時ニ置タリトセンカ、仍此條ニ依ルコトヲ得ベク、多ク不急ノ年金給與ヲ濫與スルコトアリトセンカ（英國ニ此例アリタリ）仍此條ニ依ルコトヲ得ベク、實ニ無限ノ權力ト云フベシ。何トカ少シ熟考セザレバ却テ得策ニアラズト思考ス。尤モ實際右ノ如キ亂用ハナカルベシト云ハバ云ヘ、體裁上ニ於テモ此事ハ免レズ、況ンヤ實際ニ於テモ其亂用ノ必無ヲ期スベカラザルニ於テヲヤ。

第七十條　第六十四條ノ費額ハ總テ豫備費ノ支辨ノミニ限ルトセバ、其以上ノ額ヲ必須スル時ハ如何。臨時國會ヲ開クノ意カ、必ラズ然ルナラン。果シテ然レバ國會ガ豫備ノ額ヲ單ニ申譯ノ爲メ極小額ノミ議決シタル時ハ如何、議會ハ必ラズ相當ノ額ヲ決スルナラント鑑定シテノ事ナル歟。

第七十二條　單ニ前年度ノ豫算ニ依ルト云フ時ハ項目マデモ前年度ニ依ルノ意カ、果シテ然レバ前年ニ必要ニシテ今年ハ已ニ無用ニ屬セルモノアルベシ。復タ今年ニ於テ新ニ必須ヲ生ジタルモアルベシ。此等ハ如何、府縣制ニ於テハ其總額ヲ超エザルコトニ定メタリ。

第七十六條　憲法及典範ヲ攝政間ハ如何ナル事情アリテモ變更セザルコトニ定メテハ、或ハ膠柱ノ患ヲ來スコトアルベシ。人事ハ變遷極リナシ、攝政ノ年期ハ幼主ノ爲メナレバ十七年ニ及ブコトアリ（胎中天皇ナレバ今少シ長シ、但天皇成年ヲ十八年トシテノ計算）其他ノ事故ノ爲メニハ仍長キコトアリ、此際困難ヲ生ズルコトナキヲ保スベカラズ。現ニ和蘭ニ於テハ其憲法中元此條アリシモ、將ニ不都合ヲ生ゼントシタル爲メ大騷ヲシテ改正シタルハ僅カニ二三年前ノ事ナリ。因テ此條ハ其制限ヲ多クスルモ好シ、或ハ攝政間ノ變更ハ假變更卽チ原法ノ停止ト云フ如キ性質トスルモ好シ、併シ其順序ニサヘヨレバ膠柱奈何トモシ難ク、進退維窮スルノ萬一ノ困難ヲ防グ丈ノ道ヲバ開キ置クベキモノト信ズ。

豫算ハ前年度ニ依ルト云フ時ハ項目マデモ前年度ニ依ルノ意カ、果シテ然レバ前年ニ必要ニシテ今年ハ已ニ無用ニ屬セルモノアルベシ。復タ今年ニ於テ新ニ必須ヲ生ジタルモアルベシ。此等ハ如何、府縣制ニ於テハ其總額ヲ超エザルコトニ定メタリ。

第七十六條　憲法及典範ヲ攝政間ハ如何ナル事情アリテモ變更セザルコトニ定メテハ、或ハ膠柱ノ患ヲ來スコトアルベシ。人事ハ變遷極リナシ、攝政ノ年期ハ幼主ノ爲メナレバ十七年ニ及ブコトアリ（胎中天皇ナレバ今少シ長シ、但天皇成年ヲ十八年トシテノ計算）其他ノ事故ノ爲メニハ仍長キコトアリ、此際困難ヲ生ズルコトナキヲ保スベカラズ。現ニ和蘭ニ於テハ其憲法中元此條アリシモ、將ニ不都合ヲ生ゼントシタル爲メ大騷ヲシテ改正シタルハ僅カニ二三年前ノ事ナリ。因テ此條ハ其制限ヲ多クスルモ好シ、或ハ攝政間ノ變更ハ假變更卽チ原法ノ停止ト云フ如キ性質トスルモ好シ、併シ其順序ニサヘヨレバ膠柱奈何トモシ難ク、進退維窮スルノ萬一ノ困難ヲ防グ丈ノ道ヲバ開キ置クベキモノト信ズ。

獄政改良意見

伊東巳代治

夫レ罪人監禁ノ事タル、之ヲ概見スル時ハ理論上極メテ單純ニシテ、實地應用ニ於テモ亦其困難ノ輕少ナルコト法律上凡百ノ問題中未ダ其比ヲ見ザル所ナルガ如シ。若シ監禁ノ目的ヲ以テ單ニ自由ヲ褫奪スルニ在リトセバ、則一タビ裁判所ニ於テ監禁ノ期限ヲ判定スルニ當テハ成ルベク寡少ノ費額ヲ以テ、成ベク國家ノ爲ニ利便ナル方法ニ由リ、以テ罪人ヲ安全ニ監禁スルハ最モ容易ナルガ如キノ觀アラン。然ラバ則一方ニ於テハ監禁ノ期限ヲ定ムルコト他ノ一方ニ於テ罪人ノ逃遁ヲ防制シ、冗費ヲ省キ困難ヲ避クルコト等ノ數箇ノ問題ノ外、復タ立法者若クハ政府ノ考察討究ヲ要スルモノナキガ如シ。惟フニ太古以還輓近ニ至ルマデ、巨多ノ星霜ノ間獄政ノ形狀實ニ此ノ如キノ外ニ出ザリキ。此時ニ當テヤ罪人ニ施シタル刑罰ハ其類甚ダ多ク、監禁ハ僅ニ其一種ニシテ、且他ノ刑罰ニ比シテ稀ニ施シタル特別ノ方法タリキ。然ルニ近時ニ至リ監禁ノ事タル法律上又ハ政治上ノ最高問題トナリ、之ヲ詳言スレバ則法制上ニ政圖上ニ哲學上ニ及道義上ニ於テ識者ノ間常ニ論難駁擊シテ措カザル所ナリ。而シテ試ニ其疑議ノ在ル所ヲ列擧スレバ乃チ刑罰ノ

目的ハ何處ニ在ル乎、其期スル所果シテ報復ニ止ル乎、將タ犯罪ヲ豫防スルニ在ル乎。又或ハ犯罪人ノ改悛ヲ望ムニ在ル乎。抑々又此等各項ノ内其數點ヲ以テ若クハ其全體ヲ擧テ以テ刑罰ノ目的ナリト視ルベキ乎。監禁ノ執行ハ果シテ刑罰ノ目的ニ恰當スルノ方法ニ依遵セザルベカラザル乎。又罰囚ハ處刑中ト雖ドモ一市人ト看做シ、政府ニ對シテ人生ノ權利竝ニ臣民タルノ權利ヲ享有セシムベキ乎。此等罪囚ノ棄擲スベカラザル權利ヲ藐視スルハ果シテ正理人道ニ背戻スルノ誹ヲ免レザル乎。又罪囚ヲ虐待シテ其健康ヲ害シ、其生命ヲ短縮シ、且各種ノ惡習ニ浸潤セシメ、愈々其心志ヲ毒害シ益々其兇惡ヲ增長シテ底止スル所ナカラシムルハ是レ刑罰權ノ擅恣ニ由ルモノニシテ、罪囚其人ノ爲メニ又ハ社會一般ノ爲ニ果シテ患害トナラザル乎。然ラバ則罪囚ヲ教誨感化シテ道德ノ域ニ誘ヒ、其奸惡暴戾ヲ變ジテ正實溫和有用ノ人民タラシムベク、改悛ノ實ヲ擧ゲ以テ社會モ亦自ラ其安全ヲ保護スルハ果シテ一般ノ爲ニ得策ナラザル乎等ノ如キ孰レモ重要ノ問題ニ非ザルハナシ。

以上列擧スルモノハ輓近新獄政ヲ創始セントスル仁人君子ノ頗ル考慮ヲ費ス所ノ問題ナリ。然リト雖モ此等ノ問題ハ單ニ獄政ノミニ起因スルニアラズシテ、刑罪全體殊ニ處刑ノ方法ニ關スルニ在リ。既ニ前ニ叙述シタル如ク往時本邦及ビ他國ニ於テ監禁ハ特例ニ係ルノ刑罰ナリキ。而シテ普通ニ執行セシ處刑中、死罪ニ於テ其最モ慘酷ヲ極メタルモノハ火刑、車刑、磔刑等ニシテ、

其他鞭笞、烙印、桎梏、架罪等ノ身體ニ加フルモノ、船舶、鑛山等ニ於ケル苦役、流刑、追放、權利褫奪、竝ニ罰金等ノ刑ナリキ。千五百三十二年ノ獨逸帝國ノ舊刑法、卽チ皇帝「チヤールス」第五世ノ爲ニ「カロラリナ」法ト稱スル法律ニ於テハ監禁ニ關スル事項ヲ揭記スルモノ甚ダ僅少ニシテ、唯ダ死刑ニ代フル終身繫獄ヲ以テスルノ條アルノミ。而シテ當時ノ刑罰ハ今世ニ比シテ遙カニ慘酷ナリトス。方今各國ニ於テ死刑ハ非常ノ大刑トシ、概ネ皆謀故殺竝ニ反逆等一二ノ犯罪ニ止ルト雖ドモ、往昔ニ在テハ各般ノ犯罪ニ對シテ之ヲ行ヒ甚シキニ至テハ竊盜罪ニマデモ及ボスニ至レリ。故ニ獄舍ヲ必要トスルノ場合ハ稀少ニシテ、獄舍ハ處刑ノ爲ニスルヨリハ寧ロ流浪、無賴者及ビ乞兒ノ類ヲ養フ爲ニ用ヰルコト却テ其多キニ居リ、往々獄舍ヲ以テ救貧院、育兒院等ノ如キ慈惠ノ爲ニ設ケタル堂屋ト併合シタルモノアリキ。當時ニ在テ獄舍ハ概ネ皆慘憺タル形狀ヲ呈シ、幾多ノ囚徒ヲ一室ニ幽閉シテ曾テ日光ノ室內ニ映射スルコトナク、又淸涼ナル大氣ノ流通スルコトナシ。而シテ之ニ加フルニ囚人ノ衣食ノ不淨不潔ナルアルヲ以テ、獄舍ハ宛モ危殆ナル傳染病ノ釀生所タルガ如キノ狀アリキ。

余ハ左ニ米國某記者ノ近著ニ就キ、往時獄政ノ狀態ニ關スル記事ヲ抄錄セン。曰ク、

「コンネクチカツト」州ニ於テハ千七百七十三年ヨリ千八百二十七年ニ至ル八十年餘ノ間「シムスブルグ」近傍ノ丘陵ニ在ル古キ鑛坑ニ於テ一ノ土牢ヲ有シタリキ。而シテ其慘憺タル形狀ハ往時歐洲ノ獄舍ニ關シテ聞知スル所ニ劣ラザルモノアリ。蓋シ此土牢ニ於テハ夜間幾多ノ囚人ヲ一室ニ幽シテ、兩脚ヲ重量アル鐵棒ニ縛シ、其頸ニハ桁ト連串セル鎖ヲ施シ、坑內ハ汚穢物堆積シテ傳染熱病絕ユル間ナシ。又此牢獄ニ在ル囚徒ハ罪惡ノ道ニ於テ皆各々敎師ヲ以テ任ジタリキ。其夜間ニ於テ大聲叫呼スル狀態ハ宛然萬鬼ノ一時ニ呶鳴スルガ如ク、爲ニ坑內ニ於テ睡眠休憩スル能ハザリシト云フ。又費府（ヒラデルヒヤ）ニ於テハ老幼男女ノ別ナク皆一室ニ群居セシメシガ故ニ、或ハ初テ罪惡ヲ犯シタル新囚アリ。或ハ多年惡事ニ練熟シタル無恥ノ惡徒アリ。負債者アリ。又新ニ鞭柱ニ於テ笞刑ヲ受ケ鮮血尙淋漓タル者アリ。無賴者アリ、醉漢アリ、又既決ノ罪囚アリキ。而シテ該地ノ獄舍ニ於テハ獄吏ノ酒店ヲ開テ囚徒ニ酒類ヲ賣鬻スル者アリ。又在獄料ヲ徵收センガ爲ニ既ニ放免セラルベキ者ヲ故ラニ抑留繫獄シテ其入獄料ヲ課スルノ惡風アリキ。且該獄舍ニ於テハ宗敎其他善道ニ囚徒ヲ誘化スルノ設備アルコトナシ。後創メテ說敎ヲ爲シタル時ノ如キハ集合中巨礮ヲ裝置シテ之ヲ警護シタリキ。又「ボストン」府ノ獄舍ニ於テハ、或ル年千人ノ負債者ヲ他ノ千人ノ罪囚ト一室ニ拘置シタルコトアリ。而シテ男女老幼ノ別ナク白痴モ癲狂者モ大醉漢モ有罪者モ無罪者モ之ヲ驅テ同一ノ境遇ニ居ラシメ、其間少許ノ差等アルコトナク、偶々賭博ヲ試ムルモ醜穢ナル談話ヲ鬪ハスモ或ハ爭論スルモ一モ制止セラルヽコトナカリシト云フ。又往昔ニ在テハ處刑ノ方極メテ殘

忍ナリキ。現ニ紐育洲ニ於テハ初メ黑人ハ生ナガラ焚死セシメタリ。剩ヘ其苦惱ヲ增サン爲ニ生木ヲ以テ焚キタルコト往々之レ有リ。又鐵架上ニ繫束シテ饑餓死ニ致ラシメ、其死屍ハ之ヲ禽獸ノ食フニ任セタリ。桎梏、刑架、鞭柱ノ刑具ハ十八世紀ニ於テハ仍ホ國中到ル處ニ見ザルナキノ狀ナリキ云々」

以上ノ引證スルガ如キノ事實ハ今世紀ニ至ルマデハ何レノ邦國ニ於テモ之レアラザルハ莫シ。普國刑事局長「フオン、アルニム」氏ハ千八百一年ニ於テ左ノ言ヲ記述シタリ。曰ク、

方今我城塞幷ニ獄舍ハ概ネ皆囚人ヲ以テ塡充スルヲ以テ、曾テ建築局ガ數々發言セシ如ク此ノ如ク多數ノ囚徒ヲ群居セシムル時ハ危殆ナル傳染病ヲ發生スルノ恐アリ。現ニ「ガスタイン」ノ獄舍ニ於テハ日光及ビ大氣ヲ室內ニ通ズルコトナシ。又「ダンチック」ノ獄舍ハ其建築ノ粗惡ナルニ依リ、雨水常ニ其墻壁ヲ漫シテ流ル。故ニ火ヲ點ズルモ其室內ヲ暖溫スルコト能ハザルナリ。就中「ブランデンブルグ」ノ獄舍ハ皆土牢ニシテ、其內二ケ所ハ稍々日光ヲ通射スルヲ得ト雖モ、室內猶ホ暗黑ニシテ囚徒ハ內ニ在テ何等ノ業ヲモ執ルコト能ハズ。伯林府ノ獄舍ニ於テハ監視人ハ恰モ旅亭ノ主人ノ如ク、麵麭、牛酪、麥酒、煙草及ビ火酒ノ類ヲ囚徒ノ需要ニ應ジテ賣與セリ。又「ステツチン」ノ城塞ニ於テハ男囚ニハ粗衣ヲ給スルモ女囚ニハ之ヲ給セズ。故ニ女囚ハ自ラ公衆ノ惠恤ヲ待ツニアラザレバ之ヲ得ルノ道ナシ。

「グラッツ」ノ城塞ニ於テモ之ト均シク每土曜日ニ於テ囚徒ノ一人ハ市街ニ出デテ其同囚ノ爲ニ衣服ノ惠與ヲ乞フノ慣習アリ。又「スバンダン」ニ於テ三年以上ノ懲役ノ刑ニ處セラレタル女囚ハ、三年每ニ上靴一足、韈一足、襦袢一枚、毛絨ノ胴衣一枚、及上衣一枚ヲ給與セラル。而シテ何レノ城塞ト雖ドモ總テ食物ハ麵麭ノミナリトス。但シ或ル地ニ於テハ公共ノ粟倉ヨリ單ニ麵粉ノミヲ給スルニ止レリ。「ステツチン」ニ於テハ囚徒一人ニ付每月一「ペンニー」ヲ給與シテ其食料ニ供セシムルナリ。

以上往昔獄政如何ノ大略ヲ知了スルニ足ルベシ。是ニ由テ之ヲ觀レバ昔時ニ在テハ罪囚ハ政府ヨリ成規ノ保護ヲ受クルコトナク、一ニ之ヲシテ慘虐貪慾ノ支配スル所タラシメ、度外ニ措テ之ヲ顧ルモノナカリキ。蓋シ此ノ如ク獄舍ノ慘狀ヲ呈シタル一大原由ハ、前世紀ノ後半以來昔時ノ暴逆慘酷ナル處刑ヲ廢シ、漸次監禁ノ方法ヲ以テ之ニ代フルニ際シ、當時獄舍ノ數ノ寡少ナルト室數ノ不足ナルニ存セリ。而シテ此ノ如ク處刑ノ舊法ヲ改メテ良法ノ美ニ移ラントスルニ當リ、之ト同時ニ獄政ノ改良ヲ圖ラザリシガ爲メニ其結果ニ於テ大害アルヲ見ルニ至レリ。

本邦ニ於ケル古來獄舍ノ狀況モ亦大ナル差違ナキガ如シト雖モ、其沿革スル所彼此同ジカラザルモノアルヲ以テ試ニ之ヲ略陳セン。

我國獄政ノ沿革

然リト雖モ此ノ如ク一般ニ獄政ノ悲歎スベキ位地ニアリシヲ觀テ、直ニ臆斷シテ一モ例外ノ場合ナシト爲スベカラズ。抑々善良ナル獄政ヲ布カンコトハ既ニ古ノ聖賢ノ畫策スル所ニシテ、希臘ノ哲學者「プラトー」ハ其著ハス所ノ法律篇中ニ論ジテ曰ク、須ク市内ニ於テ三箇ノ獄舍ヲ建設スベシ。一ハ未ダ審問判決ヲ受ケザル者ヲ留置スル爲ニ供シ。一ハ暴行者流浪者及ビ輕罪ヲ犯シタル者等ヲ拘留スル爲ニ供シ、之ヲ「ソフロネステリヲン」(改悛院ト云フノ義ニシテ智慧及節度ヲ教練スル場所)ト稱シ、夜間「ソフロネストイ」ト稱スル法官之ヲ監視スルモノト爲シ、一ハ民屋ヲ離隔シタル地ヲ擇テ建設シ、罪囚ヲ懲罰スル爲ニ供スベシト。是レ卽チ(一)拘留檻、佛人ノ所謂豫防獄(二)市獄若クハ邑獄及ビ(三)既決囚獄又ハ中央獄ノ三者ニシテ近世感化院ノ獄政ニ甚ダ相似タリ。

羅馬皇帝ノ中基督教ヲ奉ゼシ者ハ啻ニ基督教會ヲシテ囚徒ノ狀態ヲ改良セシメンコトヲ公許セシノミナラズ、皇帝躬ラ之ヲ求メタルハ「セヲドーシヤン」第二世幷ニ「ジヤスチニヤン」帝ノ法律ニ依ルモ明ナリ。則僧正(ビシヨツプ)ヲシテ法官ト共ニ時々巡檢審査シテ囚人ノ故ナク拘留セラレ、若クハ慘酷ナル待遇ヲ受クルヲ制止シ、及ビ法律ニ違反シテ私獄ニ繫留セラレタル人民ヲ放免セシメタルガ如キ其一例トスベシ。

英國ニ於テ初メテ獄政ノ改良ヲ施スニ至リタルハ實ニ千六百九十九年基督教學會創立ノ後ニシテ、當時同會ニ於テ監獄委員ナルモノヲ選任シ、以テ倫敦府ニ在ル獄舍ヲ巡檢セシメ、各室ニ就テ囚徒ヲ檢視シ、之ニ金錢幷ニ宗教上ノ書冊ヲ頒與シテ、其調査ノ結果ヲ該會ニ報道セシメタリ。又千七百二十八年下議院ニ於テ委員ヲ選任シテ王國内ニ在ル獄舍ノ狀況ヲ巡檢セシメタリキ。而シテ其結果ハ所謂獄鬼(プリズンモンスター)ナルモノノ獄職ヲ解キ、次デ之ヲ裁判ニ付シテ其罪科ヲ糾明シ、曾テ其暴逆ヲ恣ニシ苛酷ヲ極メタル所ノ獄舍ニ投ジテ懲罰ヲ加エタリト雖モ、實際ニ於テ獄政改良ノ事業ハ未ダ充分ノ成功ヲ奏スルノ時運ニ達セザリキ。當時「アルコホル」的飲料ノ消費高年々異常ノ增加ヲ爲シ、從テ犯罪ノ數頻リニ多キヲ加ヘ、之レト共ニ絞罪ノ術大ニ進歩シタリ。此時法律上死刑ニ該當スル種類無量百六十ニ上リ、猶ホ漸次增加シテ二百二十有二ノ多キニ達シタリ。而シテ千七百六十五年「ブラツクストン」氏註釋(コンヌンタリー)ノ出版アルニ當リ、罪犯ヲ防遏スルハ苛刑酷律ニ賴ラザルベカラズトスル、世人ノ信用大ニ衰ヘ、續テ「モンテスキウ」ノ萬法精理及ビ「ベラリヤ」ノ犯罪幷ニ處刑ト題スル書ノ翻譯書上梓セラルヽニ至リテ、愈々其信用ヲ地ニ墜スニ至レリ。千七百七十二年一僧侶「デン」書ヲサー、ロハルト、ラツドブローク」ニ送リ、罪人ヲ改悛セシメテ以テ犯罪ヲ防止スル一ノ方法トシテ分室監禁ノ制ヲ主張シタリ。蓋シ此僧侶ヲ以テ分室

監禁制第一ノ主唱者ト爲スニ至レリ。而シテ幾ント同時ニ於テ有名ナル慈善家ニシテ獄政改良家ナル「ヂョン、ハワルド」選バレテ「ベッドフォルド」州ノ最高執行官（シエリフ）ノ職ニ就ケリ。

氏ガ獄政改良ノ事業ヲ始メシハ正ニ千七百七十三年ニシテ、爾來其絶倫ノ勤勉、忍耐及才能ヲ以テ之ガ業ニ從事シ、露國「クリミヤ」ニ於テ熱心獄舍ノ調査ヲ爲セシ中ニ溘然長逝シタリキ。時ニ千七百九十一年一月二十日ナリ。當時氏ハ專ラ各國獄舍ノ現狀ヲ詳悉スルニ必要ナル材料ヲ蒐集スルヲ以テ目的トシタリ。而シテ此目的ヲ成遂セン爲ニ歐洲各國ヲ巡遊シ、到ル處之ニ關スル事實報道ヲ採收スルコトヲ務メリ。其所著獄舍ノ現況（ステトオブプリズンズ）ト題スル一書ハ大ニ獄舍ノ改良ニ關シ世人ノ注意ヲ喚起シタリ。氏ノ意見ニ出タル夫ノ囚人身體上ニ關スル改良案ノ採用セラレタルハ殊ニ其滿足セシ所ナラン。然レドモ其最モ精神ヲ苦メタル分室監禁ノ制ニ基キタル感化法ノ國人ヨリ排斥セラレタルハ遺憾ノ極ナリシナラン。當時英國ニ於テ輿論タリシ囚徒ヲ遠地ニ送致スルノ策ニ對シ、「ハワルド」ハ力ヲ極メテ反對痛擊セリ。時ニ囚徒獄舍ニ充滿シ、獄熱再ビ大ニ流行シテ慘毒ヲ極メタリキ。又亞米利加殖民地ノ本國ヨリ分離セシニ因リテ囚徒ヲ送致スルヲ得ザルニ至リ、囚徒ノ數益々多キヲ加ヘタルヨリ、之ヲ疆外ニ逐斥スルノ新路ヲ探見シテ、千七百八十七年「コンモドル、ヒリップス」男女囚徒合セテ八百人ヲ率ヒ、之ヲ七隻ノ運送船ニ積載シテ「ニユー、サウス、ウエールス」ノ「ボタネー」港ニ向テ解纜シタリ。而シテ此等ノ囚徒ハ遂ニ英領「オーストラリヤ」帝國ヲ創立シタル祖ト爲リ、獄政改良事業ノ議論ハ竟ニ英國ニ於テ失敗ヲ取ルニ至レリ。

伊國ニ於テハ法王「クレメント」第十一世千七百四年ヲ以テ獄舍ニ大改良ヲ施シタリ。同法王ハ羅馬ニ在テ幼年幷ニ中年者ノ爲ニ設ケタル「セント、ミツチエール」幼年獄ニ於テ獄舍紀律ノ一法ヲ設定セリ。蓋シ此法ハ其後今日ニ暨ブマデモ「オーボルン」法ト稱セラレ、晝間ハ囚徒ヲシテ靜默合同其役ニ服セシメ、夜間ハ各々別室ニ幽閉シテ寢ニ就カシム。卽チ分室監禁法ヲ施セリ。惟フニ該獄ハ歷史上實ニ善良ノ目的ヲ以テ設定シタル文明的ノ感化院ノ嚆矢ナリ。其獄ノ門上ニ左ノ題詞ヲ大書セリ。

最高ノ法王「クレメント」第十一世ハ少年ノ罪囚ヲ改悛教化シ其懶惰不善ナルガ爲ニ國家ノ有害トナル者ヲシテ教化訓誨シテ國家有用ノ良民タラシメンガ爲ニ此獄ヲ建設ス。
基督聖主ノ千七百四年　法王ノ第四年

又獄內ニ在ル壁間ノ大理石ニハ羅典文ヲ以テ左ノ敬服スベキ語ヲ彫刻セリ。

囚徒ハ教育ヲ以テ感化スルニアラザレバ徒ニ刑罰ヲ以テ其兇惡ヲ防範セントスルハ無益ナリ。

又重ナル服役室ノ中央ニ「靜默（サイレンチアム）」ナル羅典語ヲ大書シ、夜間ハ個々別室ニ就眠シ、晝間ハ靜默服役セザルベカラザルヲ示セリ。之ヲ要スルニ晝間ハ靜默ヲ以テ合同服役セシメ、夜間ハ各々別

室ニ離居セシメ、之ヲ御スルニ感化紀律ヲ以テスルハ既ニ今ヲ去ル百八十有五年ノ前、即十八世紀ノ初ニ於テ羅馬ニ創始セラレ、而シテ賴テ以テ感化ノ實效ヲ擧ゲントシタル一方法ハ全ク囚徒ヲシテ工業ニ就カシムルニ在リキ。夫ノ「エラム、リンヅ」及ビ其同志者ガ該法ヲ米國ニ輸入セシヨリ先ヅコト實ニ百餘年ナリ。

同世紀ニ於テ白耳義ニモ亦感化學及ビ其實地ノ應用ニ一ノ改良ヲ施セリ。當時白耳義ハ墺太利ノ屬地タリシヲ以テ「オウストリヤン、ネザーランド」ト稱シタリ。此時(即チ千七百六十三年)「フランダース」ノ大守「チヤールス」親王ハ維也納府ノ樞密院ニ向テ建議シテ曰ク、凡ソ破廉恥ノ者ハ不名譽ヲ以テ制裁スル能ハズ、故ニ鞭笞烙印竝ニ拷鞫ハ以テ罪囚ヲ拘束スルニ足ラザルナリ。其怠惰無賴者ヲ救匡スルノ道唯ダ之ヲシテ役ニ就カシムルニ在ルノミト。女皇「メリヤ、テレサ」ハ親ラ此問題ニ關シテ二篇ノ論文ヲ起草シ、其材能ト其仁慈トハ大ニ時人ノ稱譽ヲ被ムレリ。此論文ニハ酷惡大罪ヲ除ク外ハ漸ク死刑ヲ廢シテ全ク跡ヲ收メシメ、之ニ代フルニ感化院ヲ設立スベキヲ主唱セリ。而シテ此獄政改良ノ業ニ於テ最モ有名ナリシハ子爵「ヴイレーン」ナリキ。蓋シ此人ハ千七百七十五年「ガン」ニ於テ設立シタル中央監獄ノ計畫者ニシテ而カモ創立者タリ。此監獄ハ夫ノ夜間個々別室ニ就眠シ、晝間合同服役スルノ制ニ基クモノニシテ、是レ亦「オーボルン」監禁法ニ先チテ起リ之ニ類似スルモノ、一ナリ。

茲ニ各國獄政改良ニ關スル思想ノ漸ク發達シタル事ヲ細論センコトヲ欲スト雖モ、奈何セン時間ノ限リアルヲ以テ姑ク之ヲ爰ニ止ム。而シテ以上余ノ陳叙シタル所ヲ以テ獄政改良ニ關スル思想ハ一箇特殊ノ沿革ヲ有シ、又亞米利加大陸ニ於テ一ノ新政界ヲ開キ、且十八世紀ノ後半ニ於テ廣ク傳播シタル自然法竝ニ開明ノ理論ノ結果トシテ、各國ニ於テ新政體ヲ創始セシ時ニ至リ初メテ充分ノ發達ヲ爲セシコトヲ示スニ足ラン。而シテ此政治上ノ發達殊ニ獄政改良ニ於テハ文明諸國中合衆國ノ右ニ出ルモノナキハ世人ノ熟知スル所ナリ。又千七百八十六年以來「ペンシルヴエニヤ」州竝ニ紐育州ニ於テ率先發明シ、且實行シタル所ノ各種監獄法ノ形狀及ビ此等監獄法ノ爲ニ「ウオルナツト、ストリート」獄「チヱレー、ヒル」獄「オーボルン」獄「シンシン」獄竝ニ「ピツツボルク」獄等ノ名ヲ知ラルルニ至リタルハ既ニ洽ク世人ノ知了スル所ナルヲ以テ此ニ之ヲ詳說スルノ要ナカルベシ。近世二三十年間ニ創始シ、且漸次改良ヲ加ヘタル各種獄法ノ中ニ就キ吾人ノ注意ヲ要スベキ三個ノ要點アリ。

第一　囚徒ヲシテ毫モ服役セシメズシテ晝夜個々別室ニ離隔監禁スルノ法ハ囚徒ノ身心上健康ニ大害アルヲ以テ全ク之ヲ廢止シタリ。第二　夜間ハ囚徒ヲ離隔セシメ、晝間ハ合同服從セシムルノ法ニ基ケル「オーボルン」法ナリ。是レ合衆國各州ニ於テ最モ完全ナリト認メラルヽモノナリ。第三「ヒラデルヒヤ」又ハ「ペンシルヴエニヤ」法ト稱シ、晝夜トモ囚徒ヲ個々離隔セシメ、加フ

ルニ室内ニ於テ間斷ナク工業ニ從ハシメ、智識ヲ訓練シ道德ヲ教誨シ、其他宗教ノ訓戒ヲ授ケ精神上ノ感化力ヲ適用スルノ法ナリ。蓋シ此法ハ米國ニ於テハ唯ダ「ペンシルヴエニヤ」州ノ東部ニ之ヲ行フノミナリト雖モ、歐洲ニ在テハ往々之ニ摸倣スルモノアリ。此等數種ノ獄法ニ付キ孰レヲ最モ價値アリ效力アリトスルヤ否ハ從來議論多シト雖ドモ、之ヲ斷定スルハ今余ノ目的トスル所ニアラズ。然レドモ玆ニ諸君ノ注意ヲ請ハザルベカラザル一事アリ。抑々米國ニ於テ監獄改良ノ生起シタル所以ハ單ニ獄舍ノ制度ヲ改良セント欲セシニ由來スルニ止ラズ、刑罪ニ關スル制度殊ニ刑罰ニ關係スル制度ニ就キ大體ノ改良ヲ爲サントスルニ在リ。蓋シ「ペンシルヴエニヤ」州ニ於ケル「クエーカー」宗ノ信徒ハ、其教理ニ於テ總テ殺伐ニ類スルコトヲ嫌忌スルガ故ニ、嘗テ本國ヨリ同殖民地ニ輸入シ來リタル苛酷ノ刑罰ニ反對スルコト久シカリキト雖ドモ、千七百八十年ニ至リ始メテ立法院ノ爲ニ其議ヲ容レラル、コトヲ得タリ。爾後「ペンシルヴエニヤ」州ニ於テ死刑毀傷鞭笞等ノ刑ハ全ク之ヲ廢止シ、總テ身體上ノ刑罰ニ代フルニ監禁ヲ以テスルニ至レリ。又同州ニ於テハ裁判所ヲシテ重罪犯者ニ對シテ晝夜暗室監禁ノ刑ヲ宣告セシメタリ。監獄紀律ニ服從セザル囚徒ヲ屈撓セシムルニ土牢ヲ用ヰタルモ、其牢内ニ在テハ決シテ服役ヲ許サザリキ。是レ「ヒラデルヒヤ」ニ於ケル「ウオールナツト、ストリート」獄ノ起原ナリトス。千七百九十七年紐育州ニ於テ新刑法ヲ施行シ、且之ト同時ニ新獄法ヲ行フニ當リ、同州ニ於テモ此獄法ニ摸倣セリ。踵デ「メレーランド」「マツサチユーセツツ」「メーン」「ニユージヤージー」「ヴアージニヤ」其他諸州ニ於テモ之ヲ採用スルニ至レリ。而シテ此諸州ニ於テハ刑法ノ改良ハ實ニ獄政ノ改良タリキ。

歐洲各國モ亦均シク同一ノ順序ヲ以テ進行セリ。卽チ各國俱ニ今世紀間ニ於テ多少其刑法ヲ改正シ、然ル後ニ其獄政ヲ改良シタリ。而シテ其改正ノ要點ハ總テ身體上ノ刑罰ヲ廢シテ死刑幷ニ罰金ヲ使用スル場合ヲ減ジ、監禁ヲ以テ普通ノ刑罰トセシニ在リ。白耳義ニ於テハ「ガン」ヲ除クノ外何處ノ獄舍ニ於テモ皆全國普通規則ニ依リ分室監禁法ヲ行ヘリ。同國ニ於テハ「ルーヴアン」ニ在ル中央監獄ヲ以テ標準ト爲セリ。獨逸ニ於テハ千八百七十七年ノ刑法ニ依リ、重罪輕罪共ニ總テ分室監禁法ヲ用ユ。然レドモ刑期三年以上ニ涉ル場合ニ於テハ囚徒ノ承諾ヲ得ルニアラザレバ之ヲ用ヰズ。巴丁ノ「ブルツドサル」普露士ノ「アワビツト」巴華里ノ「ニユーレンベルグ」其他ノ場所ニ於テ最モ嘆賞スベキ分室監禁制ヲ施セリ。佛國ニ於テハ久シク躊躇セシト雖遂ニ千八百七十五年ノ法律ニ依リ、或ル種類ノ囚徒ヲ罰スルニ分室法ヲ始メテ行ヘリ。英國ニ於テハ千八百三十八年及ビ千八百七十八年ノ兩年ノ獄舍案ニ因リ稍々分室法ニ基キテ獄舍ノ制度ヲ更正シタリ。墺太利ニ於テハ千八百七十二年以來稍々分室法ヲ採用スルニ至レリ。伊太利、西班、荷蘭其他ノ諸國ニ於テモ獄政改良ノ事ハ將ニ益々注意ヲ惹起セントスルノ趨向アリ。

尙ホ分室監禁法ノ外多少相異リタル法アリト雖ドモ、玆ニ其名稱ノミヲ列擧スルニ止ルベシ。譬ヘバ「ミューニヒ」ニ於ケル「ヲーベルマイエル」法、西班ノ「ヴアレンシヤ」ニ於ケル佐官「モンテシー」ノ法「フリツシユ」又ハ「クロフトン」法、普露士ニ於ケル「クロハツブ」伯ノ法案ノ如キ卽チ是ナリ。蓋シ此諸法ノ監禁法ハ細微ノ點ニ於テ多少ノ異同ヲ見ルト雖モ、其目的トスル所ハ順次進步ノ法ニ由リ、各囚徒ノ身體幷ニ精神上ノ情態ニ應ジ、道德上幷ニ工業上ノ教育ヲ施シ、以テ囚徒ヲシテ改悛ノ實ヲ擧ゲシムルニ在リ。又囚徒ヲ其進步ノ度ニ應ジテ等級ヲ分ツノ法モ亦英伊兩國ニ於テ屢々之ヲ施行セリ。

方今何レノ邦國ヲ問ハズ監獄改良會ノ設及ビ監獄雜誌ノ發行アラザルコトナシ。又之ヲ大ニシテハ萬國監獄會ナルモノアリ。蓋シ此大會ハ千八百四十五年ニハ「フランクフオルト」ニ、千八百四十六年ニハ「ブラツセル」ニ、千八百五十七年ニハ再ビ「フランクフオルト」ニ、千八百七十二年ニハ倫敦ニ、千八百七十八年ニハ「ストツクホルム」ニ、千八百八十五年ニハ羅馬ニ其會議ヲ開設シタリ。抑々監獄制度ニ付テハ或ハ著書ヲ以テ或ハ演說ヲ以テ之ヲ論議スル者多々ナルガ故ニ竟ニ殆ンド一科ノ學術ヲ成スニ至レリ。

吾人ハ以上叙述シタル事實ニ就キ、何等識得スル所アル乎。之ヲ要スルニ獄政改良ハ決シテ單獨ノ事件ト看做スベカラザルナリ。則此事タル刑法幷ニ一般行政ノ發達ト密接ノ關係ヲ有スルモノナリ。是レ自然ノ結果タラザルヲ得ズ。而シテ刑法幷ニ一般行政ノ高尙ノ域ニ達シタルハ全ク近世開明ノ主義人道ノ定義、司法上ノ精理及ビ人類權利ノ眞理ニ根據スルモノナリ。凡ソ此等ノ理論ニ依レバ國家ハ各々其國ニ適スル監獄ノ制度ヲ行ハザルベカラズ。而シテ其監獄ノ制ヲ撰擇スルニ當テハ、獨リ犯罪ノ豫防囚徒ノ改悛社會ノ保護等ニ關スル各監獄法ノ理論如何ニ拘ラズ、專ラ其實ヲ擧グルヲ以テ標準トセザルベカラズ。又離隔、合同、衣服、食料、服役、訓導、宗教ノ感化、其他假放免等監獄制度ノ細事ニ關シテモ亦諸說相容レザルモノアラン。宇內各國均シク普通ノ獄政ヲ設ケントスルガ如キハ決シテ期スベカラズ。何トナレバ各國皆各々其氣候風土人情等ニ異同アルヲ以テナリ。然レドモ夫ノ報復威嚇ノ主義ニ基ケル舊獄法ハ決シテ之ヲ恢復スベカラザルナリ。而シテ刑法竝ニ刑罰ノ方法ノ發達ハ前途猶悠遠ナリ。故ニ今ノ時ニ當リ吾人ハ一方ニ於テハ單ニ囚人ニ苦痛ヲ蒙ラシムルノ法ト、他ノ一方ニ於テハ監獄ヲ變ジテ病院又ハ悛悔院ト爲スノ法トノ兩極間ニ中庸ヲ得ンコトヲ勉メザルベカラズ。

今ヤ我國ニ於テ宇內ノ時運ト共ニ開明進步ヲ觀ルニ至リタルハ余ノ最モ歡喜スル所ナリ。既ニ本邦ハ舊來ノ刑法竝ニ刑罰法ヲ悉ク廢シ、之ニ代フルニ近世泰西ノ主義ニ基ケル刑法竝ニ刑罰法ヲ設クルヲ得タリト雖ドモ、仍ホ其ノ修正完備ヲ要スルノ點多々アラン。而シテ本會ニ於テ講究スル論議ハ政府ノ爲ニ價値アル補益トナランコト余ノ切望ニ堪ヘザル所ナリ。蓋シ政府ニ於テモ

我刑罪ノ制度ヲシテ益々整備セシメ、之ヲ法理ニ照シ文明ノ主義ニ則リ、以テ完美ノ域ニ進マシメ、我人民及ビ後來我裁判權ニ服役スル外國人民ニ對シ共ニ之ヲ適用スルヲ得ルニ至ラシメンコトヲ務メザルベカラザルナリ。

八十九年四月廿五日

民法ニ付ロエスレル氏意見

左文一篇係呂氏之所口述而予以英文筆記之者客歲伊藤總理大臣巡閲沖繩以下三縣予奉命隨行舟中無事秉鉛筆譯之歸京後重檢其稿字跡漸已糢糊有不可辯者顧以公務繁劇未及細審此少間乃對照原文雖未暇加修飾稍補足其磨滅處繕寫以呈覽云

巳代治再拜

梧陰先生

研北

日本民法編纂方法ニ關スル意見

余ハ日本民法ノ編纂ニ關シ左ニ記述スル意見ヲ呈スルノ榮ヲ荷ヘリ。

何レノ邦國ヲ論ゼズ、民法編纂ノ事タル一方ニ於テハ法學上ノ事業ニ屬シ、他ノ一方ニ於テハ政治上ノ考察ヲ要スベキ事件ナリトス。抑々民法ナルモノハ素ト政治上ノ性質ヲ有スルモノニアラズト雖モ、其結果ノ及ボス所、國家ノ政治ト重大ノ關係ヲ有セリ。卽チ民法ノ如何ニ依リ其人民ノ體格德義竝經濟ニ重大ノ影響ヲ及ボスヲ以テ、勢ヒ其政體ト相關係セザルヲ得ズ。而シテ今

ヤ民法ガ人民ノ體格德義竝ニ經濟ニ及ボス影響ノ如何ニ就テハ余ハ別ニ說明スルヲ要セズト雖モ、獨リ民法ト政體トノ關係ニ至テハ余ハ將ニ云ハントス、凡ソ民法ニ網羅スル法理ノ通義ハ、星霜ヲ經ルニ隨ヒ漸ク公法竝政體ヲ浸潤スルノ傾向ニ趨ルハ勢ヒ免ル能ハザル所ナリト。抑々民法ノ規範トスル所ニ由リ、人民ノ間ニ涵養シタル政治上ノ精神ハ、以テ其國政治上ノ形體ヲ動カスニ足ルノ勢力ヲ有スルニ至ルベキガ故ニ、民主々義ニ基ク民法ハ必ズ民主々義ノ政體ヲ生ズルニ至ルベシトハ是レ曾テ世上ノ論者ガ屢々唱道シタル所ニシテ、甚ダ道理ニ協フノ說ト云フベシ。此道理ヲ以テ論ズルトキハ、君主政治又ハ貴族政治ノ主義ニ基キタル民法ハ必ズ君主政治又ハ貴族政治ヲ施スニ便ニシテ、之ヲ維持スル爲ニ或ハ必須措クベカラザルモノナルコト復タ推シテ知ルベキナリ。

此ノ外政府ノ考究スベキ今一條ノ要點ハ、一國ノ民法ハ其國民ノ性情ニ適合セザルベカラザルコト卽チ是ナリ。若シ前來未聞ノ新奇ニ係リ、人民ノ思想及感情ト相乖離スル如キ民法ヲ施行スルトキハ、則人民一般ニ之ヲ理解スルコト能ハズ、隨テ之ヲ實施スルノ困難擧テ數フベカラザルガ爲メニ、竟ニ人民ノ反論ヲ促シ、社會ノ擾亂ヲ釀スニ至ルベシ。殷鑑遠カラズ、今ヲ距ル三四百年前、獨國ニ於テ自國古來ノ法律ニ代ユルニ羅馬法ヲ以テセシ時ニ當リ、實ニ之ト同一結果ヲ生ジタリキ。其後內亂相踵デ起リ、爲ニ政治上ニ社會上ニ獨逸國民ノ衰頹ヲ來セリ。蓋シ其遠因多クハ羅馬法ノ移入ニ基セルハ亦明ナリトス。斯ノ如キ實驗ニ依テ考フルニ、今日本ニ於テ新ニ民法ヲ制定スルノ一事ハ實ニ潛考熟慮ヲ要スベキ重要事件タリ。退テ顧ルニ今日ノ日本ハ僅々數フベキノ年間ニ於テ既ニ政治上及社會上百般ノ制度ヲ擧テ非常ナル變革ヲ加ヘシメタルニ、今復タ民法ヲ新定施行セントスルハ恐クハ一時急奔ニ失シ、爲ニ暴烈ナル反論ヲ招クニ至ラン。而テ若シ一朝ニシテ新民法ヲ施行スルトキハ、人民ノ私交上相互ノ關係ニ於テ數フ可ラザルノ困難ト不便トヲ感ズルヤ必セリ。是ニ於テ乎人民ハ新法ヲ以テ之ヲ便益トセズ、却テ之ヲ壓制ナリト認メ、爲メニ漸ク亂階ヲ開キ法律ニ抵抗シ政府ヲ敵視スルノ精神ヲ養成シ、遂ニ到ル所人心離反シ風俗敗壞セザルコトナキヲ得ザルニ至ラン。

加之ナラズ不動產竝ニ一家ノ關係ニ就キ新ニ外國ノ法律ヲ移入シ、契約ニ關シテ盤根錯節困難極リナキ新法ヲ制定スルトキハ、爲ニ日本經濟上ノ進步ヲ妨阻スルコトヲ免レズ。徒ニ急奔激進ヲ旨トシテ妄リニ不動產所有ノ法律ヲ變更スルコトアラバ、其弊ノ及ボス所家督相續法ニ關シテ亦前ニ記スルノ場合ト同一ノ結果ヲ生ズルノ恐アリ、豈鑑ミザルベケンヤ。

今ヤ日本ハ駸々トシテ泰西開明ノ域ニ進ミ、且列國ト交涉上ノ義務ヲ荷フノ時ニ當リ、日本民法ハ泰西民法ノ原理ニ基キ之ヲ編纂スベキハ論ヲ俟タザルナリ。然レドモ日本現行ノ民法ニシテ所謂泰西民法ノ原理ト氷炭相容レザルモノヲ除クノ外ハ、渾テ之ヲ維持保存スルニ於テ何ノ妨グ

ル所カアラン。故ニ余ノ管見ノ在ル所ヲシテ果シテ眞理ナリトセバ、前陳ノ範圍内ニ於テ現行ノ日本民法ヲ維持保存シ、可及限リハ之ヲシテ適當ノ發達ヲ爲サシムルコトヲ務メザルベカラザルヤ炳焉タリ。

今假リニ日本ノ法律ヲ參酌スルコトナク、一ニ泰西ノ民法ニ基キ日本ノ爲ニ新民法ヲ編纂スルトセンニ、所謂泰西民法ナルモノハ各國均シク一轍ニ出デズシテ各々大ニ其揆ヲ異ニスルモノナルコトヲ知ラザルベカラズ。故ニ各種民法中孰レヲ採テ日本ニ施スベキヤト云フハ一大疑問タラザルコトヲ得ズ。而テ此問題タルヤ決シテ單ニ法學上ノ思想ノミヲ以テ斷定スベキモノニアラズ。日本政府ハ宜シク之ヲ以テ將來國家ノ强大ヲ謀リ、及其幸福安寧ヲ進ムル爲ニ至重至大ノ關係ヲ有スル一要件トシテ裁酌決定セザルベカラザルナリ。

蓋シ民法ノ如キ大問題ニ關シ其原理ニ涉リテ細大漏サズ玆ニ詳論スルヲ要セズト雖モ、余ハ此問題ニ就キ政府ガ裁斷ヲ下スノ時ニ當リテ政治上ノ觀察ヨリ須要措クベカラズト認ムベキ論點ニ關シ卑見ヲ略述スルヲ許サレンコトヲ望ム。

夫レ泰西ノ民法ハ之ヲ大別シテ二類ト爲スヲ得ベシ。一ニ曰ク佛蘭西、羅馬民法、二ニ曰ク獨逸民法卽チ是ナリ。而テ余ガ玆ニ獨逸民法ト稱スルモノハ獨逸本國ノ民法ヲ云フニアラズ、何トナレバ獨逸聯邦ノ民法ハ多ク羅馬法ノ浸潤スル所タレバナリ。蓋シ余ガ稱シテ獨逸民法ト云フ所ノモノハ其意義極メテ廣ク、英國ヲ始メ他ノ北歐諸國幷北亞米利加ノ民法ヲモ亦包括スル所ナリ。

スラーブ民族ノ民法殊ニ露國ノ民法ハ之ヲ第三類トスルヲ得ベシ。此類ノ民法ハ或ル點殊ニ不動產ニ關シテハ之ヲ講究シテ利益ナキニアラズト雖モ、元來泰西ノ文明ニ匹傳タラサルガ故ニ姑ク之ヲ看過スルモ亦敢テ不可ナカルベシ。

佛蘭西民法ヲ概論スルハ則男女ノ別又ハ政治上ノ境遇ニ拘ハラズ、一個人ハ全ク平等ナルコト、親族關係ノ甚ダ疎薄ナルコト、財產ノ鞏固ナラザルコト、及家督保存ニ意ヲ用ヒザルコト是ナリ。佛蘭西民法ハ總テ制限家督ヲ禁ジ、且父母遺言ヲ爲スノ權利ニ制限ヲ置キタル等純然タル民主々義ノ性質ヲ帶ビタルガ爲ニ、佛蘭西ニ於テハ大ニ民主々義ノ傳播ヲ助ケタリト云フノ說アルハ洵ニ其當ヲ得タル見解ナリト評スルニ足ルベシ。拿破崙第一世ノ初テ民法ヲ制定スルヤ、其目的ハ財產ヲシテ全ク鞏固ノ性質ヲ失ハシメ、以テ人民ヲシテ其政府ニ抵抗スル手段ヲ得ザラシムルニ在ルコトヲ言明セリ。是レ當時ニ在テハ遠大ノ奇策ナリト思惟セシナラント雖モ、歲月ヲ經過スルニ隨ヒ、財產ノ不鞏固ハ延テ政治上ノ不鞏固ヲ來スニ至レリ。而テ佛國ニ於テ革命相接シテ起リタルモ其原由多クハ此一事ニ歸セザルヲ得ズ。

獨逸民法ハ佛蘭西民法ト殆ンド相反スルノ性質ヲ有スルヲ以テ、君主政體又ハ貴族政體ニ最モ適當スルモノナリ。

獨逸民法ハ全體ニ於テ佛蘭西民法ヨリハ更ニ保守ノ性質ヲ帶ビ、殊ニ農民幷ニ上等社會ノ財産ニ關シテ最モ然リトス。獨逸民法ハ父母ノ權力ヲ保護シ、親族ノ關係ヲ敦フスルガ故ニ、封建制度ノ後ヲ繼テ之ヲ施行スルモ一國政治上ノ基礎ヲ鞏固ニスルニ足ルモノナリ。

現ニ行ハル、日本民法ハ世間未ダ之ヲ知ルモノ稀ニシテ、素ヨリ燦然トシテ條章ノ徵スベキナシト雖ドモ、其現ニ存在シテ裁判所幷ニ人民日常ノ交際上ニ實行セラル、コトハ蓋シ疑ヲ容レザル所ナリ。余ノ時々見聞スル所ニ依リテ之ヲ考フレバ、日本民法ハ佛蘭西、羅馬民法ヨリハ寧ロ獨逸民法ノ主義ニ類似スル點多キニ居ルガ如シ。夫レ日本民法ハ親族關係ヲ以テ大基礎ト爲シ、相續法ノ如キハ全ク佛蘭西民法ト相反スルモノノ如シ。故ニ今若シ日本ニ於テ佛蘭西民法ニ摸倣スルトキハ財産上ノ關係ニ於テ一大變亂ヲ來スノ恐アリ。日本人民ヲシテ斯ノ如キ激變ニ遭遇セシムルハ是レ豈ニ危險ノ極ナリト云ハザルヲ得ンヤ。日本人民ノ多數ハ政治上並施政上ノ事件ニ就テハ別ニ思想ヲ有セザルモ、其一家内ノ關係、其財産並其經濟上ノ利害ニ關シテハ其痛痒ヲ感ズル所最モ深ク、隨テ其意ヲ注グヤ最モ切ナルベシ。而シテ其生命ニ亞テ最モ貴重ナル前記ノ事項ニ就キ、大ニ其意ニ相反スルコトアラバ人心忽チ激昂シテ如何ナル禍機ヲ啓クニ至ルベキモ亦逆ジメ測ルベカラザルモノアリ。

以上開陳シタル理由アルガ故ニ、日本ニ於テ新民法ノ主義ヲ確定スルニ先チ、日本現存ノ民法ヲ研究スルコト極メテ急務ナリトス。而シテ此研究ノ爲ニハ數多ノ日子ヲ費シ、或ハ詳密之ヲ究ムルヲ要セズ、只ダ現存民法ノ要旨ヲ究明シテ以テ他日民法編纂ノ時ニ當リ泰西民法ノ通義ヘ適合スル限リハ之ヲ利用スルヲ以テ其目的トスベシ。斯ノ如キ研究ヲ爲サンニハ先ヅ財産親族相續等ノ事項ニ關シ一定ノ問題ヲ作リ、以テ經驗アリ信用アル人ニ就キ或ハ相當ノ裁判官ニ下附シ、同時ニ三四ケ所ニ於テ之ヲ講究セシムルトキハ容易ニ其目的ヲ達スルヲ得ベシ。

日本ニ於テハ目下既ニ民法草案編纂ニ着手シ、未ダ結了ニ至ラズト雖モ、其起案者ノ人物如何ニ拘ハラズ、之ヲ一讀シタル者ノ所論ニ依レバ第一該草案ハ理論高尚ニ過ギ人民ハ之ヲ解得スルニ困ミ、裁判所ニ於テモ亦適用上大ニ困難ヲ感ズベシ。第二該草案ハ日本ノ法律又ハ自余ノ泰西民法ヲ參照スルコトナク、單ニ佛蘭西羅馬法ニ依テ編纂シタル純然タル學術的ノモノナリト云フニ在リ。故ニ該草案ハ果シテ日本眞正ノ利益ニ適スルヤ否ヤ甚ダ疑ヒナキ能ハザルナリ。

余ハ該草案ノ適否如何ハ姑ラク措テ之ヲ論ゼズト雖モ、日本政府ニ於テ單ニ該草案ノミニ依テ日本將來ノ民法ヲ斷定セラル、ガ如キアラバ、必ズ重大ナル困難ト不便トヲ感ゼザルヲ得ザルベシ。何トナレバ該草案ハ問題ノ一面ヲ示スノミナリト雖ドモ、元來民法編纂ノ事業タル極メテ重大ニ屬スルヲ以テ、更ニ他ノ一面ヨリ均シク之ヲ講究スルハ亦太タ緊由ナレバナリ。日本ニ於テハ今日ニ至ルマデハ泰西文明ノ制度中重ニ行政上並ニ政治上ノ問題ノミヲ講究シテ之ヲ採用シタ

ルモ、未ダ日本ニ於テ泰西ノ民法ヲ熟知スルモノ甚多カラズ。今ヤ民法ヲ制定セントスルニ臨ミ各面ヨリ此問題ヲ討究シテ眞理ヲ發見セント欲セバ、更ニ日本法律ト及泰西民法中佛蘭西羅馬ノ民法ト異ナルモノトヲ參酌シテ一草案ヲ起スハ最モ緊要ナルガ如シ。若シ然ラズシテ單ニ一ノ草案ニ限ルトキハ政府ハ取捨撰擇ノ自由ヲ失ヒ、徒ニ外面ノ事情ニ迫ラレテ滿心悅服セザル民法ヲ强テ制定セザルヲ得ザルニ至ランモ亦未ダ知ルベカラズ。以上陳述シタル如キ研究ヲ爲シ、以テ更ニ一ノ草案ヲ作ルハ決シテ數多ノ日月ヲ要スルニアラズ、恐ラクハ現時ノ草案ヲ充分ニ修正變更スルハ却テ更ニ多クノ日子ヲ要スベシ。寧ロ日本人民ノ爲ニ甚ダ危險ノ恐アル法律ヲ制定センヨリハ暫ク其編纂事業ヲ中止スルノ勝レルニ若カザルナリ。現ニ獨逸ニ於テ二年前ヨリ新民法編纂ニ着手セシト雖モ、未ダ竣功ヲ告グルニ至ラズ、何トナレバ獨逸政府ハ現行民法並各聯邦ニ行ハル、慣例ヲ精細ニ研究シテ以テ人民ノ騷亂ヲ招カズシテ專ラ民法上ノ調和統一ヲ得ンコトヲ務ムレバナリ。而シテ他ノ諸國ニ於テ例ヘバ佛國ノ如キニ於テモ亦一法律ヲ制定セントスルニ當テハ先ヅ數個ノ草案ヲ調整スルヲ常例トス。

日本民事上ノ法律幷慣習ニ關スル疑問

一、人事

法律上丁年者ト幼年者ノ區別アリヤ。

幼年者トハ如何ナル人ヲ謂フヤ。

幼年者ノ能力及不能力ハ如何。

幼年ヲ保護スル爲ニ後見人又ハ其他ノ人アリヤ。

之ヲ任ズルハ何人ナルヤ、又幼年者ノ身體並ニ財產ニ關シ其ノ權力ハ如何。

裁判所又ハ親族ハ干涉スルコトアリヤ。

幼年者ノ外法律上不能力者アリヤ（例ヘバ癩疾者、放蕩者、大飲酒者等）

其保護ハ如何。

婚姻ヲ爲シ得ル人ノ資格如何、又之ヲ爲スニハ一定ノ方式又ハ公行ヲ要スルヤ。

婚姻ヲ解クノ方法如何。

夫婦双方ノ義務如何。

婚姻ノ契約アリヤ、又其ノ契約ノ目的ハ如何。

夫婦間財産ノ關係如何。

妻又ハ子女ハ別ニ財産ヲ所有スルコトヲ得ルヤ。

斯ノ如キ財産ノ處置如何。

父母ノ其子女ニ對スル權利如何、又純種ノ子女ト雜種ノ子女ノ間ニ何等ノ差別アリヤ。

父母ノ權ノ消滅ハ法式ニ依ルヤ、又ハ單ニ事實ニ依ルヤ（例ヘバ子女ノ丁年ニ達シ若クハ結婚ヲ爲ス等）

子女ハ其ノ幼者タルト否トヲ問ハス、其ノ父又ハ母ノ許諾ナクシテ結婚シ若クハ他人ニ雇使セラルヽコトヲ得ルヤ。

養子ヲ爲ス者幷ニ養子ト爲ル者ノ資格如何、又養子ノ權利如何。

二、財産

公共財産ト私有財産ノ區別アリヤ。

國家若クハ地方團體ハ其ノ物件ニ關シ公共ノ所有權ヲ有スルヤ。

共同所有ニ屬スル財産（牧場山林漁場土地等）アリヤ。

所有主ナキ物件アリヤ。

動産不動産ノ區別アリヤ、又何ノ點ニ於テ此ノ區別アリヤ。

不動産ノ樣式如何、單純所有ナルヤ、又ハ他ノ樣式（終身財産有期財産等）アリヤ。

讓渡質入地役等ノ場合ニ於テ所有主ノ權利如何。

其ノ財産ニ限リ其ノ處置ニ制限ヲ設クルコトアリヤ。

財産附屬物（合同物）アリヤ。

夫婦ノ間ニ共通私有財産アリヤ、又其ノ他契約ニ依ル所ノ共通私有財産アリヤ。

植付ハ何人ノ所有ニ屬スルヤ。

土地竝ニ其地上ニアル家屋植付等互ニ其ノ所有主ヲ異ニスルヲ得ルヤ。

財産所有ノ權ヲ得ル方法如何。

年月ノ經過ニ依テ財産所有權ヲ得ルコトアリヤ。

動産ハ不動産ト均シク之ヲ取戻スコトヲ得ルヤ。

單ニ物件ヲ所有スルノ事實ハ法律上效力ヲ有スルヤ。

所有者ノ權利ハ如何。

動産ノ所有ハ不動産ノ所有ト同一ノ成規ニ依ルヤ。

借地人ハ其土地ノ所有者ト視做スヲ得ルヤ。

土地又ハ其他ノ財産ニ對スル地役ハ通常如何。

地役ヲ定ムル方法如何。

地役ハ獨リ土地又ハ家屋ニノミ屬スヘキモノナルヤ或ハ人ニ屬スルヲ得ルヤ。

三、相續

相續ハ一般何ノ成規ニ依ルヤ、遺囑ニ依ルヤ又ハ法律ニ依ルヤ。

遺囑ヲ爲スハ各自由ニ任ズルヤ、又ハ一定ノ方式アリヤ。

遺囑ヲ爲スニ當リ特ニ其妻子又ハ他ノ人ノ爲メニ制限アリヤ。

廢嫡ヲ爲シ得ルヤ。

遺囑ヲ以テ贈與ヲ爲スヲ得ルヤ。

相續ニ關シ（殊ニ結婚ノ時）契約ヲ爲スヲ得ルヤ。

遺囑ナキ時ハ相續ノ順序ハ何ニ依ルヤ。

男性並ニ年長ニ特典ヲ與フルヤ。

女子相續ノ權利如何。

孫子女相續ノ權利如何。

尊屬又ハ傍系ノ親相續ノ權利如何。

死者ニ對スル親族ノ級ハ一般ニ斷定シタルモノナルヤ、而シテ斯ノ如キ級ヲ定ムルノ方法如何。

相續人ノ姉妹又ハ弟ハ扶持料女裳料又ハ分産若クハ婚姻ノ爲ニ受ク可キ分派又ハ全般ノ抵塡ニ關シ何等ノ權利ヲ有スルヤ。

相續スベキ財産ハ何ナルヤ、死者ノ財産ノ全部ヲ謂フヤ、又ハ動産、不動産、父ノ財産、母ノ財産、家族財産、得收財産、其他女裳家具等ノ如キ財産ノ間ニ區別ヲ爲スヤ。

遺産ヲ相續スルノ方式如何。

又ハ何等ノ法式ヲ用フルコトナク單ニ死者ト死去事實ニ依リ相續ヲ爲スヤ。

相續人ハ死者ノ負債ニ對シ義務アリヤ、而シテ其義務ノ程度ハ如何。

四、貸借及契約

法律ニ協ヒタル負債ノ原因如何。

不正ノ行爲ニ對スル責任ヲ定ムルノ方法如何、又懈怠ニ輕重ノ差アリヤ。

有效ナル契約ヲ結バントスルハ何ヲ以テ必要ト爲スヤ。

契約ヲシテ有效タラシメン爲メ又ハ契約ノ證據トシテ一定ノ法式ヲ要スルヤ。

負債ハ貸主又ハ借主ニ於テ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ルヤ。

契約ハ總テ義務ヲ生ズルヤ、又ハ其種類ノ契約ニ限リ義務ヲ生ズルヤ。

契約ハ單ニ承諾ニ依リ義務ヲ生ズルヤ、又ハ或ル場合ニ於テハ物件ノ引渡ヲ必要トスルヤ（例ヘハ眞ノ相互契約ノ如キ是ナリ）

貸主竝ニ借主ノ間ニ存スル契約ヲ以テ第三者ニ責ヲ負ハシムルコトヲ得ルヤ。

一ノ負債ニ對シ貸主又ハ借主トシテ數名關係人アル時ノ成規如何。

借主ハ何等ノ程限マテニ其負債ヲ辨償スルノ義務アリヤ、其財產全部ニ限ルヤ又ハ其身體ニモ及ブヤ。

ルードルフ氏答議

第一

一、孛國ニ於テ政令ノ數省ニ關係スル者ハ其關係ノ大臣皆之ニ連署スルヲ例トスルヤ。

第二

一、孛國ニ於テ太政官（スターツミニステリスム）ヨリ直チニ地方廳ヘ命令又ハ訓條ヲ下スコトアリヤ。若コレアラバ太政官ニ參議スル各省卿ノ連名ヲ以テスルヤ。又ハ首相一人ノ名（シグナチユル）ヲ以テスルヤ。

第三

一、孛國ニテ首相ヨリ他ノ各省卿ヘ命令通知ノ文書ヲ廻スコトアリヤ。若コレアラバ何等ノ體裁ヲ用ユルヤ。

訓條（インストリユクシヨン）カ又ハ廻章カ。

第一答議

普國憲法第四十四條ニ據レバ、凡ソ國王ヨリ出ル所ノ政令ハ其效力ヲ保タシムル爲メ責任大臣

ノ副署ヲ要ス。故ニ憲法第六十三條ノ如キ各大臣ノ連署ヲ要スル場合ヲ除クノ外、總テ法律、詔令、內閣布達及其他國王ヨリ出ル所ノ政令ニハ一大臣ノ副署アルヲ以テ足レリトス。然レドモ法律及ビ其他緊要ノ政令ニシテ一般ノ利害ニ關スルモノニハ伯林ニ現在スル各大臣ノ連署ヲナスヲ例トス。之ニ反シ國王ノ政令ニシテ僅ニ一省ノ事項ニ關スルモノニハ、該省大臣ノミ副署シ、其數省ニ跨ルモノニハ、數省大臣之ニ副署スルヲ例トス。普國法律類集ヲ觀レバ一目以テ其事實ノ信ナルヲ證スルニ足ル。是レ獨リ普國ニ於テノミ然ルニアラズ。又其他ノ獨逸諸邦ニ於テモ然リ例ヘバ巴威ノ如キ是ナリ。又詔令及其他國王ヨリ出ス所ノ政令ハ一千八百十年十月二十七日ノ政令ニ據レバ總テ國王ノ御前ニ於テ事實ヲ奏上シタル所ノ大官卽主務大臣之ヲ起草ス。何ントナレバ主務大臣其主管事項ニ付國王ニ奏上スルノ責任アレバナリ。而シテ其政令ハ國王ニ提出シ、國王ノ制可及ビ署名ヲ受クルヲ例トス。若シ國王之ニ署名シタルトキハ樞密官之ヲ發送ス。國王之ニ付キ異議ヲ立テ又ハ他ノ命令ヲ發セラルヽトキハ、其書類ヲ彼ノ政令ト共ニ主務大臣ニ還附ス。樞密院ニ於テハ文書ノ出入ニ付キ日記簿及其他ノ帳簿ヲ調製ス。樞密院（ゲハイメカヒネト）ハ一千八百四十八年ノ憲法制定以來專ラ形貌上ノ事務ヲ執ルノミ。其以前ニアリテハ政事上ノ地位ヲ有セリ。卽チ一千八百十年ノ政令ニ據レバ左ノ諸官ハ樞密院ニ於テ演述ヲナスベキモノトセリ。

一、國務首相（スターツスカンツレル）

二、樞密官（ゲハイメ、カビネツスラート）

三、軍事ニ關シテハ國王ノ特定スベキ武官

然ルニ國務首相ノ官ハ一千八百二十二年ニ於テ「ハルテンベルグ」ノ薨去ト共ニ廢滅ニ歸セリ。此時ヨリシテ一千八百四十八年ノ憲法制定ニ至ルマデ、一名若クハ數名ノ樞密大臣（カビネトミニステル）ヲ任ジ、國王ノ御前ニ於テ一般ノ政務ヲ奏上セシメタリ。當時ノ事務順序ヲ觀ルニ主務大臣ハ其主管事項ニ付キ書面ヲ以テ國王ニ呈出シ、而テ樞密大臣ハ之ニ基キ其事柄ヲ國王ニ奏上シ、以テ國王ノ親裁ヲ仰ギタリ。但外務大臣及ビ軍務大臣ハ直ニ國王ノ御前ニ出テ事實ヲ奏上セリ。又其他ノ大臣ト雖モ國王ノ之ヲ許ス場合ニ於テハ直ニ之ヲ奏上セリ。然ルニ憲法制定以來樞密大臣ノ職ヲ廢シ、主務大臣ヲシテ其主管事項ニ關スル國王ノ顧問官トナセリ。是ニ於テカ國王ト各省大臣トノ間ニ國王ノ顧問トナルベク、若クハ其命令ヲ傳達スベキ所ノ機關廢止ニ屬シ、各省大臣ハ直接ニ國王ニ隷屬スルコトヽナレリ。故ニ現時ハ獨リ國王ノミ各省大臣ニ命令ヲ與フルヲ得ルナリ。但各省大臣ニシテ國王ヨリ命令ヲ受ルトキハ此命令ヲ遵奉シ以テ議院及ビ國家ニ對スル責任ヲ負フコトヲ得ベキヤ否ヲ熟考シ、以テ之ニ應ゼザルベカラズ。何ントナレバ國王ハ之ニ對シ責任ヲ有セズ。唯國王ノ政令ニ副署シタル大臣ノミ之ニ對シ責任ヲ有スレバナリ。而テ此責任ハ其政令ニ關スル事項ヲ管理スル所ノ各省大臣ニアルハ固ヨリ當然ノ理ナリ。

第二答議

普國內國ハ地方廳ニ對シ直ニ命令ヲ發シ訓令ヲ與フルコトヲ得。卽各種ノ內閣議決ノ法律類集及內務法規ニ編纂セラルヽヲ以テ此事確實ナリ。此ノ如キ內閣決議及ビ內閣訓令ニハ各大臣ノ署名アリ、然レドモ種類ハ甚ダ多シトセズ。其重要ナルモノヲ擧グレバ官吏ニ關スル一般ノ規定、官吏任用規則、官吏懲戒規則等トス。但各省大臣ニ委任セラレタル事項ニ付テハ內閣ヨリ地方廳ニ宛テ命令訓令等ヲ發スルコトナシ。之ヲ爲スハ其關係各省大臣ノ任ナリ。之ニ反シ內閣會議ニ於テハ各省ニ關スル重要ノ事項ヲ議定ス。是レ固ヨリ一般ノ政務ヲ統一スルノ點ヨリ生ズル結果ナリ。然レドモ若シ此會議ニ於テ氷炭相容レザル異說起ルトキハ、國王ハ其情ヲ酌量シ大臣ヲ更迭スベシ。抑モ普國ニ於テ二十年來大臣ノ內閣ヲ辭スルコトアルハ主モニ此原因ニ基ス。是ニ由テ之ヲ觀レバ普國ノ內閣ハ唯其主管事項ニ付地方廳ニ命令及ビ訓令ヲ發スルノミ。決シテ各省ノ所管事項ニ干涉セズ。而テ各省大臣ハ其所管事項ニ付キ其自由ノ意見ヲ以テ必要ノ規則及ビ訓令ヲ發スルヲ例トス。

第三答議

普國內閣總理大臣ハ他ノ大臣ニ對シ命令ヲ與フルヲ得ズ。何ントナレバ總理大臣ハ各省大臣ノ長官ニアラザレバナリ。實ニ各省大臣ハ既ニ上ニ論ズル如ク國王ニ直隷スルモノナリ。內閣會議ニ於テ總理大臣ハ其他大臣ト同ク少數ヲ得ルコトアルベシ。是レ總理大臣「ビスマルク」侯ノ議院ニ於テ屢々其職權ノ少キヲ歎ゼシ所ナリ。然レドモ總理大臣ノ內閣ニ於テ自ラ勢力ヲ有スルハ自然ノ理ナリ。實ニ內閣總理大臣ハ內閣ノ精神ヲ表彰スルモノナリ。內閣ハ專ラ總理大臣ノ奏議ニ依リ組織セラル。故ニ總理大臣ハ各省大臣タルベキ人ヲ推擧スルニ當リ、己レト意向ヲ一ニスル者ヲ撰擇スベシ。抑モ國王ヨリ總理大臣ノ任ヲ受ケタル者ハ國王ノ特別ノ信用ヲ受ケ、又國王ニ對シ特別ノ勢力ヲ有スルハ自然ノ理ナリ。故ニ總理大臣ハ他ノ大臣ニ命令ヲ與フルノ權ヲ有セザルモ之ニ對シ特別威力ヲ有セリ。又其職務トスル所ハ專ラ各省大臣ヲ統一シ其軋轢ヲ防グニアリ。

普國現時ノ內閣及ビ各省組織ハ既ニ一千八百八年ニ於テ基ヲ開キタリ。一千八百十年ヨリ一千八百二十二年ニ於テハ國務首相アリテ一定ノ事項ニ付キ各省大臣ヲ統御セリ。卽チ一千八百十年十月二十七日ノ政令ニ據レバ、國務首相ハ各省政務ヲ監督スルヲ得、又（第一）各事件ニ付キ大臣ノ說明ヲ要求シ又各大臣ヨリ發シタル法規ヲ中止シ、而テ之ニ付キ國王ニ奏上シ、又ハ議政院（スターツスラール）ノ決ヲ採ルベキトキハ之ニ中止ヲ勸ムルヲ得（第二）非常ノ場合若クハ至急ノ場合ニ於テ、又ハ

國王ノ特命ニ依リ大臣ニ命令ヲ與フルヲ得。故ニ各省大臣及ビ其他ノ官廳ハ國務首相ノ命令ヲ遵奉セザルベカラズ。而テ首相ハ唯國王ニ對シ責任ヲ有スルノミ、其他各大臣モ亦主管事務ヲ獨斷シ、直ニ國王ニ對シ責任ヲ有シ、又直ニ之ヲ國王ニ奏上シ其命令ヲ受ケタリ。首相ニ對シテハ其請求ニ應ジ各事項ヲ辯明シ、又其ノ命令ニ從ヒ、國王ノ命令若クハ議政院ノ議決アル迄、大臣ヨリ出シタル達ヲ中止シ、又首相ノ命令ヲ遵奉セザルベカラズ。然レドモ此首相ノ職ハ既ニ上ニ論ゼル如ク「ハルデンブルグ」ノ薨去ト共ニ廢止セラレ、隨テ各省大臣ヲ監督シ又時トシテハ之ニ命令ヲ與ヘ且其布達ヲ中止スルコトハ自ラ消滅セリ。

獨逸國ハエルサスロートリングンノ外ニ二十五邦卽チ四王國（普漏士、巴威、瓦敦堡、索遜）六大公國、五公國、七侯國及ビ三箇ノ自由都府ヨリ成ル。一千八百六十七年ニ於テハ二十二邦ヲ以テ北獨逸聯邦ヲ創立セシガ一千八百七十一年ニ至リ更ニ他ノ三邦之ニ加リ、以テ現今ノ獨逸帝國ヲ成セリ。故ニ此諸邦ハ皆其行政權司法權及ビ立法權ノ一部ヲ獨逸帝國ニ讓レリキ。

獨逸帝國ニ於テハ萬機ヲ統理スル所ノ宰相アリ、自ラ行政ノ諸部ヲ管理ス。

中央行政部ノ諸官職ハ左ノ如シ。

一、外務部、本部ハ他ノ國ニ於テ外務卿ノ主タルベキ總テノ事務又ビ殖民ニ關スル事務ヲ司ル、卽チ獨逸國ノ外務及ビ殖民省是レナリ。本部ニハ宰相ノ代理官タル外務大輔（スタートセクテール）一名ヲ置ク。大輔ハ外交事務ニ付責任ヲ有スル所ノ宰相ニ屬シ、唯其命令ヲ遵奉スベキモノトス。但該宰相ヨリ委任ヲ受ケタル部分ニ限リ、自己ノ責任ヲ以テ獨斷スルコトヲ得、而テ宰相ハ何時タリトモ其委任ヲ解キ自ラ之ヲ負擔スルコトヲ得ルモノトス。

二、海軍部、本部ハ他ノ國ニ於テ海軍省ノ宰ドルベキ總テノ事務ヲ統理ス。本部ニハ宰相ノ代理官タル海軍大輔（ヒツ、イアトミラアール）一名ヲ置ク。大輔ハ宰相ニ屬シ、其命令ニ從ヒ海軍事務ヲ處理ス。但該事務中宰相ヨリ特ニ委任セラレタル部分ニ付テハ自己ノ責任ヲ以テ獨斷スルコトヲ得、然レドモ宰相ハ何時タリトモ自ラ該事務ヲ擔任スル權ヲ有ス。

三、驛遞部、本部ハ他國ニ於テ遞信大臣ノ擔當スベキ一切ノ事務ヲ總理ス。本部ニハ宰相ノ代理官トシテ大輔一名ヲ置ク。大輔ハ宰相ニ屬シ、其命令ヲ遵奉シ以テ驛遞事務ヲ取扱フモノトス。但該事務ニ關シ宰相ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル部分ニ限リ自己ノ獨裁ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得。然レドモ宰相ハ何時タリトモ其委任ヲ解キ自ラ之ヲ處理スルコトヲ得。

四、內務部、本部ハ他國ニ於テ內務大臣ノ管理スベキ事務ノ一部ヲ治ム。本部ノ長官ニハ宰相ノ代理官タル大輔ヲ以テ之ニ充ツ。大輔ハ宰相ノ下ニ立チ其命令ニ從ヒ、特ニ宰相ヨリ委任ヲ受ケタル部分ニ限リ自己ノ責任ヲ以テ獨斷ス。然レドモ宰相ハ何時タリトモ其委任ヲ解キ自ラ之

ヲ受理スルコトヲ得。

五、大藏部、本部ハ他ノ國ニ於テ大藏省ニ屬スベキ事務ヲ司ル。其長官ニハ大輔ヲ任ジ以テ宰相ノ代理官タラシム。其責任及ビ職權ハ前一、二、三及四ニ異ナルコトナシ。

六、鐵道部、本部ハ他ノ國ニテ工部省ニ屬スベキ事務ノ一部ナリ。而テ此長官ハ普國工部卿ヲ以テ之ニ任ジ、宰相ノ代理官タラシム。其權限及ビ責任ハ前記大輔ニ異ナルナシ。

七、司法部、本部ハ他國ニ於テ司法省ニ屬スベキ事務ノ一部ヲ司ル。其長官ハ大輔ヲ以テ之ニ任ジ宰相ノ代理ヲナサシム。而テ其宰相ニ對スル關係ハ前記載スル所ニ異ナルナシ。

右七部ノ外宰相ノ直轄ニ屬スルモノハ帝國銀行局（シレクトリーム）及ビ帝國鐵道局ナリ。而テ該鐵道局ハ鐵道事務ヲ監督スルノ廳ニシテ第六ニ記載スルモノト自ラ其性質ヲ異ニス。

其他檢査院、帝國銀行事務所、帝國銀行委員、國債局國債取調委員及ビ軍備金庫等ハ同ク宰相ノ管轄ニ屬スレドモ、前記中央行政部ニ比スレバ宰相ニ對シ特ニ獨立ノ資ヲ有セリ。但宰相ハ帝國裁判所及ビ帝國領事裁判所、懲戒裁判所、行政裁判所等ノ判決ニ對シテハ毫モ勢力ヲ有スルコトナシ。獨逸國ノ裁判官ハ其判決及ビ其他ノ行爲ニ付不羈獨立ノ權ヲ有シ、唯法律ニノミ從フベキモノトス。

ビスマルク侯ハ一千八百七十一年即チ獨逸建國以來宰相ノ官職ヲ帶ブルモノニシテ（千八百六十七年ヨリ千八百七十一年ニ至ルマデハ北獨逸聯邦ノ宰相タリキ）同時ニ獨逸帝國七部ノ長官ナリ。抑モ此組織ハ固ヨリ一朝一夕ニシテ成リタルニアラズ。當初ハ宰相一人ニテ政務ヲ統理セシガ、漸次事務ノ增加スルニ從ヒ部ヲ分ケ其代理官タル大輔ヲ置クニ至レリ。而テビスマルクハ普ニ帝國ノ宰相七部ノ長官タルノミナラズ、又孛國ノ總理大臣（千八百六十一年來）商務大臣外務大臣ノ職ヲ兼ネ、且聯邦會議ノ議長トナリ、又其事務ヲ管理セリ。加之孛國々會及ビ獨逸國會ニ於テ施ス所鮮ナシトセズ。一千八百七十一年四月十六日制可ノ獨逸憲法第十七條ニ據レバ、獨リ宰相ニ限リ獨逸帝ノ勅令ニ副署シ、且ツ之ニ對シ責任ヲ責ハザルベカラズトス。然ルニ一千八百七十八年三月十七日制可ノ宰相代理ニ關スル法律ヲ以テ、勅令ニハ宰相ノ代理者タル大輔ノ副署スルヲ得ルコトヲ定メタリ。即チ之ヲ左ニ揭グ。

第一條　勅令ノ效力ニ付必要ナル宰相ノ副署竝ニ憲法及ビ法律ニ基キ、宰相ノ擔任スベキ其他ノ義務ハ宰相事故アル場合ニ於テ其奏上ニ依リ皇帝ヨリ任ズベキ代理官以下諸條ノ制定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ得。

第二條　代理官ニハ宰相ノ權內ニ屬スル總テノ事務及ビ義務ヲ委任スルヲ得、又帝國ノ直轄ニ屬スル各個ノ事務ニ關シテハ宰相ノ直轄ニ屬スル各部ノ長官ニ右事務ノ全體或ハ其一部ヲ委任スルヲ得。

第三條　宰相ハ委任ノ時限中ニ在テモ亦自ラ其委任事務ヲ執ルコトヲ得。

第四條　帝國憲法第十五條ハ本律ノ爲メ其效力ヲ失ハザルモノトス。

右宰相ノ代理ニ關スル法則ニ依レバ帝國ニ於テ總務代理官（副宰相）ヲ置キ宰相ノ總務ヲ代理セシメ又各個ノ事務ニ付テハ各部ノ代理官ヲ置クコトヲ得ルモノトス。現ニ宰相總務代理官ハ普國副總理大臣兼內務大臣「プツトカンナル」氏ナリ。又其各部代理官ハ普國ノ大官之ヲ兼ヌ。卽チ鐵道部ノ輔官ハ工部大臣マイバツハ、內務部ノ輔官ハ孛國大臣フオンボイツチヘル、外務部ノ輔官ハ孛國大臣フオン、ハトルフイルドナリ。而テ此等ノ大臣ハ獨逸帝國輔官トナリテハビスマルク侯ニ從屬シ、其監督及命令ヲ受ケ、孛國ノ大臣トナリテハ侯ト對峙シテ同等ノ權利ヲ有シ、侯ノ命令ヲ受クルコトナシ。故ニ獨逸ト普國官省トノ組織ハ其國民ノ同一ナルニモ係ラズ、全ク相異ナルノ性質ヲ有ス。同一ノ人ニシテ獨逸ノ輔官トナリテハビスマルク侯ノ命令ニ順ヒ、或ハ普國ノ大臣トナリテハ此ト相對峙スルモノトス。今孛國官省組織ト獨逸官省組織トヲ比較センガ爲メシユルツヱ普國々法ヨリ左ノ要點ヲ抄記セントス。

シユルツヱハ其著書ニ於テ先ヅ孛國ノ官省卽チ（イ）外務省（ロ）內務省（ハ）文部教部及衞生省（ニ）商工務省（ホ）工部省（ヘ）農務省（ト）司法省（チ）大藏省（リ）陸軍省ヲ要論シタル後左ノ論旨ヲ揭ゲタリ。

孛國ノ國務省ハ諸省ヲ總ブル所ナリ。一千八百十四年十一月三日ノ內閣達ハ官省ノ組織ヲ詳定セリ。此達ニ據レバ各省大臣ハ每週一回國務省ニ會スベシ。又必要ノ時ハ數度會議ヲ開キ、一般ニ關スル事務數省ニ關スル事務其他各大臣ノ協議ヲ要スベキ事務ヲ議スベシトアリ。又其事務章程ハ一千八百十七年十一月三日ノ內閣達ヲ以テ左ノ如ク定メタリ。曰ク各大臣ハ常ニ行政ノ全部ヲ通覽スルタメ其擔任事務ノ要領ヲ內閣ニ提出シ閣議ニ附スベシ。內閣ニ提出スベキ者ハ特ニ左ノ事項トス。第一法律草案及法律改正案ニシテ一般ノ利害ニ關シ或ハ憲法ノ幾分ヲ變更スベキ者。第二州長知事ノ前年度行政上報告、第三其翌年ニ於ケル行政上ノ計畫、第四縣廳ノ月報告、第五出納本局ノ定期一覽表、第六出納局及地方出納局ノ豫算竝ニ行政ニ關スル軍事豫算、第七大臣ノ意見ヲ異ニスル事項、第八國務ニ關スル軍制、第九州知事縣令及上等裁判所長ノ叙任ニ關スル奏薦。

現今ノ內閣ハ各省大臣ヨリ成立シ、其他獨逸帝國宰相ニ付左ノ論說ヲナセリ。該書ハ宰相ノ代理ニ關スル法律ノ發布前ニ編纂セシモノナリ。

獨逸帝國ニハ責任ヲ有スル合議制ノ官省ナク、責任ヲ有スル一官吏卽チ宰相アルノミ。獨逸國會ニ於テ憲法制定ノ會議ヲナスニ當リ、聯邦事務省ヲ置キ之ニ責任ヲ附スルノ議起リシガ、其說遂ニ行ハレザリキ。其前北獨逸聯邦ノ國會ニ於テ此議屢々起リ遂ニ國會ノ贊成ヲ得シガ、聯邦會ニ於テ否決セラレ其後此說再出セザリキ。

帝國憲法第十五條ニ據レバ帝國宰相ハ皇帝ノ勅撰ヲ以テ任官セラルヽモノニシテ、聯邦會ニ於テハ議長トナリ、議事ヲ整理ストアリ。又其第十七條ニ據レバ、皇帝ハ法律ヲ頒布シ、其施行ヲ監督シ、又凡ソ皇帝ノ命令ニハ責任宰相ノ副署ヲ要スト云フ。是ニ由リ之ヲ觀レバ帝國宰相ハ獨逸皇帝ノ最高官吏ニシテ、獨リ其責ニ任ズベキモノタリ。帝國憲法第十七條ノ所謂命令（アンヲルドノング、フヱルフユーグング）ナルモノハ帝國行政ノ全體ニ關係スルモノナリ。故ニ宰相ハ總テ帝國ノ政務ヲ統理スルモノナリ。卽チ首相ハ憲法第十一條ニ於テ皇務部長モ之ニ加入セリ。內閣長ハ必シモ外務大臣ヲ兼勤スルヲ要セズ、又內閣長ハ必シモ同時ニ獨逸帝國首相タルヲ要セズ。然レドモ政事上ニ於テハ此事緊要ナリ。

普國內閣長ハ內閣ニ於テ議長トナリ、唯形貌上ノ事務ヲ總理スルノミ。又各省大臣ノ上席ニアリト雖モ之ヲ指揮スルノ權ナシ其同僚タルノミ。

普國ニ於テハ憲法制定以來憲法及法律ヲ以テ內閣ニ左ノ職權ヲ與ヘタリ。

第一　內閣ハ憲法第五十七條及第五十八條ニ據リ攝相ノ官ヲ置ク爲メ國會議事ヲ招集シ、且攝相ノ定マラザル間ハ假ニ其職ヲ行フベシ。

第二　內閣ハ憲法第六十三條ニ基キ其責任ヲ以テ法律ノ效力ヲ有スル所ノ政令ヲ發スルヲ得。

第三　內閣ハ暴動アル場合ニ於テ戒嚴法ヲ施行シ外國ト交戰ニ及ビ暴動アル場合ニ於テ憲法中一定ノ條款ヲ中止スルコトヲ得。

第四　內閣ハ市會區會及ビ村會ヲ解散スルヲ得。

又一千八百五十二年七月二十一日ノ法律ニ據レバ內閣ハ始審懲戒裁判廳ノ判決ニ對スル文官ノ控訴ヲ受理ス、尙其他各種ノ權利ヲ有セリ。

又內閣ノ直轄ニ屬スル諸官廳ハ左ノ如シ。

第一　中央測量局
第二　權限裁判所
第三　文官懲戒裁判所
第四　寺院裁判所
第五　最高行政裁判所
第六　高等官吏試驗委員局但內務卿及大藏卿ノ主管ニ屬ス。
第七　文書局
第八　獨逸帝國及普國官報局
第九　法律編輯局

其他內閣ノ直轄ニ屬スルモノハ

第一　賞勳局

第二　記錄局

普國大臣ハ其所屬書記官ヲシテ內閣ニ於テ演述セシムルヲ得。

レンネ普國々法ニ據レバ普國大臣ノ地位ニ付左ノ論說アリ。

最高行政部ニハ通常大臣ノ稱號ヲ有スル所ノ長官アリ、本部ヲ統理ス。國王ハ他ノ奏薦ヲ待タズ、其意見ヲ以テ大臣ヲ任官シ又之ヲ免ズ。

大臣ノ職權ハ其主管事務ニ付テハ全國ニ涉ルモノトス。各大臣ハ其主任事務ニ付直チニ國王ニ奏上シ、又直チニ其命令ヲ受ク。一千八百十年二十七日ノ政令ヲ以テ國務首相ヲ置キ各省大臣ヲ其下ニ屬セシメ、之ニ大臣ノ事務ヲ監督シ、其命令ヲ中止スルノ職權ヲ附與セシガ、一千八百二十二年ニ至リハルテンベルク侯ノ薨去ト共ニ其職廢止ニ屬セリ。其後各省大臣ト內閣長トノ位地ニ付テハ別段法律ノ發布アラザリキ。

又レンネハ其著書獨逸帝國々法（一千八百七十六年出版）ニ於テ獨逸帝國首相ハ皇帝ヨリ委任セラレタル外國事務ヲ指揮シ又帝國法律ノ施行ヲ監督ス。凡ソ帝國ノ諸官廳ハ直接或ハ間接ニ宰相ニ屬ス。凡ソ皇帝ハ宰相ノ其責ニ任ジ卽チ副署スルニアラザレバ決シテ署名ヲナサズ。亦法律ノ實行モ其副署ノ有無ニ由リ定マル。故ニ宰相ハ帝國政務ヲ總理スルモノニシテ外交トナク

內務トナク又海軍トナク皆其主管ニ屬セザルナシ。卽宰相ハ立憲政體ノ國ニ在リテ各省大臣ニ分屬スル所ノ諸政務ヲ一身ニ統ブ。宰相ハ國會ニ於テ屢々分權ノ非ナルヲ演述シ、普國ノ如キ內閣ヲ組織スルハ帝國ノ利ニアラズト論ジ、進デ萬機ヲ一身ニ統ベ其政事上ニ責ニ任ズルコトヲ主張セリ。此政事上ノ責任ニ付テハ一千八百七十四年十二月一日ノ國會ニ於テ凡ソ左ノ如ク演述セリ。

予ノ責任トスル所ハ第一帝國行政各部ニ於テ啻ニ其長タルノ才幹ヲ有スルノミナラズ、又現時獨逸國民精神ノ政事上ニ於テ向ハザルベカラザル所ノ方向ニ從ヒ、政務ヲ運轉スル所ノ人ヲ置クニアリ。

第二、帝國行政各部ノ間ニ軋轢ヲ生ゼシメズ、又帝國ノ法律及制度ヲ立ル所ノ權柄ノ間ニ久シク主義上ノ軋轢ヲ生ゼシメザルニアリ。之ヲ要スルニ予ノ責任トスル所ハ此二大事務ヲ完成スルニアリ。其他ノ小事ニ付予ニ責任ヲ附スルハ不當ナリ。若シ予ニ此等ノ責任ヲ求ムルハ予ニ向テ凡ソ人力ノ及バザル所ヲ要ムルト云フベシ。云々

又ラバントハ獨逸帝國々法ニ於テ宰相ノ地位ヲ左ノ如ク論ゼリ。

凡ソ官廳ハ學問上尙之ヲ類別スルヲ得ベシ。然レドモ國法ニ取リ必要ナル點ハ官吏ノ國家ノ諸機關ニ對スル地位卽チ責任ニアリ。夫立君獨裁ノ國ニ於テモ官吏ハ其主管政務ニ付君主ニ對シ

責任ヲ有ス。卽チ國君ノ命令及意向ニ從ヒ且ツ國家ノ利益ニ背カザルノ責ニ任ズ。故ニ此官吏ハ其主管事項ヲ獨斷シ、而テ其所屬官廳ハ之ニ從屬シ、其命令ニ從ハザルヲ得ズ。何トナレバ凡ソ人其主任セル事項ニ付テノミ責任ヲ有シ得ルモノナレバナリ。立憲政體ノ國ニ於テハ獨リ君主ニ對スルノミナラズ、又民會ニ對シ此責任ヲ有セザルベカラズ。人此官吏ヲ稱シテ大官ト云フ。是レ一種ノ官廳ナリ。帝國憲法ニ據レバ此ノ如キ官吏ハ僅ニ一人卽チ帝國宰相アルノミ。憲法第十七條ニ據レバ凡ソ君主ノ命令ハ其效力ヲ保タシムル爲メ宰相ノ副署ヲ要ス。而テ宰相ハ此副署ヲ爲スニ由リ責任ヲ取ルト云フ。是ニ由リ之ヲ觀レバ帝國宰相ハ皇帝ノ大臣ニシテ一人以テ帝國ノ政務ヲ握リ、帝國諸行政部ノ長タリ。一帝國官吏中ニ宰相ノ同僚ノモノナシ。唯其補助官吏若クハ代理官アルノミ。

墺國プラグ府大學博士ウルブリヒハ其著書中墺國大臣（ミニステル）ノ地位ニ付左ノ說明ヲナセリ。

墺國ノ憲法ニ據レバ君主ノ政權ヲ施行スルコトニ付左ノ原則ヲ揭載セリ。

凡ソ君主ハ政權ヲ施行スルニ於テ大臣ノ輔翼ヲ要スルモノナリ。蓋シ大臣ナラズンバ國家ヲ統理スル能ハザルベシ。夫レ大臣ハ他ノ諸官吏ト全ク異ナルノ地位ヲ有シ、君主ノ政令ニ副署シ、法律上及政治上特別ノ責任ヲ有スル最高機關ナリ。政事上ノ責任トハ大臣ノ兩院ニ臨ミ各獨立政務ノ當然ナル所以ヲ辯解シ、又兩院ノ質問ニ答辯スルノ義務アルヲ云フナリ。法律上ノ責任トハ大臣若シ憲法若クハ法律ニ背キ政務ヲ行ヒタル場合ニ於テ、之ヲ法廷ニ呼出シ糺彈シテ之ニ賠償ヲ命ジ、或ハ刑事上ノ處分ヲナスヲ云フナリ。故ニ大臣ナル義解ハ名義ノミニテハ實ヲ盡サザル所アリ。君主ノ政令ニ副署スルノ責アルニ由リ、始テ大臣タルノ實ヲ得ルト云フベシ。是レ一千八百六十七年七月二十五日ノ法律ニ於テ明言スル所ニシテ、大臣ハ參議若クハ卿ノ區別ナク、皆責任ヲ有スル所以ナリ。貴族院ノ報告ニ由レバ大臣ノ責任ハ大臣ノ等位ニ由リ起ルニアラズシテ其職務ニ由リ生ズルモノナリト云フ、明瞭ナリト云フベシ。

故ニ大臣ハ左ノ職務ヲ有ス。

（イ）君主ノ顧問官タルベキ事。

（ロ）君主ノ命令ヲ施行スルコト。

（ハ）各省ノ主長トナリ省務ヲ總理スルコト。

但此職務ハ各大臣必シモ之ヲ有セズ、例ヘバ太政大臣若クハ專任參議ノ如キ是ナリ。

太政官ハ皇帝若クハ太政大臣議長トナリ、各大臣ヨリ成立スル所ナレドモ、多數ニ由リ議決スベキ合議制ノ官廳ト見做スベカラズ。果シテ然ルトキハ各大臣ノ責任主義ニ矛盾スベシ。彼ノ所謂內閣會議ナルモノヽ目的ハ、唯政略ノ精神ヲ一ニスルニアルノミ。一二ノ布告中各大臣ノ

連署ヲ要スルモノアリ。例ヘバ緊急法又ハ國民ノ通權ニ關スル憲法中一二ノ條款ヲ停止スル布告ノ如キ是ナリ。

サイデル著巴威國法論第二卷三百三十頁以下ニ論ズル所ニ據レバ左ノ如シ。

太政官ハ各大臣ノ集合スル所ニシテ所謂內閣會議場是ナリ。君主ハ內閣會議ニ臨ミ自ラ會議ヲ整理シ、或ハ議長ヲ各大臣ノ一ニ任ズ。巴國ニハ太政大臣ノ職ナキヲ以テ議長一定セズ。議長ハ唯會議ヲ整理スルノミ。

內閣會議ハ國王ノ特命ニ依リ開ク、但開會ニ付一般ノ規定アルトキハ之ニ從フ。

內閣會議ノ目的ハ政府ニ於テ執ル所ノ主義ヲ統一維持スルニアリ。但太政官ヲ以テ民法上ノ連帶義務者ト見做スベカラズ。

太政官ハ其要務ニ就キ之ヲ觀ルニ合議制ノ事務廳ニアラズ。若シ然ルトキハ大臣責任ノ主義ニ照應セザルベシ。然リ而ヲ一二ノ法律ニ據レバ太政官ニ一定ノ事務ヲ委任セリ云々。

又該書第二卷三百頁以下ニ據レバ大臣ノ地位ニ付左ノ議說アリ。

各大臣ハ政府ヨリ發スル所ノ政令ニ付責任ヲ有スルモノナリ。凡ソ政府百般ノ事務ハ各大臣ニ分任ス、巴國ニハ專任參議ノ職ナシ。

凡ソ政令ハ國王及主務大臣若クハ其代理ノ意思相合シ始テ成ルモノナリ。但國王及主務大臣ハ

ノ意見ヲ有スルヲ得、必シモ一ニ從フヲ要セズ。卽國王ハ大臣ト意見ヲ異ニスル時ハ之ヲ退職スルコトヲ得ベク、又大臣ハ其政令ノ法律ニ背キ或ハ國安ヲ害スベキト思惟スル時ハ之ヲ駁擊シ、或ハ書面ヲ以テ副署ヲ拒ミ、又ハ之ヲ內閣會議ニ提出シ會議ノ筆記ヲ國王ノ閱覽ニ供スルヲ得。

各大臣若クハ其代理ハ國王ヲ要シテ其意ニ合ザル所ノ政令ヲ發布セシムルヲ得ズト雖モ、自ラ法律ニ準ジ且ツ國安ニ必要ナルト思惟スル所ノ政令ヲ提出シ、其採用アルニアラザレバ退職スル旨ヲ奏上スルコトヲ得。國王及大臣ノ意見ヲ異ニスル場合ニ付左ノ法律アリ「各大臣ハ何時タリトモ退職ヲ請願スルコトヲ得、退職ノ請願ハ第九號憲法附錄第二十四條ノ明文ニ係ラズ拒ムコトヲ得ズ」云々、

又ポツル著巴威國法論ニハ左ノ說アリ。

太政官ハ眞誠ノ議會（マルレギウム）ニアラズ。唯行政上重要ナル事件ノ數省又ハ諸省ニ跨ル時ニ限リ國王ノ准許ヲ受ケ各大臣ノ會議ヲ開キ、又ハ國王之ヲ必要ト認ル場合ニ於テ各大臣ヲ集合セシムル所ナリ。而シテ其目的ハ事件ヲ商議スルニアレバ、其結果ハ唯一ノ意見（ダートアツテン）ニ過ギズ。其議長ハ現今宮內兼外務卿ニ委任セラレタリ。

各大臣法律上ノ地位ニ付テハポツル氏左ノ解ヲ爲セリ。

一、各大臣ハ其主務事項ニ付獨立ノ主任官ナリ、國王ト各大臣トノ間ニ中間ノ機關ナシ、各大臣ハ直ニ其主管事項ニ關スル法律規則案ヲ提出シ且其所屬官吏ノ任官ヲ奏上ス。

二、各大臣ハ國王ノ命令ヲ施行スルニ缺クベカラザル所ノ機關ナリ、總テ政令ヲ施行スルニハ必ラズ大臣ノ副署ヲ要ス。

三、各大臣ハ法律規則及國王特命ノ執行ヲ指揮シ且其責任ヲ以テ執行ニ必要若クハ便宜ナル達ヲ發ス云々。

ガンプ氏瓦敦堡國法論ニ據ルニ

太政官ハ國王ニ直隷スル所ノ最高官廳ニシテ各大臣ヨリ成立スルモノナリ。各大臣ハ其主管事項ニ屬スル場合ヲ除クノ外、必ズ內閣會議ニ列席スベキモノトス。又專任議官ヲ置キ事務ヲ整理シ會議ニ列席セシム。但此議官ノ意見ハ決議ノ數ニ加ヘズ、此議官ハ國王之ヲ參事院議官中ヨリ撰任ス。其他一定ノ事項ニ付テハ他ノ官吏若クハ技術家ヲシテ會議ニ陪席セシムルコトアリ。

議長ハ國王自ラ臨席セザルトキハ大臣中太政大臣ノ職ヲ帶ブル者之ヲ代理ス。太政大臣ハ其他太政官ノ事務ヲ指揮シ所屬官吏ヲ監督ス。

各省大臣ハ太政官ノ所管事項ニ付テハ前以テ之ヲ內閣ノ會議ニ提出シ其決ヲ仰グベシ。若シ一事項ニシテ國王ノ勅裁ヲ仰グヲ要セザルモノハ內閣ノ決議ヲ仰ギ、若クハ其意見ニ依リ決スベシ。然レドモ大臣形式上ノ責任ハ其主管事項ニ付內閣ノ決議ヲ實行シ若クハ之ニ關スル國王ノ政令ニ副署スル時ヲ以テ始ルモノトス。何ントナレバ該國憲法ニハ內閣ノ會議及議決ニ責任アルコトヲ記載セズ。而テ又各省大臣ノ發スベキ達ヲ內閣會議ノ議決ニ付シ、若クハ之ニ付意見ヲ表出セシムルハ素ト政事上統一ノ目的ニ出デ、法律上ノ命令ニ出ルニアラザレバナリ。但一千八百七十六年七月一日ノ法律發布以來法律規則ニハ內閣全體ノ連署ヲ爲サヾルモ、內閣會議ニ列席シタル大臣ノ連署スルコト、ナレリ。

以上ハ內部ノ規則ナリ、外部ニ對シテハ太政官、唯左ノ場合ニ限リ獨立ノ體裁ヲナスモノナリ。

(イ) 法律ノ制可及頒布ノ際內閣會議ノ意見ヲ聽タルコトヲ記載スルコト。

(ロ) 國王ト國會トノ間ニ立ツコト、但國王ト國會トノ間ニ文書ヲ往復スルトキハ太政大臣國王ニ代リ署名ス。

各省大臣ハ內閣及參事院ト共ニ國王ノ顧問官トナリ、又本省ノ政務ヲ統理シ其發布シタル布達及其副署シタル君主ノ政令ニ對シ責任ヲ有ス。副署ハ政令ニ關係ヲ有スル所ノ大臣ノ悉ク連署スルヲ要ス。但主務大臣ノ副署アルトキハ其政令ハ法律上ノ效力アリ、必ズシモ各大臣ノ連署

ヲ要セズ、又一千八百七十六年七月一日ノ憲法ニ基キ內閣會議ノ議決ヲ要スルモノナルトキト雖モ、主務大臣ノ副署アルトキハ法律上效力アルモノトス。各大臣ハ法律上自ラ內閣及參事院議官タルベク、又國會ニ對シ其主管事務ヲ代表スベキモノトス。之ガ爲メ別段國王ノ委任ヲ要セズ。

王國索遜大臣ノ地位ニ付ロイトホルド索遜國法中ヨリ左ノ事項ヲ抄記ス。

各省大臣ハ國會ニ對シ責任ヲ有ス。國會ハ大臣ノ憲法ヲ毀損スルコトアル時ハ啻ニ之ヲ國王ニ直訴スルヲ得ルノミナラズ、又之ヲ國事裁判所(スタートゲリヒツホーフ)ニ告訴スルコトヲ得。

凡ソ政令ニシテ國王ノ署名アルモノニハ其適切ナルコト竝ニ憲法及法律ニ照應スルコトヲ保任セシムル爲メ、決議ノ際在席セル各省大臣ノ副署ヲ要ス。政令ニシテ此署名ナキ時ハ無效ナリ。

國王ハ其意見ヲ以テ自由ニ各省大臣ヲ進退ス。國王ノ之ヲ免職シ或ハ大臣自ラ辭職スルコトアル場合ニ於テ之ニ他ノ官職ヲ附與シ、其俸給前俸給五分ノ三以上ニ當ルトキハ大臣之ヲ辭スルヲ得ズ。云々

太政官ハ各省大臣ヨリ成立ス。國王自ラ臨席セザルトキハ各省大臣ノ一名其議長トナル。太政官ハ各省政務ノ調和ヲ保持シ、又國會ト直接ニ文書ヲ往復シ、之ニ豫算法案ヲ提出ス。參事院ニ於テ憲法案ヲ定ムルノ際專任太政大臣ヲ各省大臣ノ上ニ置キ之ヲ統括セシムルノ議ヲ提出セシコトアレドモ、其議採用スル所トナラザリキ。故ニ議長ハ唯議事ヲ整理シ太政官ニ屬スル所ノ文書局記錄局及檢查ヲ監督スルニ過ギズ。

大公國索遜ワイマルニ付テゲマイエル著該國々法論ヨリ左ノ事項ヲ抄記ス。

太政官ハ諸行政廳ノ上ニ位シ、三部ヨリ成立スル所ナリ。各部ニ部長ヲ置キ之ニ須要ノ書記官ヲ屬セシム。太政大臣ハ太政官ノ長官ニシテ、又部長ヲ兼務ス。重要ノ事項ニ付テハ部長會議ヲ開キ太政大臣其議長トナル。此事項ハ專ラ太公ノ親裁ヲ抑クベキモノナルヲ以テ大公其會議ニ臨席スルヲ例トス。

部長ハ部長及太政官ノ議官トシテ國會ニ對シ責任ヲ有ス。此責任ニ政事及法律上ノ二種アリ。

國會ハ部長ノ職務上ニ付キ愬訴若クハ告訴ヲ爲スヲ得、部長若シ法律ヲ毀損スルコトアルトキハ國會ノ意見ヲ以テ告訴或ハ愬訴ヲ爲スコトヲ得。若シ又其行爲相當ナラザルトキハ唯愬訴ヲ爲スコトヲ得、愬訴ハ國王ノ裁決ヲ仰グモノナリ。告訴ハ國事裁判所ノ裁決ヲ要スルモノナリ。

國王ハ其意見ヲ以テ愬訴ヲ國事裁判所ノ裁決ニ任ズルヲ得。云々

エツクス法學校教頭兼行政法教師カバンツー氏ナンシー法校行政法教師リエジョワー氏合著ノ行政法論中左ノ記載アリ。此記載ニ徵スレバ小官ノ下問ヲ受ケタル佛國宰相ノ國法上ニ於ケル現

今ノ位置ヲ知ルベキナリ。

（六六節）宰相ヲ任免スルハ共和大統領トス。共和大統領ハ叛逆罪ノ外、責ニ任ズルニ及バズ。其責ニ任ズル時モ代議院ノ外訴ヲ起スヲ得ズ、又元老院ニ非ザレバ之ヲ裁判スルヲ得ズトス。

宰相ハ一般ノ政治ニ付テハ代議院ニ對シ連帶シテ其責ニ任ジ、各自ノ所爲ニ付テハ同院ニ對シ各其責ニ任ズルヲ要ス。

又宰相ハ共和大統領ノ發スル諸般ノ公文ニ副署セザルベカラズ。憲法ニ據レバ共和大統領ハ叛逆罪ノ外政府ノ所爲ニ付テ責ニ任ズルニ及バザルコト右ニ述ブルガ如シ。去レバ宰相ハ國會ニ對シテ之ヲ庇陰スルモノト謂フベシ。法律ノ宰相ニ副署ノ義務ヲ負ハシムルハ元老代議ノ兩院ニ何人ニ對シテ駁議ヲ加フベキヤヲ明指スルニアリ。宰相ハ各自ノ立案シタル勅令ニ副署シテ其責ニ任ズルモノナリ。

元老代議ノ兩院議員ハ詰問ニ因リ宰相責任ノ原則ヲ活用スルヲ常トス。

宰相ハ中央政府直隷ノ官吏ニシテ行政權ヲ區分シタル各部ノ長官トス。行政權ノ各部ハ省ト稱シ宰相ハ國長ノ發スル公文ニ副署スルヲ以テノ故ニ、或ハ何省ヲ管轄スル國尚書ト云フ云々（一三九）各宰相ハ行政上ノ公文ニ副署シテ職務ヲ行フコトアリ。又行政權ヨリ委任ヲ受ケシ權限ニ因リ、自己ノ名義ヲ以テ之ヲ行フコトアルベシ。各省ノ職制ヲ定ムル千七百九十一年ノ法律第二十四條千七百九十一年ノ憲法第三卷第二章第四款第四條共和立國第八年ノ憲法第五十五條及ビ千八百十五年四月二十二日ノ追加法ハ、皆宰相ニ行政上ノ公文ニ效力ヲ附スル副署ノ義務アル旨ヲ明記セリ。千八百十四年ノ憲法及ビ千八百三十年ノ憲法ハ此ノ如キ明文ナカリシガ、其效力アル時ハ國王ニ責任ナキ原則ト宰相ニ責任アル原則トノ二者アリテ行ハレシガ故ニ、宰相ハ自ラ副署ノ義務ヲ有セシナリ。去レバ政權ヨリ出ル各種ノ公文ハ宰相ノ任免ノ辭令書ニ至ル迄皆宰相ニ副署セシムルヲ以テ定例ナリトセリ。千八百四十八年ノ憲法ハ國王ヲ廢シ之ニ易フルニ責任アル國長ヲ以テセシガ、宰相ニ副署セシムル普通ノ定例ハ猶第六十七條ニ記載シ獨リ宰相ヲ任免スル辭令書ノミ其例外ナリト定メタリ。千八百七十五年二月二十五日ノ憲法モ其第三條ヲ以テ宰相ハ總テ共和大統領ノ發スル公文ニ副署スベシト定メタリ云々

（一四六）　千七百九十一年ノ法律第十五條ニ、宰相ハ國王ト合シテ參事院ヲ組織スベシト記載セリ。共和立國第三年ノ憲法ハ之ニ反シ第百五十一條ヲ以テ宰相ハ參事院ヲ組織スベカラズト明記セリ。共和立國第八章ノ憲法及ビ千八百四十八年ニ至ル迄發布シタル諸憲法ハ此一點ニ關スル明文ナシト雖ドモ、其共和立國第八年ノ憲法ハ宰相會議ヲ滅絶セシモノニシテ、千八百四年ノ憲法及ビ千八百三十年ノ憲法ハ暗ニ之ヲ認許セリト謂フコトヲ得ベシ。其千八百三十年ノ憲法ノ行ハレシ時ハ特別ノ法律アリテ宰相會議ヲ組織スベキ數個ノ場合ヲ記載セリ。千八百四十八年十一

月四日ノ憲法モ第六十四條ヲ以テ宰相會議ノ決議ヲ經テ官吏ヲ撰任スベキ數個ノ場合ヲ擧示セリ。然レドモ千八百五十二年ノ憲法ハ其全體ニ照スモ其宰相責任ヲ單獨ノ責任ト爲シタル法條ニ徵スルモ、國長ニ隷屬セザル宰相會議ハ開會スルヲ得ザラシムルモノト謂ハザルベカラズ。將タ宰相責任ノ原則ハ千八百七十五年二月二十五日ノ憲法第六條ノ規定スル所ナリ。是レ行政權ノ機關ヲ講究スルニ當テ我輩ノ陳述セシ所ナリ。

私立經濟法律學校教師兼舊巴里控訴院代言人アルフレー、ジユードンネー氏著ノ行政法論ニ左ノ記載アリ。此記載ニ徵スレバ小官ノ下問ヲ受ケタル佛國宰相ノ國法上ニ於ケル現今ノ位置ヲ知ルニ足ルモノトス。

行政權ハ元老代議兩院ノ國會トナリテ向フ七ケ年間撰擧シタル共和大統領之ヲ行フモノトス。共和大統領ハ元老代議ノ兩院議員ト同ジク法律草案ヲ提出シ、其兩院ノ可決ヲ經シ時ハ之ヲ制可シ、法律ノ執行ヲ監督シ、且ツ保證スルノ權アリ。又特赦ヲ爲スノ權アリ。但シ大赦ハ法律ヲ用ユルニ非ズンバ裁可スルヲ得ズ。又大統領ハ軍隊ヲ統御シ、文武ノ諸官吏ヲ撰任シ、國家ノ大禮ヲ指揮シ、外國ノ大使公使ヲ待遇シ、元老院ノ決議ニ從ヒ代議院ヲ解散シ、元老代議兩院ノ延會閉會ヲ命ジ、其臨時會ヲ開キ、外交條約ヲ締結シ、及ビ認可スルノ權アリ。唯和親條約通商條約及ビ外國ニ於ケル佛國人ノ身分ト所有權ニ關スル條約ハ兩院ノ可決ヲ經ルニ非ズンバ裁可スルヲ得ズ。開戰モ預メ兩院ノ承諾ヲ得ズシテ公告スルヲ得ズ。參事院ノ定員議官ニ缺員アル時モ宰相會議ニ附シテ之ヲ撰任セザルベカラズ。

其他共和大統領ハ叛逆罪ノ外責ニ任ズルニ及バズ。其叛逆罪アル時モ代議院ノ外之ヲ訴フルヲ得ズ。又元老院ニ非ズンバ之ヲ裁判スルヲ得ズ。云々

宰相ハ貴重ノ行政官ニシテ行政權ヲ區別シタル各大部ノ長官トス。其各部ハ通稱シテ省ト云フ。

各省ノ職制ハ千七百九十一年五月二十七日ノ法律ノ定ムル所ナリ。此法律ハ立法權ニ省ノ數及ビ權限ヲ定メシメ、行政權ニハ宰相ノ任免ノミヲ擔當セシムルコトトセリ。共和立國第四年バンデミエール月一日ヲ以テ共和國根原法ト公告シタル共和立國第三年フリエクチドール月五日ノ憲法第百五十條及ビ千八百四十八年十一月四日ノ憲法第六十六條モ同一ノ原則ヲ記載セリ。然レドモ他ノ憲法ハ此一點ニ關スル法文ヲ設ケザリシカバ、宰相ノ員數ト權限トヲ定ムルハ行政權ノ特權ナリト認定セラレタリ。

千七百九十一年ノ法律ハ六省ヲ置テ諸般ノ行政事務ヲ分轄セシム、六省トハ司法省內務省租稅省陸軍省海軍省外務省是ナリ。內務省ノ權限ハ頗ル曖昧ニシテ總テ他ノ五省ニ屬セザル權限トセラレタリ。去レバ內務省ハ後ニ之ヲ分別シ、其權限中ノ一部ヲ割イテ文敎務省農商工務省ヲ置キ、

統政府ニ至テ更ニ又大警保省ヲ設ケタリ。其後領事政帝政及ビ王政ノ時諸省ノ數屢々增減セシガ、第二帝國トナリテ右ノ外順次ニ國務及宮務省大警保省アルジエリヤ及殖民省ヲ設ケタリ。但シ大警保省ハ設置後幾何モナク內務省ニ併合セリ。

第二帝國ノ時宰相ハ千八百六十年ヲ以テ省卿ヲ兼任スル者ト兼任セザル者トニ區別セラレタリ。其省卿ヲ兼任スル者ハ各省ノ長官トナリテ重大ノ公務ヲ指揮統轄スル眞正ノ宰相トス。然レドモ其省卿ヲ兼任セザル者ハ參事院議長及ビ議官ト協議シ、元老代議ノ兩院ニ於テ他ノ宰相ノ所爲及ビ政府ノ法律草案ヲ辯護スルノ職務アルモノトス。是レ代辯官タル宰相ナリト謂フベシ。但シ此職員ハ千八百六十三年ニ至テ政府ノ廢スル所トナレリ。

政治上ノ言語ヲ以テ云ハバ宰相ノ憲法ニ從テ會議ヲ組織スル時ハ之ヲ內閣ト云フ。內閣ハ百般ノ國政ヲ議スル政治上ノ團結體ニシテ政府ノ一般ノ政治ヲ總理シ其政治ニ付キ兩院ニ對シテ責ニ任ズルモノナリ。

建國會ノ時宰相會議ハ國王ト合シテ參事院ヲ組織セシガ、都督政領事政及ビ帝政ノ際一旦中絕シ、立憲君主政ニ至テ更ニ行ハルヽコトトナレリ。當時其議長ハ內閣ノ政策ヲ一身ニ統理スベキモノナリシガ、時アリテハ省卿ヲ兼任セザル宰相ニシテ其任ニ當リシコトアリ。ラジミール、ペリエー氏陸軍大將スール氏ノ如キ是レナリ。ラジミール、ペリエー氏ハ內務省ヲ去テ內閣議長ヲ兼任シ、スール氏ハ陸軍省ヲ出デヽ之ヲ兼任シタリ。然ルニ第二帝國ニ至リ宰相ハ實際上會議ヲ開キシコトアリシガ、其會議ハ法律上一團結トナリテ連帶責任ヲ負フベキ性質アラザリシナリ。千八百七十五年ノ憲法ハ之ニ反シテ宰相會議ヲ明認シ、而シテ特ニ其會議ヲ開クベキ若干ノ場合ヲ擧止セリ。云々

宰相責任ノ原則ハ千七百九十一年ノ憲法ヲ以テ之ヲ定メ、總テ宰相ハ國王ノ言語又ハ文書ニ出ヅル命令ニ付テ責ヲ免カルヽヲ得ズトセリ。然レドモ其職務ノコトニ付テハ其之ヲ行フ時ト否トヲ問ハズ、立法府ノ勅令アルニ非ズンバ之ニ對シテ刑事ノ訴ヲ起スヲ得ザリシナリ。此原則ハ爾來諸憲法ニ於テ皆之ヲ記載セリ。唯幾分カ變改ヲ加ヘタルノミ。千八百十四年ノ憲法第三十五條ニ宰相ハ其副署シタル政府ノ所爲ニ付テ責ニ任ズベシトアリ。千八百三十年ノ憲法第十二條ニモ亦均シク此原則アリ、加之宰相ノ責任ハ當時輿論ノ勢ニ因テ竟ニ連帶ト見做サレタリ。千八百四十八年ノ憲法ハ之ニ反シ、第六十八條ニ宰相ハ政府ノ所爲及ビ行政事務ノ己レニ關スルモノニ付テ各責ニ任ズベシト述ベ、以テ明ニ連帶責任ヲ單獨責任ニ變改セリ。千八百五十二年ノ憲法亦此ノ如シ。其緒言ニ云ヘルアリ。曰ク、宰相ハ國長ノ意ヲ啓沃スルニ足ル貴重ノ輔佐ノ官トシテ、從前ノ如ク連帶責任アル會議ヲ組織スルコトナカラシムルヲ要ス。若シ宰相ヲシテ連帶責任アル會議ヲ組織セシムルニ於テハ、常ニ兩院ノ政策ヲ實行スル國長ノ意思ヲ阻礙スルニ至ルベシ云々。

現今ノ憲法ニ於テハ宰相ハ政府ノ一般ノ政治ニ付テハ代議院ニ對シ相連帶シテ其責ニ任ジ各自ノ所爲ニ付テハ同院ニ對シ各其責ニ任ゼザルベカラズ。

副署トハ國長ヨリ發スル諸般ノ公文ノ末尾ニ宰相ノ署名スルヲ云フ。是レ共和立國第八年ノ憲法ヲ除キ他ノ諸憲法ニ於テ行フベシト命ズル所ノ方式ナリトス。此方式ハ國長ニ責任ヲ負ハシメズシテ獨リ宰相ニ之ヲ負ハシムル原則ニ出ヅルモノナリ。故ニ佛國現今ノ共和政治ニ於テ、國長卽チ共和大統領及ビ代議院ニ對シテ各大臣ノ有スル國法上ノ位置ハ恰モ孛漏生及ビ其他ノ立憲君主國ニ於テ國王若クハ皇帝參議院ニ對シ其大臣ノ有スル位置ト同一ナリ。往時ヨリ現時ニ至ル迄佛國ニ於テ發達シタル大臣組織法ノ顚末ハモーリツス、ブロツク氏著ノ佛國行政字典中ニ記載セリ。該書ニ據レバ高等行政官ノ構造及ビ組織法ハ凡ソ三種アリテ、直接ニ國君ニ附屬セリ。卽チ時ニ依リ佛國ニ於テハ國君ニ屬スル衆顧問官ヲ管理スベキ一名ノ高等官アリテ、直接ニ國君ノ附屬トナレリ。往時ニアリテハ此高等官ヲ稱シテ大宰相卽チ大臣ト云ヘリ。時トシテハ直接ニ國君ニ從屬スル數名ノ高等官アリテ、一公會若クハ數公會ヲ組織シ、以テ重要ナル事件ノ商議及ビ認可ヲ爲セリ。又時トシテハ直接ニ國君ニ從屬シタル數名ノ高等官（卽チ大臣）アリテ皆ナ同等ノ階級ヲ有シ、各自管轄スベキ事務ニ關シテハ互ニ相獨立セリ。以上ニ示ス三種ニ屬スル高等行政官ノ外佛國ニ於テハ尙ホ一種ノ組織法アリ。而シテ佛國以外ノ歐羅巴諸國ニ於テモ亦直接ニ國君ニ附屬スル高等行政官ノ組織法ハ佛國ト同一ノ變化ヲ受ケタリ。小官ハ往時ヨリ現時ニ至ル迄佛國ニ於テ發達シタル大臣ノ組織法ヲブロツク氏著ノ行政字典中ヨリ單簡ニ拔萃シテ之レヲ示サントト欲ス。其原文左ノ如シ。

佛國君主政治ノ淵原ニ溯ルニ於テハ、何レノ時代タリトモ國長ハ輔佐官若干員ヲ得テ國政ヲ分擔セシムルノ必要ナルヲ感ゼザリシコトアラザルヲ知ルベシ。然レドモ此輔佐官ハ判然タル一定ノ權限ナキヲ以テ、今日ニ於ケル歐洲諸國ノ宰相ト甚シキ差別アルベシ。第一及ビ第二ノ王統ノ時代ニハ初メ掌璽官ト名ケシ大法官アリテ、獨リ眞正ノ宰相タル觀ヲ呈セリ。此大法官ハ至高權ヨリ出ヅル諸般ノ公文ニ副署スルノ官職タリシガ、後チニ司法事務ヲ擔當シ爾來連綿トシテ此權限ヲ保有シタリ。

第三王統ノ時代ニハ宮中ニ王宮ノ高等官吏若干員ヲ以テ組織シタル議會ヲ置キ、最初ハ定員ヲ五名トセシガ、漸クニシテ其員數ヲ增加シ、殆ント無制限トナセリ。斯ル議會ハ宰相會議ト云ハンヨリ寧ロ君主ノ隨意ニ招集セシ者ノ會議ナルベシ。然ラバ則チ今日ノ如キ宰相ハ國務尙書ニ淵原セリト謂フベシ。國務尙書ハ初メ大法官ノ指揮ヲ受ケテ書狀ノ記錄ヲ掌ドリシガ、幾バクモナク國王ノ書記官トナリ、更ニ又諸省ノ淵原トモ稱スベキ特別ノ權限ヲ得ルニ至レリ。抑モ佛國ニ於テ首トシテ行政上ノ官制ヲ整頓シタルハ路易十一世トス。此君主ハ始メテ三省ヲ設置セリ。國

務省財務省司法省是レナリ。然レドモ百般ノ公務ハ歳月ト經驗ヲ積ムニ非ズンバ正當ノ區別ヲ立ツル能ハザルナリ。去レバ此官制モ後代ニ至テ屢々變改シ、路易十三世ノ時千六百二十六年三月十一日ヲ以テ宮内省外務省陸軍省海軍省ノ四省ヲ創立シ、大法官ト大藏監督ニハ從前ノ權限ヲ保有セシメタリ。路易十四世ニ至テハ其先代ノ官制ハ悉ク保存シ、唯リツシユリユー及ビマザランノ占領セシ大宰相ノ官職ヲ廢シタルノミ。

路易第十四世ノ薨ズルニ及ビ、行政上ノ官職ハ悉ク改正シ、隨テ諸宰相ヲ廢シテ攝政會ヲ構成セリ。此攝政會ハ別テ七部トス。第一宗教部、第二陸軍部、第三財務部、第四海軍部、第五外務部、第六内務部、第七商務部是ナリ。此各部ハ職員十人ヲ以テ組織シ相合シテ攝政會トナレリ。然レドモ千七百十八年ニ至リ高等法院ノ抗告トシユボワー大僧正ノ意見トニ因リ攝政官ハ攝政會ヲ廢シ更ニ五省ヲ創設セリ。

千七百八十九年ニ大改革アリテ各省ノ職制ヲ變改セザルベカラザル勢トナリタリ。宰相ハ從來勅意ヲ奉行スルノ官吏ニ過ギザリシガ、是ニ於テ一變シ更ニ各自ノ所爲ニ付テ責ニ任ズベキ義務アルニ至レリ。建國會ハ千七百九十一年五月十五日ノ法律ニ因リ司法内務主税陸軍海軍外務ノ六省ヲ設ケ、宰相ノ任免ハ國王ニ專行セシメ、其權限ヲ規定シ、且ツ制限スル權ハ自ラ之ヲ保有セリ。又國庫及ビ會計ノ事務ハ別ニ區畫シテ建國會直隷ノ委員ニ管理セシメタリ。千七百九十二年八月十日ノ後、宰相ハ立法會ニ於テ自ラ之ヲ撰任セシガ、共同會ニ至テ假行政局ヲ組織セリ、然ルニ此假行政局ハ幾何モナク大都督局ニ屬スル職員三十二名ヲ以テ組織セラル、十二個ノ行政會ト變ズルニ至レリ。

共和立國第三年フリユクチドール月五日ノ憲法ハ更ニ宰相ノ官ヲ置キ統政府ニ委任スルニ其任免ヲ以テシ、其員數ト權限ヲ定ムルノ權ハ共同會ニ保有セリ。然ルニ此制度ハ共和立國第八年ノ領事政ノ憲法ニ於テモ著大ノ改革ヲ加ヘズ、唯宰相ハ各州ノ選擧會ニ於テ調製シタル國士表ニ記載セシ者ニ限ルベシトセリ。

帝國ヲ創立シタル共和立國第十二年フロレアール月二十八日ノ元老院議定書ハ、宰相ヲ無責任ト爲セシガ、其員數次第ニ增加シテ十一名トナリ、後チ更ニ勅旨ヲ以テ之ニ國務卿ヲ加ヘタリ。國務卿ハ初メ代議院ノ決議書ヲ受領シ、之ニ國璽ヲ押捺シ、且ツ副署スルニ止マリシガ、幾何モナク行政權ヨリ出ヅル諸般ノ文書ニ副署スルノ權限ヲ占得セリ。加之ナラズ此高等官吏ハ他ノ宰相ノ權限ニ屬セザル事務ヲ執行シ、又時アリテハ皇帝ノ勅令ヲ他ノ宰相ニ傳達シタリ。

宰相ノ員數及ビ權限ハ王政恢復ノ後大ニ變改セリ。帝國ノ時ニハ其員數十二名ナリシガ、更ニ減ジテ七名トセリ。司法卿、外務卿、陸軍卿、海軍卿、内務卿、大藏卿、宮内卿是ナリ。而シテ後ニ至テ又之ニ教務卿、文部卿、商工務卿ヲ加ヘタリ。(千八百二十七年)但シ商工務卿ハ千八百

二十九年ヲ以テ之ヲ廢シ、續イテ又宮內省ヲ改メテ管財院トナセリ。

路易ヒリツプ王ノ時ニハ省ニ關スル官制ニハ著シキ改革ヲ加ヘシコトナシ。唯商務省（千八百三十一年）ト工務省（千八百三十九年）トヲ新設シタルノミ。千八百十四年ノ憲法及ビ千八百三十年ノ憲法ハ國王ニ責任ヲ負ハシメズシテ專ラ宰相ニ之ヲ負ハシメシガ、其責任如何ハ確定シタルモノナシ。此二憲法ノ行レシ時ハ宰相ハ國王又ハ其指名シタル宰相ヲ議長トシテ會議ヲ組織スベキモノトス。

千八百四十八年二月政府ニ改革アリシカバ、行政上ト政治上ノ官制モ悉ク改正セザルベカラザルニ至レリ。同年十一月四日ノ憲法ハ共和大統領ニ宰相ヲ任免スルノ權ヲ附與シ、其員數ト權限ハ立法權ニ之ヲ定メシムルコトトセリ。加之ナラズ此憲法ハ宰相ヲ任免スル辭令書ノ外、他ノ共和大統領ノ發スル諸般ノ公文ハ皆宰相ニ副署セシメ、且ツ宰相ハ各自己ノ所爲ニ付テ責ニ任ズベシト定メタリ。

第二帝國ニ至リ宰相ノ職制ハ千八百五十二年ヨリハ千八百七十年ニ至ル迄ノ間、憲法ト共ニ屢變更セリ。千八百五十二年一月二十二日ノ憲法第十三條ニ據レバ、宰相ハ國長ニ隷屬シ、政府ノ事務ノ各自ニ關スルモノニ付テ責ヲ負ヒ、最早從前ノ如ク相連帶シテ責ニ任ズルニ及バズ、而シテ其各自ノ責任ハ一身ニ關スル裁判上ノ責任ナリトス。

其皇帝ヨリ出ル公文ニ副署スルハ官印ノ眞正ナルヲ證明シ、此公文ハ何レノ行政權ニ屬スルヤヲ知ラシムルニアルノミ。

皇帝ハ特撰ヲ以テ宰相ヲ任免シ、獨リ國民ニ對シテ責ニ任ズルモノトス。故ニ宰相ハ皇帝ヲ輔佐シ其委任ヲ受ケテ行政權ニ屬スル諸權限ノ一部ヲ行フ官吏ナルノミ。

宰相ハ代議院ノ議員タルヲ得ズ、又其議場ニ於テ演說ヲ爲スヲ得ズ、是レ從前憲法ニ記載セザル新則ナリトス。然レドモ參事院ニ於テ議事ニ參與シテ投票ノ權ヲ行フヲ得ベシ。

千八百六十年十一月二十四日ノ勅令ハ省卿ヲ兼任セザル宰相ハ特ニ指名シテ參事院議長及ビ議官ト共ニ政府ノ法律草案ヲ辯護セシムベシト定メ、千八百六十七年一月十九日ノ勅令ハ宰相ハ特撰ヲ以テ元老院又ハ代議院ニ派遣スト定メタリ。千八百六十九年九月六日ノ元老院議定書ニ據レバ宰相ハ責任アル者ニシテ元老院又ハ代議院ノ議員トナルヲ得ベク、又皇帝ヲ議長トシテ會議ヲ開クヲ要ス。

千八百七十年五月八日ノ國民認可令ハ千八百五十二年ノ憲法ヲ改正シタル諸點ヲ認可シタリ。

千八百七十五年二月二十五日ノ憲法第六條ニ據レバ、宰相ハ共和大統領ヨリ撰任セラルヽ者ニシテ、政府ノ一般政治ニ付テハ相連帶シテ其責ニ任ジ、各自ノ所爲ニ付テハ各其責ニ任ズルモノトス。

英國各大臣ト內閣長トノ關係ニ付、グナイスト著英國行政法中ヨリ一二ノ場所ヲ抄記セントス。

該書ハ英國行政法ノ系統ヲ立テ、且其淵源ニ遡リ論ジタルモノニシテ、英國々法中蓋シ此書ノ上ニ出ルモノナカルベシ。

抑モ英國官省ノ制ハ大陸諸國ノ制ト甚ダ異ニシテ、其所謂內閣(カビネー)ナルモノハ稍々會議制ニ類似シ、而テ內閣長（フオルストロルトヲフゼトレゾリ）ナルモノハ各大臣ノ上ニ位シ、特別ノ地位ヲ有セリ。故ニ英國ノ內閣ハ稍〻日本ノ太政官ニ類似シ、決シテ大陸諸國ノ內閣ト日本ノ太政官トノ全ク相異ナルガ如キモノニアラズ。之ニ反シ日本諸省ノ區別ハ稍大陸諸國ノ制ニ同ジ。英國各省ハ日本若クハ大陸諸國ノ如ク系統ヲ立テ、發達セルモノニアラズ。

今グナイスト著英國行政法中ヨリ彼ノ場所ヲ抄記スルノ前、先ヅ英國內閣ノ往古ヨリ今日ニ至ル沿革ヲ論ゼントス。此事最モ緊要ナリトス。何ントナレバ英國內閣ノ一種特別ナル組織ヲ有スル所以、及各省卿名稱ノ他國ニ異ナル所以等ハ唯其沿革ニ基キ始テ明瞭ナルヲ得レバナリ。大陸諸國ニ於テハ直チニ國王ノ下ニ立ツ所ノ最高官吏ヲ稱シテ大臣(ミニステル)ト云フト雖モ、英國ニ於テハ法律上未ダ大臣及省等ノ名稱ヲ用ヒシコトナク、「ゲサンムトミニスラリウム」(太政官)ノ代リニ「カビネー」(內閣)ノ名ヲ用ヒ內閣ノ諸員(ナンブル)ヲ內務大臣財務大臣外務大臣等ト稱スルナリ「ホームセクレテール」(內務尙書)チヤンスレル、ヲフ、エキスチユク」(財務尙書)「ホライング、セクレテール」(外務尙書)等ト稱セリ。

夫レ英國ハ北獨逸ノ民種「アングルサツキセン」ノ興ス所ナリ。紀元後四百四十九年ニ當リ、此民種ノ大半ハ北獨逸ノ鄕地ヲ去リ、英國ニ渡リ、曾テ羅馬人ノ制馭ヲ受ケシ所ノ土人ヲ或ハ追擊或ハ服從セリ。此民種ハ此ノ如ク土地ヲ換フルト雖モ、依然獨逸ノ法律思想及慣習ヲ確守シ、國權ノ持主ナル國王ノ傍ラニ民種ノ大家ヨリ成立スル所ノ議院ヲ置ケリ。其後一千六十六年ニ至リ、ノルマン人種中ヨリ「ウイルヘルム、デル、エルヲーベル」ナル者起リ、英國ノ王位ニ登レリ。此王位ヲ襲フ所ノ諸王ハ累世其官職「カンツロル」「トレシユレ」「グレートシアンベルラン」等ノ輔佐ヲ以テ政權ヲ施行セリ。然レドモ此諸職未ダ確定ノ形體ヲ有セズ、獨リ財務殊ニ官有地ノ管理ハ大藏寮（エキスチエク）ニ於テ整理シ一定ノ人員ト一定ノ事務章程ヲ具備セリ。

然ルニ一千二百十五年ニ至リ「マグナカルタ」ノ發布アリ、始テ法律上國王ノ行政權ヲ制限セリ。是ニ於テ「マグヌム、コンシリウム」ナルモノ起リ、現今上院ノ基ヲ開キ、次デ合議制ノ最高行政官廳「ペルマネントコンシル」生ゼリ。其常務員ハ大法官國璽官「コステルヲフセロル」大審院ノ重役大藏寮長御璽官宮內ノ重役「カンテルフリ」ノ大僧正及國王ノ特任官吏ナリキ。

「トードル」及革命ノ時代（一千四百八十五年乃至一千六百三年）ニ於テハ「ペルマネントコ

ンシル」ハ依然國家ノ最高官廳タリシガ、之ニ代ルニ樞密院（プライベコンシル）ノ名ヲ以テシ、又新ニ官吏殊ニ國王附書記官（ゼ、キングス、セクリテル）ヲ增置セリ。此書記官ノ地位ハ素ト國王ノ秘書官ナリシガ、御璽官ノ國家ノ高官トナルニ由リ其跡ヲ繼ギ國王ノ御璽ヲ保守シ、其後遂ニ國務尙書ノ官位トナレリ。

然ルニストアル家ヨリ出タル所ノ諸王（一千六百三年乃至一千六百八十八年）ハ始テ內閣ヲ置キ、樞密院中殊ニ國王ノ信用ヲ受タル諸員ヨリ之ヲ組織シ、之ニ由リ國務ヲ施行セリ。

而テ一千六百八十八年ニ於テストアル家ヲ追放シタルヨリ、一千八百三十二年ノ改革ニ至ル間ハ、政務悉ク內閣ヨリ出デ而テ樞密院ハ僅ニ其名ヲ保存セリ。然レドモ內閣ハ此時代ニ於テ漸ク國王ノ意思ヲ施行スル所ノ機關ヨリ巴拉門ノ委員局トナレリ。何トナレバ內閣ハ必ズ下院ニ於テ多數ヲ占ムル黨派ノ巨魁ヨリ成立スレバナリ。是ヲ以テ英國ハ議院政治トナリ、而テ大藏寮ハ委員局ニ反シ大藏寮ノ首長（フラルストロルド、ラスゼ、トレゾリー）ハ內閣長トナリ、又國務尙書ノ事務ハ各種ノ官吏ニ分賦セラレ、遂ニ數多ノ尙書ヲ生ゼリ。內務尙書外務尙書殖民尙書軍務尙書等是ナリ。

英國ノ中央政府ハ如上ノ沿革ニヨリ起レルモノナルヲ以テ、大陸諸國及日本ノ如キ官省ノ組織ヲ有セズ、實ニ英國ノ官省組織ハ不完備ナリト云ハザルベカラズ。抑モ英國ノ最高官廳及最高官吏ハ、漸次實際ノ需用ニ基キ起レルモノニシテ、從來ノ名稱ヲ保守セリ。彼ノ樞密院ノ如キハ現今概ネ二百二十人ヨリ成立スルト雖モ、其中會議ニ出席スル者ハ僅ニ特別ノ呼出ヲ受タル者ニ限レリ。故ニ此官廳ハ最高官廳ノ名アルノミニシテ其實毫モ勢力ヲ有セズ。而テ實權ヲ有スル機關ハ巴拉門中ヨリ撰任スル所ノ內閣ナリキ。又內閣ノ員數ハ大陸諸國及日本ノ如ク一定不變ノモノニアラズ、通常左ノ最高官吏ヨリ成立ス。

第一、內閣長
第二、大法官
第三、樞密院長
第四、御璽典掌
第五、內務尙書
第六、外務尙書
第七、殖民部尙書
第八、財務部長
第九、海軍部長
第十、ボールド、ヲフ、コントロル

其他尙左ノ諸員モ內閣員ニ屬ス。

第十一、ランカスター侯國總督
第十二、ベーマスルトセネラル
第十三、ミンスト
第十四、商務部長
第十五、軍務尙書
第十六、愛蘭尙書
第十七、地方政務部長
第十八、驛遞
第十九、印度部尙書

凡ソ一般ニ關スル事件ハ悉ク內閣ニ於テ議決ス、又其中更ニ樞密院ノ形式上ノ認可ヲ要スベキモノナリ。內閣ノ交迭ハ前世紀以來先例ニ由リ內閣長其職ヲ辭シ、更ニ他ノ繼世家ニ內閣ノ組織ヲ委任セラレンコトヲ國王ニ奏上スルヲ以テ例トス。內閣交迭アル時ハ啻ニ內閣員ノミナラズ、之ニ三倍若クハ四倍スル所ノ官吏ハ悉ク退職ス。卽チ輔官（ウンテルスターツセクレテール）高等官廳ノ長官、官內官吏等ナリ。故ニ內閣ノ交迭ト共ニ約ネ六十名ノ高等官吏ヲ變更ス。其他ノ官吏ハ專ラ專門官吏タルヲ以テ此交迭ノ爲メ動サルヽコトナシ。而テ此官吏ハ何時タリトモ其長官ヨリ免職セラルベキモノナレドモ、通常其例少シ。此官吏（書記官及助官）ハ各長官若クハ內閣長之ヲ任ズ。之ヲ登庸スルニ當リテハ一千八百五十五年以來試驗ヲ行フト雖モ其效鮮シ。

以上英國ノ官衙組織ノ大體及其沿革ヲ略述シタルヲ以テ、今進ンデ英國內閣長ノ地位ニ付グナイスト英國行政法中ヨリ左ノ篇ヲ抄記ス。

英國ニ於テ行政ノ原則ヲ立テ以テ各部長ニ自由ノ運動ヲ附與シ、且ツ巴拉門ニ對スル各部長ノ責任ヲ重クスルトキハ大ニ事情ヲ變ズベシ。然レドモ凡ソ各部長ノ責任重クナルニ從ヒ、政務ヲ統一スルノ需用愈大ナルハ自然ノ理ナリ。是レ英國ニ於テ漸ク一百年間ニ第一大藏部長ノ職ニ變シ遂ニ各部長ノ勢力ヲ減ジタル所以ナリ。

今內閣長ノ地位ニ付沿革ヲ論ゼシニ、一千七百十四年ハンノフエル家王位ヲ繼ショリ以來、大藏部ハ委員局トナリ、而テ其委員長ハ今日ニ至ルマデ「ロルドハイトレジユリ」ノ後任者ト見做サレタリ。大藏部長ハ素ト財務法院（クール、ヲフ、エキスチング）ノ長ニシテ出納局長兼大藏部長タリシヲ以テ、今日ニ至ルマデ此諸務ハ名義上委員局ニ屬ス。然レドモ實際ニ就キ之ヲ觀ルニ、舊時ノ出納局ハ廢止セラレ、唯其名義ノミ遺存シ、其實務ハ悉ク新立ノ諸局ニ遷サレタリ。委員長ハ今日ニ至リ啻ニ大藏部ノ會議ニ出席セザルノミナラズ、委員長ト大藏部ノ關係ハ恰モ該

長ト他ノ各部トノ間ニ於ケル如キコトヽナレリ。委員長ハ其本部ニ對シ此ノ如キ關係ニ至リタリト雖モ、全體ニ對シテハ內閣長トナリ、萬機ヲ統理シ且ツ官吏ヲ任用スルニ當リ大ニ勢力ヲ有スルコトヽナレリ。

第一　內閣長ハ官吏ヲ任用スルニ左ノ權利アリ。

內閣ヲ組織スルニ當リ大臣ノ位地及第二等官吏ノ位地ヲ定メ、其黨派ノ者ニ概ネ六十餘ノ官職ヲ附與ス。又左ノ職員ニ缺員アルトキハ新員ヲ任ズルノ權アリ。

大僧正僧正ヲ任ジ、且ツ寺領ヲ附與スルコト。

ウエストミレスラル三法院ノ上席裁判官ヲ任ズルコト。

大藏部ノ諸官吏ヲ任ズルコト。但實際ハ其中僅ニ二三重要ノ官職ヲ任ジ、其他ハ大藏部ニ委任ス。其他ノ各部ニ屬スル官職ト雖モ、苟モ其人ニヨリ政務ニ關係ヲ生ズベシト認ムル時ハ其任官ヲ監督ス。卽チ公使又ハ殖民地及東印度大守官ノ職ノ如キ是ナリ。

「ペール」及「バロン」爵ノ賜與、並ニ特別退隱料及褒賞ノ恩賜ニ付國王ニ奏上スルコト但「リツテル」爵ノ賜與ハ文官ニ付テハ內務尙書、武官ニ付テハ軍務尙書之ヲ奏上ス。

第二　全國政務ノ首長トシテハ內閣會議ノ議長トナリ、議事ヲ整理ス。內務部大藏部愛蘭殖民部ノ重要ナル事務及外國トノ關係ハ各部長ノ管理スル所ナリト雖モ、內閣長始終之ヲ監督ス。

又內閣長ハ國王ト各部長ノ間ニ立チ事ヲ處理ス。抑モ內閣長ノ此ノ如ク各部ノ政務ニ干涉スルハ決シテ法律ヲ以テ定メタルニアラズ、政權ヲ執リタル黨類ノ間ニ自ラ生ズル所ノ慣習ニ起レリ。又大藏部ニ對シテハ總長官ノ名ヲ有スト雖モ實際大藏卿ノ事務ヲ執ル者ハ大藏尙書ナリ。思フニ內閣長ノ僧官ヲ任ズルノ權、官吏任官ノ權モ亦從來ノ慣例ニ基クモノナリ。僧官ヲ任ズルノ權ハ各部其所管事項ニ付之ヲ有スト雖モ、一定ノ官職ハ內閣長ト協議ヲナサヾルベカラズ。而テ內閣長ハ僧官ヲ任ズルニ當リ大法官ト共ニ之ヲ行フ、又大法官ハ獨斷シテ七百有餘ノ僧官職ヲ附與ス。

國王及內閣長ノ內閣會議ニ於ケル地位ニ付テハ「グナイスト」行政法三百五十二項乃至三百五十四項ヲ抄出ス。

英國ノ政權ハ專ラ概ネ一千人以上ノ人員卽チ兩院ヨリ成立スル所ノ巴拉門ニ存スレバ、事自ラ緩漫ナラザルベカラザルヲ以テ、國家ノ意思ヲ斷行スルノ機關ヲ要スルコト、君主獨裁國ニ異ナルナシ。故ニ英國ニ於テハ憲法ニ準據スル國家ノ意思ヲ一轍ニ出シメンガ爲メ、左ノ五項ニ於テ政務ヲ統一セリ。今左ニ其一ヲ摘擧セン。

第一　內閣會議ニ於テノ統一ハ樞密院ノ舊法ニ依リ保守セラルヽナリ。內閣會議ハ今日猶依然國王ノ顧問會トシテ開カレ、國王其首席ヲ占ム。國王ノ臨席セザル時ハ樞密院長首席ヲ占ム。

而テ御璽官其監事トナル。此二官ハ專ラ議事ヲ監督シ、且ツ責任ノ歸スベキ人ヲ監督スルモノナリ。

又法律家ヲ提出シ財政行政規則ヲ發布スルニハ尙一層統一ヲ要セリ。故ニ內閣長ハ大藏委員長ノ名義ヲ以テ內閣ノ全體ヲ代表ス。卽チ各部長其命令ニ反對スルトキハ其職ヲ辭セザルベカラズ。又內閣長其職ヲ辭スルトキハ內閣員一同共ニ其職ヲ辭セザルベカラズ。各部長ハ其所轄事項ニ關スル緊要ナル處分及重要ノ官職ヲ任ズルニハ、內閣長ト熟談セザルベカラズ。(又各部長ハ各部ノ豫算表ヲ大藏部ニ提出セザルベカラザルヲ以テ、殊ニ其監督ニ服セザルベカラズ。而テ各部長ト大藏部長トノ間ニ異議アルトキハ、內閣會議ニ於テ之ヲ裁決ス。常備兵ノ豫算表モ同ジク內閣會議ニ於テ之ヲ決ス)

夫レ此ノ如ク重要ノ裁決ハ內閣ノ議決ニ係ルト雖モ亦英國々王ハ其他ノ重要ナル國事ヲ統一セリ。凡ソ憲法上ノ慣例ニ從ヒ君主ノ署名ヲ要スベキ布告ハ各部長直チニ國王ニ就キ之ヲ請ヒ、又巴拉門ヲ經由シタル布告ハ大法官國王ニ就キ署名ヲ請フモノトス。現時巴拉門ノ慣習例ニ於テモ君主ハ其皇權ニ屬スル範圍ニ於テ事實ヲ聽聞シ、且制可ヲ拒ムノ權アルモノナルコトヲ認メタリ。是レ最近時ニ於テロルド、ポルメツソルトノ爭議ニ於テ公認セラレタル所ノ實例ナリ。此王權タル法律上ニ於テ更ニ疑ナキノミナラズ、又外交及兵事ニ於テハ常ニ實行セラルヽ所タリ。又內閣長ハ政事上ノ重要ナル事件ハ勿論巴拉門ノ國事ニ關スル決議及政略ニ關スル內閣ノ決議ヲ君主ニ奏上スル義務アリ。又政略ノ方向ヲ變ゼントスルトキハ前以テ君主ノ制可ヲ受ザルベカラズ。(實際ハ下院ニ於テ政權ヲ握レドモ此事未ダ曾テ憲法ノ原則トナリシコトナシ)

國王ト內閣長トノ關係ニ付テハグナイスト英國行政法第二百六項及第二百七項ニ於テ左ノ論說ヲナセリ。

英國ノ內閣會議ハ單ニ同黨ナル政事家ノ會議ナレバ、國王之ニ臨席シ其意見ヲ提出スルモ其效ナカルベシ。之ニ反シ樞密院ノ會議ニ於テハ各種ノ黨派アリ、各種ノ議論百出スルヲ以テ國王ハ其意見ヲ以テ或ハ會議ヲ動スコトアルベシ。故ニ議院政府ニ於テハ國王ノ威權ヲ施スコト極テ少ナシ。而テ內閣ハ之ニ付共同ノ責任ヲ有スベシ。然ルニ國王猶其意見ヲ以テ此會議ノ議決ヲ動サント欲セバ、遂ニ此內閣ヲ解キ新內閣ヲ組織セザルベカラザルベシ。然リ而シテ君主ハ制可ヲ與フル爲メ內閣政略ノ方針ハ如何ナル點ニアルカ否カヲ探究スルヲ得ルハ固ヨリ當然ノ理ナリ。是レ一千八百五十一年ニ於テ外交事項ニ關スルロルド、ポルメルストンノ爭議ニ因リ公認セラレタル事實ナリ。故ニ君主ノ政務ニ干涉スル程度ハ事件ノ如何ニ由リ大ニ異同アリ。時トシテハ其關スル所全ク形式上ニ過ザルコトアリ。マイ氏憲法沿革史ニ據レバ英國ノ皇權及王室ノ勢力ハ一千八百五十一年以來未ダ曾テ爭ハレタルコトナシ。又王家ハ憲法ノ精神ニ基キ

能ク其權利ヲ使用セリ。卽チ王家ハ巴拉門ノ信任セル大臣ヲ用ヒ、決シテ無責任者ノ奏議ヲ容レズ。又巴拉門及輿論ニ基キ政治ノ方向ヲ動シ、濫リニ一己ノ意見ヲ實行セザリキ。而テ現時ノ皇帝モ亦能ク憲法ノ精神ヲ遵守シ常ニ責任大臣ノ輔佐ヲ以テ政務ヲ調理セリト云フ。

故ニ英國ハ君主國ノ名アリト雖モ其實大臣政治（ミニステルアブソルートス）トモ稱スベシ。何トナレバ內閣ハ全國ノ內政事務ヲ統理シ、自ラ外國ト談判ヲ爲シ、顯官ヲ進退シ殖民政務ヲ管理シ、海陸軍ノ費用ヲ議定シ、行政部ノ定額ヲ豫定シ重大ナル法律案ヲ提出（各部長ヨリ提出スル法案ハ至テ微々タリ）スレバナリ。英國ニ於テハ大臣此ノ如キ權力ヲ有スルヲ以テ、近來大ニ人ノ抗擊スル所トナリタリ。最近ノ學說ニ依レバ內閣ヲ以テ狡猾手段ヲ用ヒ貴族黨派ヲ壓倒シ、其權力ヲ占領シタルモノト認メ、之ヲ論ジテ曰ク、舊法ニ據レバ英國王ハ大臣ヲ自由ニ進退シ、强テ巴拉門ノ之ヲ信任スルトセザルトヲ問ハザリキ。而テ又巴拉門ハ大臣ヲ其國王ノ信任ヲ有スルト有セザルトヲ問ハズ、責罰スルノ權ヲ有セリ。然ルニワイス黨起リ國王ノ任命ヲ受テ始テ大臣トナリ、又巴拉門ノ糾彈ヲ受クルコトヲ嫌ヒ、現時ノ內閣ナルモノヲ起シ、始テ其目的ヲ達セリト。然レドモ此說ノ事實ニ矛盾スルコトハゲヲルグ第三世ノ政務、殊ニ久シク永續セル「トリー」行政ノ今日ニ至ルマデ變動ヲ現出セズ、又第十八世紀及第十九世紀ニ於テモ革命ノ前後ニ於テモ內閣ノ組織常ニ一途ニ出タルヲ以テ明カナリ。云々

英國樞密院ト內閣トノ關係及其沿革ニ付、グナイストハ其英國ノ行政法第二百一項ニ於テ左ノ如ク論ゼリ。

英國政府ノ重要ナル事務ハ既ニ第十八世紀ニ於テ憲法及行政法律ヲ改正スルナク、自ラ樞密院ヨリ內閣ニ遷リタリ。普國ニ於テハ一千八百八年ニ至リ一朝樞密參議院ヲ廢シ、五大臣ヲ置キシモ英國ニ於テハ此更遷ニ一百有餘年ヲ費セリ。

既ニ第十八世紀ニ於テ巴拉門ノ勢力大ニ發達シ、舊制ヲ維持スルヲ得ザルニ至レリ。此時ニ當リ若シ國家ノ政務ヲシテ活動セシメント欲セバ、之ヲ抑壓セザルベカラザルハ當然ノ理ナリ。而テ其後巴拉門ノ勢力益强盛トナリ遂ニ樞密院ニ其勢力ヲ失ヒタリ。

第十九世紀ニ至リ英國ニ於テモ社會ノ變動起リ佛國及獨逸ニ於ケル如ク中央政府ノ最モ活潑ナル組織ヲ設ケザルベカラザルニ至レリ。是レ英國ニ於テ今日猶益其組織ヲ大陸諸國ニ類似セシメントスル所以ナリ。

事情此ノ如キニ至リタレバ英國ニ於テハ別段巴拉門ノ認可ヲ受ケ、若クハ王室ノ制可ヲ受クルコトナク、又理論上ノ原因モナク樞密院ノ政務自ラ內閣ニ遷レリ。實際ヲ觀ルニ既ニ百有餘年以來政務ノ中心ハ樞密院ニアラズシテ政黨ヲ以テ組織セル內閣ニアルコト明カナリ。然レドモ法律上「ミニステリウム」又「ミニステル」ノ名稱ナシ。內閣ハ屢々會議ヲ開クト雖ドモ君主

ノ臨席アルナク、又形式ノ一定スルナシ。內閣員ハ皆參會スルモノノ如クナレドモ、會議ニ付筆記若クハ公文書ヲ遺スコトナシ。又其會議ノ機密ナル其第二等ノ內閣員ニモ秘スルコトアリ。內閣會議ハ內閣員一名ノ招キニ依リ開キ、其度數ハ一週ニ一回若クハ二三回トス。巴拉門開會中ハ數回集會スルアルモ、其閉會ノ後ハ久シク休憩スルヲ例トス。而テ內閣ノ議決シタル事項ハ主務大臣之ヲ君主ニ奏上シタル後直ニ實施ノ手續ヲナスコトアリ。又ハ之ヲ樞密院ニ廻布スルコトアリ。若シ法律上樞密院ノ議決ヲ要スルトキハ其會議ニ於テ議決ス。然レドモ此會議タル樞密院ノ名アレドモ其實之ニ參會スルモノハ數多ノ大臣其他二三ノ樞密議員及筆記官ニ過ギズ。故ニ曾テ內閣ニ於テ議決セラレタル事項ハ爰ニ於テ名義上樞密院ノ議決トナリ形式上ノ制可ヲ得ルノミ（重大ナル議事ニハ君主臨席ス）

グナイスト氏ハ次デ政府更迭ノ實際ヲ論述シ、一更迭アル每ニ政府及宮內ノ高官中六十有餘ハ其職ヲ退クコトヲ說明シ左ノ點ニ論及セリ。

此ノ如ク大臣及官吏ヲ一時ニ更迭スルノ主意ハ素ト國家ノ意思ヲ統一スルニアリ。凡ソ議院政府ハ國家ト社會トノ間ニ立チ、上ハ王家下ハ政權ヲ有スル人民ニ對スルヲ以テ、其關係ノ變更スルニ從ヒ解散セザルベカラザルモノナレバ、既ニ第十八世紀以來施政ノ主義ニ付同意ヲ表スル所ノ名士ヨリ內閣ヲ組織シ、以テ巴拉門ノ兩院ニ對シ多數ヲ得ンコトヲ務メタリ。是レ實驗ヨリ生ズル所ノ結果ナリ。故ニ所謂「コアリシオン」ナルモノハ決シテ永續セザルベシ。若シ異說ノ徒ヲ以テ內閣ヲ組織スルトキハ、國家ノ諸機關ハ全ク運轉ヲ止ムルニ至ルベシ。然リ而テ議院政治ナルモノハ軍務財務及裁判警察教會ニ關スル政務並ニ郡區町村ノ政務等全ク完備獨立シ、政府ノ更迭ニ由リ變更ヲ來サヾルニ至リ始テ發達スベキモノナリ。故ニ英國政府ノ更迭アルモ法律新案、財務殖民及外交政略ニ付テハ變更ヲ來スモ、決シテ現法ノ解釋及適用ヲ變更スルニ至ラズ

是ニ由リ之ヲ觀レバ英國內閣長ノ內閣員ニ對スル關係ハ普國墺地利巴威瓦敦堡索遜佛國ノ組織ト全ク異ナリ、英國內閣長ハ內閣員ニ對シ法律上特種ノ地位ヲ保チ、而テ內閣ハ合議體ノ性質ヲ有セリ。獨逸帝國ノ宰相ハ各部長ニ對シ猶ホ强大ナル權力ヲ有セリ。此部長ハ尙書ノ稱號ヲ有スレドモ其實各部大臣ニ異ナルナシ。

大公國メツクレンブルグ、シウエリン及メツクレンブルク、ストレリツツノ官省組織ニ付キヲツトー、ビツチング氏ノ國家學ヨリ拔涉スルコト左ノ如シ。

メツクレンブルグ、シウエリン現時ノ官制ハ一千八百四十八年ニ於テ始テ成ルモノニシテ、其以前ハメツクレンブルグ、ストレリツツノ現今組織ニ異ナラザリキ。

メツクレンブルグ、シウエリン國ハ憲法及之ニ關スル政令（千八百四十九年十月十日制可）ヲ以テ官省ヲ組織セリ。其後國會議員ハ該憲法ト共ニ政令ノ廢止ヲ請求スルニ當リ、國主ハ國會議員ノ官衙ノ組織ニ干涉スルハ憲法ノ許サヾル所、且政府ノ組織ニ關スル百般ノ政令ハ其裁斷ニ屬スルトノ理由ヲ以テ之ヲ却ケタリ。而テ彼ノ政令ヲ改正シ更ニ一千八百五十三年四月四日ノ政令（大半ハ今日猶行ル）ヲ制定スルト雖ドモ、之ヲ國會ノ議ニ付セズシテ頒布セリ。然レドモ官省ノ性質ハ憲法ノ廢止ニ因リテ大ニ變更ヲ來セリ。卽チ官省ハ憲法ノ行ハルルノ間ハ獨立ノ責任ヲ有スル官廳タリシモ、此法廢止ニ屬スルニ至リ獨リ、國君ニ對シテ責任ヲ有シ、且國主ノ職務ニノミ奉事スレバ國法上他ノ官衙ト更ニ差異ナシ。

該國ニハ外務、內務、大藏、司法ノ四省アリ、其長官ハ內閣ニ於テ同僚ヲ以テ相對視シ反省ノ範圍內ニ於テハ國君ノ政治ヲ輔佐シ、且其最高行政官タリ。獨リ外務長官ニ至リテハ行政上ノ事務ヲ負ハズ、曾テ軍事上ノ行政外務省ニ屬シタルコトアルモ其後軍務省ノ設ケアリ、其所轄ニ歸セリ。

內閣ハ各省ノ長官（議官）ヨリ成リ、而テ其總理者ハ國君自ラ之ヲ爲シ、或ハ各員中ヨリ宰相（スタートツ）（大臣（ミニステル））一人ヲ撰デ之ニ充ツ。軍事上ノ會議ニ際シテハ軍事部ノ長官內閣ニ於テ上席ヲ占メ、且決議權ヲ有スルモ、其他ノ長官ハ國君ノ呼出アル場合ニ限リ會議ニ列シ協議スルヲ得ルノミ。

內閣ハ總テ法律起按ノ權ヲ有シ且國會ト直接ニ文書ヲ往復ス。

各長官ノ協議及決議ハ內閣ニ於テ之ヲ爲ス、五省及其各局ノ事務ニ付テハ各省便宜ニ會議々長官其決ヲ採ルモノトス。

メツクレンブルグ、ストレリツツ國ハ一ノ中央官廳ヲ設ケテ行政ノ全部ヲ管理ス。該廳ハノイストンリツツ府ニ在リ、內外ニ關スル總テノ事務ヲ施行ス。

大公國オルデンブルグノ總務省（ケヂシムトミニステリーウム）及各省ノ組織ニ付キベツケル國法中ヨリ左ノ件ヲ拔涉ス。

總務省ハ司法內務及大藏ノ三部ヨリ成リ、其他教會學校宮內及外國事務亦之ニ屬ス。而テ憲法法律政會叙任ノ如キ總務省若クハ國君ノ裁決ニ屬セザルモノニ限リ各省長官之ヲ獨斷ス。然レドモ若シ該長官ニ於テ之ヲ獨裁スルノ困難アルトキハ八日內ニ之ヲ總務省ヘ提出シテ其調査ヲ受ルコトヲ得、該國ニ於テハ參事院（スタートラート）ノ制ナシ。而テ國會ハ唯一院ヨリ成ル。

大公國ブラウンシワイヒニ付キア、ヲツトー著國法學ヨリ其官省組織ニ付キ拔涉スルコト左ノ如シ。

凡ソ國政ハ國主ヨリ委任セラレタル權內ニ於テ內閣員國主ノ名ヲ以テ執行シ、而テ國主之ヲ監督ス。該國ノ官廳ハ憲法ニ準據シ公國何々ノ稱號ヲ用ユ。行政官廳ハ二等（官省（ミニステリウム）及執行官廳（フオルツークスベヘルデ））ノ制ナリ。

一、內閣ハ國政ヲ指揮スル合議制ノ官廳ニシテ、三名以上ノ內閣員ヨリ成ル所ナリ。國主ハ己ノ意見ヲ以テ內閣員ヲ任免ス。各省ハ行政各部ノ機關ナリ（內閣ノ決議ハ他ノ法章ニ於テ別段ノ規定ナキ限リハ內閣員之ヲ議決ス。各省長官自ラ事務ヲ獨斷スルノ法ハ漸ク近年ニ始リ特ニ司法省ニ於テ最モ行ハル）右內閣員ハ國主ノ命令ヲ執行シ及自己ノ責任ヲ確明スル爲メ法律政令ニ副署ス。

二、法律ノ起按其他法律若クハ各場合ニ於テ國主ヨリ命ズベキ事項ニ付別段ノ委員ヲ置キ國主ノ顧問ニ供セリ。該委員ハ常置員ト臨時員トノ二部ニ分ル。或ハ長官之ヲ兼ネ或ハ國主其人ヲ指定ス。議事ハ其性質ニ從ヒ全部若クハ一部ノ委員之ヲ議決ス。

太公國巴丁各省組織ニ付キカセンケル該國々法中ヨリ拔涉スルコト左ノ如シ。

該國ハ一千八百八十一年官省ノ數ヲ減ジテ內務、司法、文部ノ三省トナセリ。其外省ノ所轄ニ屬セズシテ國主ノ直轄ニ屬スル檢査院アリ、該國各省ノ長官ハ其主管事項ニ付責任ヲ有ス。內閣ハ此三省長官ヨリ成リ國主之ヲ總理ス。內閣會議ニ國主親臨セザル時ハ議決ノ後之ヲ國君ニ奏上ス。凡ソ內閣ニ就テ議決スベキ事項ハ國會ニ提出スベキ議案租稅ニ關スル議案國主ノ詔令官衙ノ組織官吏ノ任免退隱其他緊要ナル行政上ノ指令、例ヘバ土地買上、公權ノ認許、行政裁判終審判決其他法律政令ヲ以テ、若クハ現行政法ノ原則ニ於テ大公ノ裁決ニ屬セザル事項トス。

各省長官ノ中一人ニ大臣ノ名號ヲ附シテ內閣ノ事務ヲ委任ス。該大臣ハ法律若クハ政令案行政裁判事項其他緊要ノ事項ヲ議セシムル爲メ、各省長官ノ外參事官及局長ヲ招集シ、議員ノ數ヲ增加スルヲ得。內務省ノ局長ハ一千八百八十三年以來內閣會議ニ參與スルコトトナレリ。該國ニハ參事院ノ制ナシ。右ノ如ク內閣ノ議員ヲ增加スルトキハ乃チ參事院ノ場合ニ當ルベシ。該國ノ國會ハ二院ヨリ成ル。

長谷川喬復命埃及國立會裁判所實況慣習取調書

此書ハ明治十九年十月十八日付ヲ以テ埃及國立會裁判所實況慣習取調ノ命ヲ受ケ乃チ同年十二月二十六日該國ヘ出張ノ上取調候廉々別冊ノ通リニ有之且該國司法省及控訴院裁判所等ヨリ寄贈セシ書籍別紙目錄ノ通リ之ヲ添ヘ一應及復命候也

明治二十年二月二十四日

控訴院評定官　長谷川　喬

司法大臣伯爵　山田顯義殿

添附書目錄

第一號　埃及國統計表　千八百八十四年分　一冊

第二號　埃及國統計表　千八百八十五年分　一冊

第三號　立會裁判所創設ニ關スルヌルバルバシヤノ報告書　一冊

第四號　埃及國立會裁判所法律　一冊

第五號　埃及國內國裁判所法律　一冊

第六號　立會裁判所創設ニ關スル各國條約書　一冊

第七號　立會裁判官撰任條約書　二葉

第八號　內國裁判所ニ外人雇聘條約書　一冊

第九號　埃及國王ノ決定書　一冊

第十號　長谷川喬復命埃及國立會裁判所實況慣習取調書　一葉

立會裁判所條約修正會議錄　二十四冊
第十一號　一
埃及國司法事務統計表　二冊
第十二號
裁判所構成ニ關スル規則　一冊
第十三號　二
カイロ裁判所分課表　一葉
第十四號
控訴院判決錄　十ノ冊
第十五號　一
書記及ビ使吏規則　一冊
第十六號　一
會計法　一冊
第十七號　一
民事裁判入費規則　一冊
第十八號　一
刑事裁判入費規則　一冊
第十九號　一
立會裁判所處務規定　一冊
第二十號　一
埃及國土地ニ關スル法律　一冊
第二十一號　三
埃及國人事及相續ニ關スル法律　一冊
以上　一冊

復命書第　號

第一章　埃及國總論

埃及國ハ亞弗利加洲ノ東北隅ヲ占メ「スエヅ」ノ堀割ヲ以テ亞細亞洲ト全ク其地脈ヲ絶ツ、而

シテ歐洲トハ地中海ヲ以テ相隔離シ、其東ハ紅海ニ接シ西ハ則チ有名ナル大沙漠ナリ。

此國ヲ經過スル「ナイル」河ノ長キコト五百三十英里、而シテ全國地積四分ノ三ハ岩石又ハ沙漠ニシテ耕地及ビ人民ノ住居ス可キ地ハ則チ僅ニ四分ノ一ニ過ギズト云フ。

抑モ埃及國ハ土耳格帝國ノ配下ニ在リシト雖モ、千八百四十一年以來漸次獨立ノ位置ヲ占メ、千八百六十七年ニ至リ「ケデーブ」ナル土耳格ノ名稱ヲ以テ遂ニ埃及國ノ王位ニ卽ケリ。卽チ現今ニ在テハ土耳格ニ對シ單ニ若干ノ貢金ヲ拂フニ過ギズ。然レドモ權利ヲ得ル每ニ貢金ヲ增加シ其額遂ニ七十萬磅ニ達セシト云フ（土耳格在留米國公使ヨリ本國政府ニ送リタル書翰ニ依レバ千八百七十三年六月九日土耳格帝ヨリ埃及國王ニ送リタル書翰ハ埃及國ヲシテ獨立シテ外國ト條約ヲ結ブ可キ權利ヲ許諾シタルコト明ナリトアリ是則チ米國ガ埃及國ト立會裁判所ノ條約ヲ結ビタルニ當リ直接ニ之ヲ行フタル所以ナリ一本ニ依レバ土耳格帝ノ書翰ハ六月八日付トアリ且該書翰ニ依リ同時ニ軍人ニ保ツルノ允可ヲ得タリ）

人口ハ六百八十萬餘之ヲ古代ニ比スレバ或ハ少シク增加セシモノヽ如シト云フ。

行政區ヲ分テ八府十四縣トナス。卽チカイロ、アレキサンドリヤ、ポールサイド、スエヅ外四ケ所ヲ府トシ、ベヘラ外十二ケ所ヲ縣トス。

國政ハ大臣ノ責任ニシテ外務大臣兼司法大臣ヲ以テ議長トナシ、左ノ四大臣ト共ニ內閣ヲ組織ス。

一　大藏大臣

二　陸軍海軍兼內務大臣

三　工務大臣

四　教部大臣

千八百八十三年五月一日付ノ法律ヲ以テ國會ヲ開設セリ。然レドモ其後直ニ之ヲ廢止セリト云フ（聞ク所ニ依レバ某國ノ總領事館建築費ニ付議院ハ其支出ヲ拒ミタルニ原由スト云フ）

千八百八十三年埃及國ノ輸入額ハ八百五十九萬六千九百七十六磅ニシテ、輸出額ハ千二百三十萬九千八百八十五磅ナリ。

鐵道ノ里數ハ千二百七十六英里、而シテ政府ニ屬スル電信線ハ二千七百〇七英里、東方電信會社ニ屬スル線路ハ四百四十五英里（千八百八十四年調）ナリ。

夫レ埃及國ヲシテ身代限ノ有樣ニ至ラシメタルモノハ種々ノ原因ニ基クト雖モ、過分ノ土工ヲ起シタルモノ其一因ナリ。就中スエヅ運河ノ開鑿ニ付テハ埃及國ノ負擔スベキ割合千萬磅ニシテ、其重キ固ヨリ國力ノ耐ユル所ニ非リキ。故ニ三百五十萬磅ノ株券ハ其後之ヲ英國ニ賣却セリ。其他土工ノ大ナルモノハ「アレキサンドリア」及ビ「スエヅ」ノ築港及ビ數ケ所ノ鐵道建設ナリ。卽チ千八百六十三年（先代イスマイル、パシヤノ時）ニ在テハ鐵道ノ里數二百四十五英里ニ過ギザルト雖モ、千八百七十九年ニ至テハ已ニ千英里以上ニ達シ、千八百八十四年ニ於テハ其長サ千二百七十六英里ニ至リタルコト上ニ述ブル所ノ如シ。